平成２６年度第１回
袖ケ浦市子ども・子育て支援会議次第

日　時　平成２６年５月１９日（月）
午後３時から
場　所　市役所旧館３階大会議室

１　開　会

２　委員長挨拶

３　福祉部長挨拶

４　委員紹介

５　職員紹介

６　議　題

（１）子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告

（２）子ども・子育て支援事業計画策定についての概要及び教育・保育提供区域

（３）子ども・子育て関連３法に基づく市条例制定の概要

（４）その他

７　閉　会

資料　1

袖ケ浦市

子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査報告書

平成 26 年３月

千葉県　袖ケ浦市

目　　次

第１章　調査実施の概要 3
１　調査の目的 3
２　調査の設計 3
（１）調査対象者等 3
３　調査の実施方法と配布・回収状況 3
（１）調査期間と調査方法 3
（２）調査の配布・回収状況 4
４　調査項目 4
５　報告書の見方について 5
（１）年齢の定義 5
（２）報告書の見方 5
６　調査結果のまとめ 6
７　地区別でみる地域特性等 9
８　調査結果からみた課題 15
９　調査対象者の属性・家族状況 16
（１）対象者の属性 16
（２）居住地域の状況 18
（３）調査回答者の状況と配偶者有無 19

第２章　子育て家庭を取り巻く環境 23
１　子育ての環境について 23
（１）主な保育者と親族等協力者の状況 23
（２）子育てに関する相談者の状況 28
２　保護者の就労状況 30
（１）父親の就労状況 30
（２）母親の就労状況 36

第３章　子育て支援サービスの現状と今後の利用希望 45
１　平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望 45
（１）平日の定期的な教育・保育事業（全体） 45
（２）幼稚園 50
（３）幼稚園の預かり保育 53
（４）定期的な教育・保育の利用理由と未利用の理由 56
（５）休日の教育・保育事業の利用意向 57
（６）病児・病後児保育事業の潜在ニーズ 62
２　地域の子育て支援事業の現状と今後の利用意向 67
（１）地域子育て支援拠点事業の利用について 67
（２）不定期の一時保育の利用について 70
（３）宿泊を伴う一時保育の利用について 76
３　放課後の過ごし方について 79
（１）平日の放課後の過ごし方について 79
（２）土曜・休日の放課後児童クラブ利用について 84
（３）長期休暇期間中の放課後児童クラブ利用について 86
４　子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について 88

第４章　育児休業制度の利用状況.....**91**
１　育児休業制度の利用状況.....91
２　地域の子育て支援の環境や支援への満足度.....99

資料編

１　「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査票」の見本 103

第 1 章
調査実施の概要

第１章　調査実施の概要

１　調査の目的

平成 24 年８月に、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる社会の実現に寄与することを目的とする「子ども・子育て支援法」が成立し、新しい「子ども・子育て支援制度」が始まります。

新しい制度では、これまで以上に安心して子どもを生み育てられる環境を整備していくために「質の高い幼児期の学校教育・保育の一体的な提供」や「地域における子育て支援の充実」「保育の量的拡大」を図る必要があることから、幼児期の学校教育や保育、子育て支援などに関するニーズを把握し、適切なサービスの確保を行うことを目的とした事業計画の策定が自治体に義務化されました。

そのため、袖ケ浦市は、子ども・子育て支援法の基本理念や子ども・子育ての意義を踏まえて、今後５年間の事業計画を作成することになりました。このような状況により、事業計画の策定に必要な情報を得るため、子育て家庭ニーズの動向分析等を行い、市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題を整理することを目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

２　調査の設計

（１）調査対象者等

図表 1.1　調査対象者等

調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査」		
	調査対象者	就学前児童を持つ保護者
	調査件数	2,000 件
	調査内容	家庭等の子育て環境、保護者の就労状況、定期的な教育・保育事業の現状・利用意向、地域の子育て事業の現状・利用意向、育児休業の現状・利用意向等に関する設問

３　調査の実施方法と配布・回収状況

（１）調査期間と調査方法

調査期間：平成 25 年１１月３０日～平成２５年１２月２７日

調査方法：郵送方式により調査票を配布・回収

（２）調査の配布・回収状況

調査は、昭和地区、蔵波地区、長浦地区、根形地区、平岡地区、中川・富岡地区の６地区に分類し実施しました。

図表 1.2　調査票の配布・回収状況

区　分	就学前児童の保護者		
	配布数	回収数	回収率
市全域	2,000 人	1,108 人	55.4%
昭和地区	720 人	355 人	49.3%
蔵波地区	540 人	298 人	55.2%
長浦地区	340 人	204 人	60.0%
根形地区	160 人	81 人	50.6%
平岡地区	120 人	59 人	49.2%
中川・富岡地区	120 人	64 人	53.3%
その他		35 人	
無回答		12 人	

４　調査項目

（１）お子さんとご家族の状況について
（２）お子さんの育ちをめぐる環境について
（３）保護者の就労状況について
（４）お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について
（５）お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について
（６）お子さんの土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望について
（７）お子さんの病気の際の対応について
（８）お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について
（９）お子さんが５歳以上の方に、放課後の過ごし方の希望について
（10）育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

５　報告書の見方について

（１）年齢の定義

就学前児童の年齢定義は、ニーズ調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

図表 1.3　ニーズ調査における年齢定義

年齢区分	該当する生年月
０歳児	平成２４年４月以降
１歳児	平成２３年４月～平成２４年３月
２歳児	平成２２年４月～平成２４年３月
３歳児	平成２１年４月～平成２２年３月
４歳児	平成２０年４月～平成２１年３月
５歳児	平成１９年４月～平成２０年３月

（注）調査期間【平成 25 年度】における年齢定義

（２）報告書の見方

- 回答結果は、有効サンプル数に対して、小数点第２位を四捨五入したそれぞれの割合を示しています。そのため単数回答（複数の選択肢から１つの選択肢を選ぶ方式）、複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）において合計値が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表の（ｎ）数は集計対象者数、（ＳＡ）は単数回答の設問、（ＭＡ）は複数回答の設問、（ＮＡ）は数量による設問を表しています。

６　調査結果のまとめ

■子育てを取り巻く環境（第２章）

日常的に子育てに関わっている方をみると「父母ともに」56.6%となっており、共働き家庭が増加していることから父母ともに子育てに関わっていることが伺えます。

主な親族等協力者の状況では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 59.7%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 31.6%となっています。

特に『中川・富岡地区』は、日常的に祖父母等の親族にみてもらえる家庭が、48.4%と２人に１人となっています。一方、「子どもをみてもらえる親族・知人がいずれもいない」と回答しているのは 12.0%となっており、地区でみると『長浦地区』で 18.6%と多くなっています。

母親の就労状況をみると「以前は就労していたが、現在は就労していない」と回答した人が 43.1%と最も多く、就労を継続している方は「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護・その他休業中ではない」が 21.4%、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護・その他休業中でない」が 20.5%で約４割となっています。地区でみると『中川・富岡地区』では、フルタイム、パート・アルバイトをあわせると５割を超えています。

就労していない母親の 65.7%は就労意向をもっており、１年以内が 16.9%、１年以降が 48.8%となっています。このように就労意向をもつ母親が増加している状況から、教育・保育施設の充実が求められています。

■子育て支援サービスの現状と今後の利用希望（第３章）

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が 65.3%、「利用していない」が 34.0%となっています。今後の利用希望（利用していない方も含む）の伸びをみると、「幼稚園の預かり保育」が 23.0%で 19.1 ポイント増、「幼稚園」が 61.6%で 13.4 ポイント増、また利用実績がない「認定こども園」が 14.0%の利用希望となっています。

平日の教育・保育事業として定期的に利用したい事業は、地区でみると幼稚園は『根形地区』の 64.2%、幼稚園の預かり保育は『昭和地区』の 27.3%、認可保育所は『中川・富岡地区』の 56.3%、認定こども園は『平岡地区』の 18.6%などの利用希望が最も多く、各地区で利用したい事業が異なっています。

教育・保育の実施場所は、利用状況では「袖ケ浦市内」が 85.2%、希望実施場所では「袖ケ浦市内」が 92.7%と 7.5 ポイント増加しています。

土曜日、日曜・祝日の利用希望では、「月１～２回は利用したい」は土曜日が24.1%、日曜・祝日が 16.0%、「ほぼ毎週利用したい」は土曜日が 8.3%、日曜・祝日が 2.3%となっています。

病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことは「あった」が 71.8%となっています。この１年間の対処方法は、「母親が仕事を休んでみた」が 56.5%で最も多くなっています。父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設の利用意向は、26.5%となっています。

地区別にみると病気やケガで通常の事業が利用できなかったことの有無は、「あった」は『中川・富岡地区』の 76.2%が最も多く、最も少ない『平岡地区』の61.9%とは 14.3 ポイントの差となっています。

地域の子育て支援拠点事業の利用状況は、11.0%と低率に留まっていますが、今後の利用意向では、「利用していないが利用したい」が 33.5%と増加傾向にあります。この事業には子育て支援の相談機能もあり気軽に相談できる環境が整っているため、利用者が多くなれば子育て中の保護者同士の交流や相談相手として十分な役割を担うことができます。

放課後の過ごし方の希望（５歳児）をみると、小学校低学年（になった場合）の過ごし方では「自宅」が 62.4%、「塾や習い事」が 45.7%、「放課後児童クラブ（学童保育）」が 30.3%となっています。小学校高学年（になった場合）の過ごし方は「自宅」が 63.8%と大きく変わりませんが、「放課後児童クラブ（学童保育）」が 19.9%で 10.4 ポイント、「放課後子ども教室」が 17.2%で 5.0 ポイント減少し、その減少分が「塾や習い事」へ移行していると考えられます。また、土曜日の利用希望は、「低学年の間は利用したい」が 26.7%、「高学年になっても利用したい」が 12.0%という希望もあります。

地区別にみると小学校低学年（になった場合）の過ごし方で「自宅」は『中川・富岡地区』（78.6%）、「塾や習い事」は『長浦地区』（56.3%）、「放課後児童クラブ（学童保育）は『根形地区』（38.5%）が最も多くなっています。

子育て支援事業の周知度をみると、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」（79.8%）、「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」（77.8%）と高く、利用状況も 40%台となっています。また今後の利用意向をみると「保育所や幼稚園の園庭等の開放」（56.0%）、「すくすく子育てブック」（54.3%）が５割を超え、他事業も利用状況からみると多くなっていることから、情報を得る手段や正しい情報を得たいということが伺えます。将来的な利用率を高めるためにも保護者に対してわかりやすく身近なところで情報を得る工夫などの周知度を高める検討が必要です。

■育児休業制度の利用状況（第４章）

育児休業制度の利用状況は、母親が「働いていなかった」が 54.5%、「取得した（取得中である）」は母親が 30.4%で約３割、父親は 3.2%となっています。職場の雰囲気や理解が必要なため、仕事と家庭の両立をめざす啓発であると考えられます。

育児休業給付と社会保険料免除の仕組みの周知状況をみると「育児休業給付と社会保険料免除のいずれも知らなかった」が 36.9%でいずれも知っていた 31.3%を上回っています。すべての母親に情報格差がでないような提供の仕組みが必要です。

育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由をみると、母親は「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が 35.0%、「希望する保育所に入るため」32.9%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 28.7%となっています。一方、育児休業から「希望」より遅く職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所に入れなかったため」が 61.5%で最も多くなっています。

職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親が 38.5%の利用となっています。

職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由をみると、母親は「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 64.7%、「仕事が忙しかった」が 47.1%、「短時間勤務になると給与が減額される」が 36.5%となっています。

産後の休業及び育児休業後における特定教育・保育施設等の円滑な確保とワーク・ライフ・バランスの推進が求められています。

7　地区別でみる地域特性等

①　昭和地区

項目	地域特性等
子育て家庭環境	○子育てを主に行っている方は「父母ともに」が 60.0%で市平均より 7.1 ポイント高く、他地区に比べて最も多くなっています。 ○主な親族等協力者として「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 60.3%、みてもらえる親族や知人が「いずれもいない」が 11.3%と市平均より 0.7 ポイント低くなっています。
母親の就労状況	○母親はフルタイムが 22.8%で市平均より１.4 ポイント高く、パート･アルバイト等の 18.9%をあわせると 41.7%が就労しています。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は 63.9%で根形地区に次いで少ない状況です。 ○定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が 62.3%「認可保育所」が 51.5%でいずれも市平均を上回っています。また、「幼稚園の預かり保育」の 27.3%と「事業所内保育施設」の 12.4%は他地区に比べてともに最も多くなっています。 ○「認定こども園」は、14.4%で市平均より 0.4 ポイント高くなっています。 ○幼稚園利用者の長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望は、「休みの期間中、週に数日利用したい」が 40.0%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 13.9%となっており、利用希望は半数を超えています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 74.9%で、その対処方法は 54.7%が「母親が仕事を休んでみた」となっています。 ○地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 36.3%で他地区に比べ最も多くなっています。 ○不定期な一時保育の利用状況は、「幼稚園の預かり保育」が 9.3%、「一時預かり」が 8.5%と低率となっていますが、私用、リフレッシュ目的や冠婚葬祭などでの利用希望は 41.4%と多くなっています。 ○平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）は、「自宅」が 69.6%で最も多くなっています。また、「放課後児童クラブ」の 26.8%や「放課後子ども教室」の 19.6%を「その他（公民館、公園など）」が 28.6%で上回っており、他地区と比べても最も多くなっています。高学年での「放課後児童クラブ」は 17.9%となっています。
居住地域における子育て環境や支援への満足度	○「満足」3.9%と「満足度がやや高い」23.4%であわせると 27.3%となり、他地区に比べると最も低くなっています。

② 蔵波地区

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	○子育てを主に行っている方は「父母ともに」が 53.4%で昭和地区に次いで多くなっています。 ○主な親族等協力者として「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 62.8%で、他地区に比べ最も多くなっています。みてもらえる親族や知人が「いずれもいない」は 9.4%で中川・富岡地区に次いで低くなっています。
母親の就労状況	○母親はフルタイムが 19.5%で市平均より１.9 ポイント低いが、パート・アルバイト等が 24.2%で市平均をより 3.7 ポイント高くなっており、あわせると 43.7%が就労しています。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は 67.8%で平岡地区に次いで多い状況です。 ○定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が 62.4%で市平均より 0.8 ポイント高いが「認可保育所」は 43.6%で市平均より 4.1 ポイント低くなっています。また、「幼稚園の預かり保育」が 22.5%、「事業所内保育施設」が 8.7%となっています。 ○「認定こども園」は、14.4%で市平均より 0.4 ポイント高くなっています。 ○幼稚園利用者の長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望は、「休みの期間中、週に数日利用したい」が 41.2%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 5.9%となっており、利用希望は 47.1%となっています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 72.3%で、その対処方法は 58.2%が「母親が仕事を休んでみた」となっており、市平均より 1.7 ポイント高くなっています。 ○地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 31.9%で市平均より 1.6 ポイント低くなっています。 ○不定期な一時保育の利用状況は、「幼稚園の預かり保育」が 7.0%、「一時預かり」が 6.4%と低率となっていますが、私用、リフレッシュ目的や冠婚葬祭などでの利用希望は 31.2%となっています。 ○平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）は、「自宅」が 63.0%で最も多くなっています。また、「放課後児童クラブ」は 32.9%で市平均より 2.6 ポイント高くなっています。
居住地域における子育て環境や支援への満足度	○「満足」2.0%と「満足度がやや高い」28.2%であわせると 30.2%となり、市平均より 0.7 ポイント高くなっています。

③　長浦地区

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	○子育てを主に行っている方は「主に母親」が 49.5%で最も多く、市平均より 4.9 ポイント高くなっています。 ○主な親族等協力者として「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 22.1%で市平均より 9.5 ポイント低く、他地区に比べ最も低くなっています。また、みてもらえる親族や知人が「いずれもいない」は 18.6%で市平均より 6.6 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。
母親の就労状況	○母親はフルタイムが 24.0%で市平均より 2.6 ポイント高く、他地区と比べて最も高くなっています。パート・アルバイト等は 16.2%で市平均をより 4.3 ポイント低くなっており、あわせると 40.2%が就労しています。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は 67.6%で市平均より 2.3 ポイント高い状況です。 ○定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が 59.3%で市平均より 2.3 ポイント低く、「認可保育所」も 43.1%で市平均より 4.6 ポイント低くなっています。また、「ファミリー・サポート・センター」が 9.3%で他地区と比べ最も多くなっています。 ○「認定こども園」は、10.3%で市平均より 3.7 ポイント低くなっています。 ○幼稚園利用者の長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望は、「休みの期間中、週に数日利用したい」が 35.3%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 10.3%となっており、利用希望は 45.6%となっています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 73.9%で、その対処方法は 55.9%が「母親が仕事を休んでみた」となっています。 ○地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 33.3%ですが、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」は 57.8%で市平均より 5.1 ポイント高く、他地区に比べて最も高くなっています。 ○不定期な一時保育の利用状況は、「一時預かり」が 7.4%「幼稚園の預かり保育」が 6.9%と低率となっていますが、私用、リフレッシュ目的や冠婚葬祭などでの利用希望は 34.3%となっています。 ○平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）は、「自宅」が 50.0%で市平均より 12.4 ポイント低く、他地区に比べ最も低くなっています。また、「塾や習い事」が 56.3%で市平均より 10.6 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。「放課後児童クラブ」は 33.3%で市平均より 3.0 ポイント高くなっています。
居住地域における子育て環境や支援への満足度	○「満足」7.4%と「満足度がやや高い」24.0%をあわせると 31.4%となり、市平均より 1.9 ポイント高くなっています。

④　根形地区

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	○子育てを主に行っている方は「主に母親」「父母ともに」が各48.1%となっています。 ○主な親族等協力者として「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の 53.1%は他地区に比べ最も低いが、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」は 42.0%で市平均より 10.4 ポイント高く、他地区に比べ中川・富岡地区に次いで高くなっています。また、みてもらえる親族や知人が「いずれもいない」は 11.1%で市平均より 0.9 ポイント低くなっています。
母親の就労状況	○母親はフルタイムが 18.5%で市平均より 2.9 ポイント低く、他地区と比べて最も低くなっています。パート・アルバイト等は 18.5%で市平均をより 2.0 ポイント低くなっており、あわせると 37.0%の就労割合は他地区に比べ最も低くなっています。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は 63.0%で市平均より 2.3 ポイント低く、他地区に比べ最も低くなっています。 ○定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が 64.2%で市平均より 2.6 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。「認可保育所」も 54.3%で市平均より 6.6 ポイント高くなっています。 ○「認定こども園」は、16.0%で市平均より 2.0 ポイント高くなっています。 ○幼稚園利用者の長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望は、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」方はいないが、「休みの期間中、週に数日利用したい」が 59.3%で市平均より 18.6 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 62.7%で、その対処方法は「就労していない保護者がみた」が 46.9%で市平均より 8.1 ポイント高く、他地区に比べると最も高くなっています。 ○地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 29.6%で市平均より 3.9 ポイント低くなっています。 ○不定期な一時保育の利用状況は、「一時預かり」「幼稚園の預かり保育」が各 7.4%と低率となっていますが、私用、リフレッシュ目的や冠婚葬祭などでの利用希望は 44.4%で他地区に比べ最も多くなっています。 ○平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）は、「自宅」が 61.5%、「放課後児童クラブ」は 38.5%で市平均より 8.2 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。
居住地域における子育て環境や支援への満足度	○「満足」2.5%と「満足度がやや高い」32.1%をあわせると34.6%となり、他地区に比べ最も高くなっています。

⑤　平岡地区

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	○子育てを主に行っている方は「父母ともに」が 49.2%、「主に母親」が 47.5%となっています。 ○主な親族等協力者として「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 59.3%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の 40.7%は市平均より 9.1 ポイント高くなっています。また、みてもらえる親族や知人が「いずれもいない」は 10.2%で市平均より 1.8 ポイント低くなっています。
母親の就労状況	○母親はフルタイムが 20.3%で市平均より 1.1 ポイント低く、パート・アルバイト等は 28.8%で市平均をより 8.3 ポイント高くなっており、あわせると 49.1%の就労割合は他地区に比べ、中川・富岡地区に次いで高くなっています。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は 71.2%で市平均より 5.9 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。 ○定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が 57.6%で市平均より 4.0 ポイント低くなっています。「認可保育所」は 50.8%で市平均より 3.1 ポイント高くなっています。 ○「認定こども園」は、18.6%で市平均より 4.6 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。 ○幼稚園利用者の長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望は、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」方はいないが、「休みの期間中、週に数日利用したい」が 38.5%、「利用する必要はない」が 61.5%で市平均より 14.8 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 61.9%で他地区に比べ最も低く、その対処方法は「母親が仕事を休んでみた」が 65.4%で市平均より 8.9 ポイント高くなっています。また、「親族・知人に子どもをみてもらった」では 26.9%で市平均より 9.3 ポイント低く、他地区に比べ最も低くなっています。 ○地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 28.8%で市平均より 4.7 ポイント低く、他地区に比べ最も低くなっています。 ○不定期な一時保育の利用状況は、「一時預かり」が 6.8%、「幼稚園の預かり保育」が 3.4%と低率となっています。私用、リフレッシュ目的や冠婚葬祭などでの利用希望は 28.8%で他地区に比べ最も低くなっています。 ○平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）は、「自宅」が 61.5%、「放課後児童クラブ」は 15.4%で市平均より 14.9 ポイント低く、他地区に比べ最も低くなっています。
居住地域における子育て環境や支援への満足度	○「満足」6.8%と「満足度がやや高い」22.0%をあわせると 28.8%となり、他地区に比べ最も低くなっています。

⑥　中川・富岡地区

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	○子育てを主に行っている方は「父母ともに」が 37.5%で市平均より 15.4 ポイント低く、「主に母親」は 54.7%で市平均より 10.1 ポイント高くなっています。 ○主な親族等協力者として「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 54.7%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の 48.4%は市平均より 16.8 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。また、みてもらえる親族や知人が「いずれもいない」は 7.8%で市平均より 4.2 ポイント低く、他地区に比べ最も低くなっています。
母親の就労状況	○母親はフルタイムが 20.3%で市平均より 1.1 ポイント低く、パート・アルバイト等は 31.3%で市平均をより 10.8 ポイント高くなっており、あわせると 51.6%の就労割合は他地区に比べ最も高くなっています。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は 65.6%で市平均より 0.3 ポイント高くなっています。 ○定期的に利用したい平日の教育・保育は「認可保育所」が 56.3%で市平均より 8.6 ポイント高くなっています。「幼稚園」は 53.1%で市平均より 8.5 ポイント低くなっています。 ○「認定こども園」は、12.5%で市平均より 1.5 ポイント低くなっています。 ○幼稚園利用者の長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望は、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 14.3%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が 57.1%であわせると 71.4%となり、他地区に比べ最も高くなっています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 76.2%で他地区に比べ最も高く、その対処方法は「母親が仕事を休んでみた」が 65.6%で市平均より 9.1 ポイント高くなっています。また、「親族・知人に子どもをみてもらった」では 43.8%で市平均より 7.6 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。 ○地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 29.7%で市平均より 3.8 ポイント低くなっています。 ○不定期な一時保育の利用状況は、「一時預かり」が 10.9%、「幼稚園の預かり保育」が 3.1%と低率となっています。私用、リフレッシュ目的や冠婚葬祭などでの利用希望は 39.1%で市平均より 3.1 ポイント高くなっています。 ○平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）は、「自宅」が 78.6%で市平均より 16.2 ポイント高く、「放課後児童クラブ」「放課後子ども教室」は各 35.7%となっています。
居住地域における子育て環境や支援への満足度	○「満足」3.1%と「満足度がやや高い」28.1%をあわせると 31.2%となり、市平均より 1.7 ポイント高くなっています。

８　調査結果からみた課題

○就業していない母親の就労希望ニーズは高く、就労希望時期や就業形態などのニーズは多様であり、これらの希望に対応する就労支援の充実が求められています。

○日常的に子どもをみてもらえる家庭は３割程度となっていますが、日常的、もしくは緊急時に子どもをみてもらえない家庭が１割を超えており、親族や友人・知人以外に支援を受けやすくする必要があります。

○平日の定期的な教育・保育の利用希望は、幼稚園、認可保育所、幼稚園の預かり保育や認定こども園、事業所内保育施設など多様なニーズがみられます。また、土曜・日曜・祝日や長期休暇中の利用意向への対応の検討も必要です。

○地域子育て支援拠点事業については、利用者が１割程度であるため、事業の周知・情報提供が必要です。また、地域子育て支援事業の認知度は比較的高いですが、利用状況は、事業によってばらつきがあるため、周知・情報提供により今後の利用意向の高まりが期待されます。

○子どもの病気やケガの際は、母親や父親が仕事を休んで対応していることも多く、病児・病後児保育の検討が必要とされています。

○一時保育事業の利用希望は高く、私用やリフレッシュ目的、その他行事、不定期の就労など目的は多様です。幼稚園や保育所等での預かりの希望が高く、事業の提供体制の整備が必要です。

○放課後の過ごし方の意向は、成長段階により異なっていますが、放課後児童クラブの質の充実など地域の居場所として子どもたちが安全に過ごすことができる環境整備が求められています。

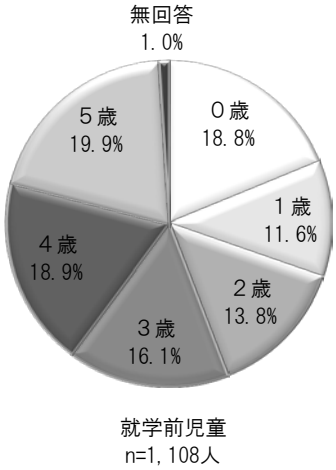
○育児休業からの職場復帰については、現状では希望の時期に復帰できない人が多く、低年齢児の保育受入れ体制の整備とともに、企業等における子育て支援制度の充実や職場の意識啓発が必要となっています。

９　調査対象者の属性・家族状況

（１）対象者の属性

年齢は、「５歳」（19.9%）最も多く、次いで「４歳」（18.9%）、「０歳」（18.8%）となっています。

問２　年齢（ＳＡ）



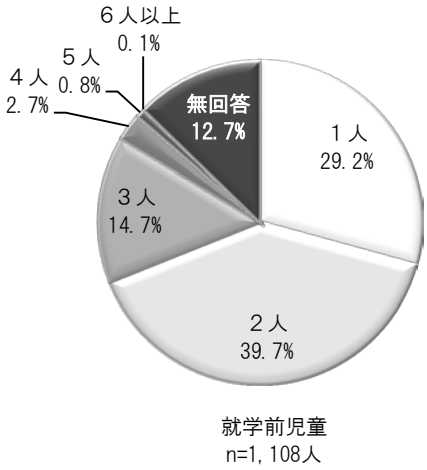
問2　年齢　　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川 富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
0歳	208	74	52	36	13	8	7	14	4
	18.8	20.8	17.4	17.6	16.0	13.6	10.9	40.0	33.3
1歳	128	58	34	16	5	5	3	5	2
	11.6	16.3	11.4	7.8	6.2	8.5	4.7	14.3	16.7
2歳	153	44	40	28	14	6	16	4	1
	13.8	12.4	13.4	13.7	17.3	10.2	25.0	11.4	8.3
3歳	178	49	49	34	16	14	12	2	2
	16.1	13.8	16.4	16.7	19.8	23.7	18.8	5.7	16.7
4歳	209	70	50	40	18	11	11	7	2
	18.9	19.7	16.8	19.6	22.2	18.6	17.2	20.0	16.7
5歳	221	56	73	48	13	13	14	3	1
	19.9	15.8	24.5	23.5	16.0	22.0	21.9	8.6	8.3
無回答	11	4	0	2	2	2	1	0	0
	1.0	1.1	0.0	1.0	2.5	3.4	1.6	0.0	0.0

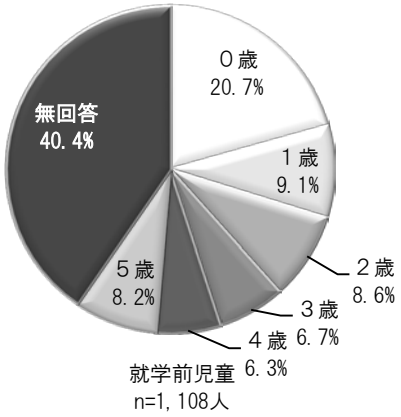
子どもの人数は、「２人」（39.7%）が最も多く、次いで「１人」（29.2%）、「３人」（14.7%）となっています。

末子の年齢は、「０歳」（20.7％）が多くなっています。

問３　子どもの人数（ＳＡ）



問 3.1　末子の年齢（ＳＡ）



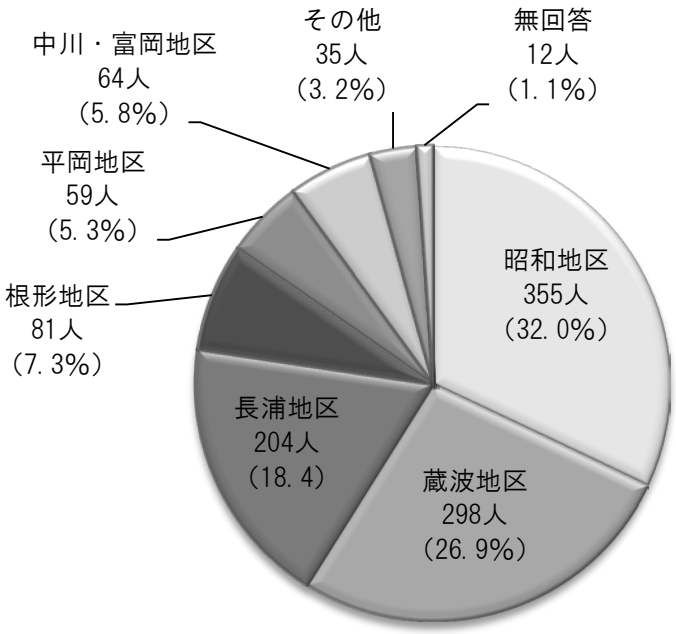
問3　兄弟数　　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
1人	324	99	82	75	17	13	16	16	6
	29.2	27.9	27.5	36.8	21.0	22.0	25.0	45.7	50.0
2人	440	141	122	83	31	28	25	7	3
	39.7	39.7	40.9	40.7	38.3	47.5	39.1	20.0	25.0
3人	163	48	44	27	18	9	13	3	1
	14.7	13.5	14.8	13.2	22.2	15.3	20.3	8.6	8.3
4人	30	10	8	4	3	3	2	0	0
	2.7	2.8	2.7	2.0	3.7	5.1	3.1	0.0	0.0
5人	9	1	3	2	1	1	0	1	0
	0.8	0.3	1.0	1.0	1.2	1.7	0.0	2.9	0.0
6人以上	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	141	55	39	13	11	5	8	8	2
	12.7	15.5	13.1	6.4	13.6	8.5	12.5	22.9	16.7

（２）居住地域の状況

居住地域は、「昭和地区」（32.0%）が最も多く、次いで「蔵波地区」（26.9%）、「長浦地区」（18.4%）となっています。

問１　居住地域（ＳＡ）

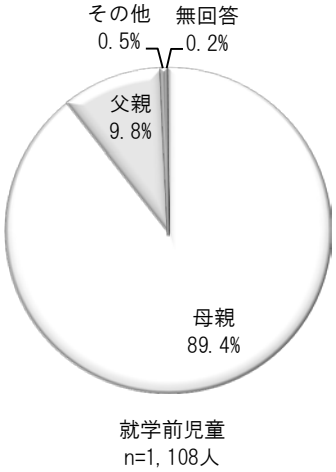


就学前児童
n=1,108人

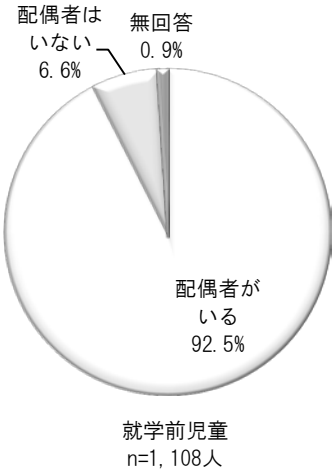
（３）調査回答者の状況と配偶者有無

調査回答者は、「母親」（89.4%）、配偶者の有無は、「配偶者がいる」（92.5%）となっています。

問４　調査回答者（ＳＡ）



問５　配偶者の有無（ＳＡ）



問4　この調査票にご回答いただく方　　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川・富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
母親	991	317	271	178	74	50	62	31	8
	89.4	89.3	90.9	87.3	91.4	84.7	96.9	88.6	66.7
父親	109	36	25	24	6	9	2	3	4
	9.8	10.1	8.4	11.8	7.4	15.3	3.1	8.6	33.3
その他	6	2	1	1	1	0	0	1	0
	0.5	0.6	0.3	0.5	1.2	0.0	0.0	2.9	0.0
無回答	2	0	1	1	0	0	0	0	0
	0.2	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問5　この調査票にご回答いただく方の配偶関係　　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川・富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
配偶者がいる	1,025	335	272	192	75	54	55	33	9
	92.5	94.4	91.3	94.1	92.6	91.5	85.9	94.3	75.0
配偶者はいない	73	19	23	11	5	4	6	2	3
	6.6	5.4	7.7	5.4	6.2	6.8	9.4	5.7	25.0
無回答	10	1	3	1	1	1	3	0	0
	0.9	0.3	1.0	0.5	1.2	1.7	4.7	0.0	0.0

第　２　章
子育て家庭を取り巻く環境

第２章　子育て家庭を取り巻く環境

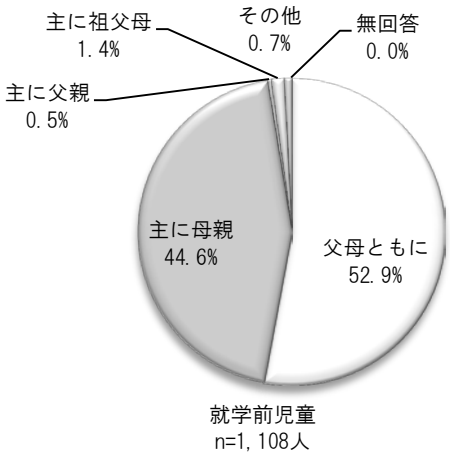
１　子育ての環境について

（１）主な保育者と親族等協力者の状況

主な保育者の状況をみると「父母ともに」（52.9%）と「主に母親」（44.6%）が大半を占めています。

こうした状況の中で日常的に子育てに関わっている方（施設含む）は、「父母ともに」（56.6%）、「母親」（34.1%）、「保育所」（29.1%）、「祖父母」（28.9%）の順となっています。また、子育てに影響を与える環境は、「家庭」（91.5%）が最も多く、次いで「幼稚園」（37.5%）、「保育所」（36.5%）、「地域」（23.9%）の順となっています。

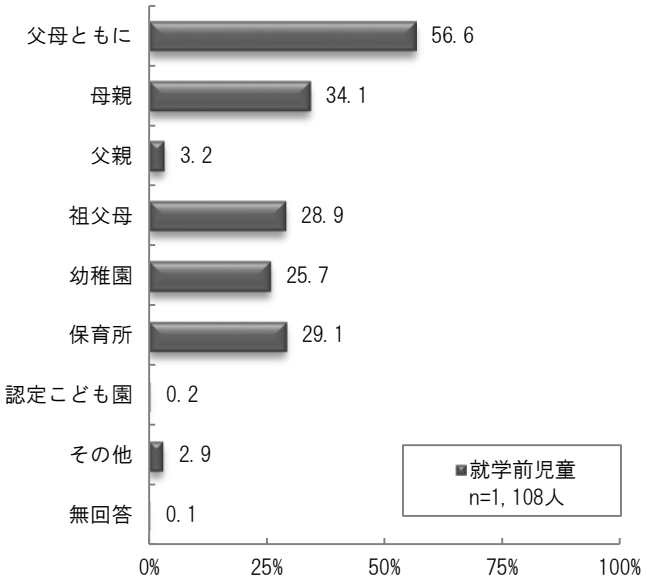
問６　主な保育者の状況（ＳＡ）



問6　子育てを主に行っている方　　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
父母ともに	586	213	159	98	39	29	24	18	6
	52.9	60.0	53.4	48.0	48.1	49.2	37.5	51.4	50.0
主に母親	494	138	133	101	39	28	35	16	4
	44.6	38.9	44.6	49.5	48.1	47.5	54.7	45.7	33.3
主に父親	5	0	1	1	0	1	1	0	1
	0.5	0.0	0.3	0.5	0.0	1.7	1.6	0.0	8.3
主に祖父母	15	4	4	1	3	1	2	0	0
	1.4	1.1	1.3	0.5	3.7	1.7	3.1	0.0	0.0
その他	8	0	1	3	0	0	2	1	1
	0.7	0.0	0.3	1.5	0.0	0.0	3.1	2.9	8.3
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

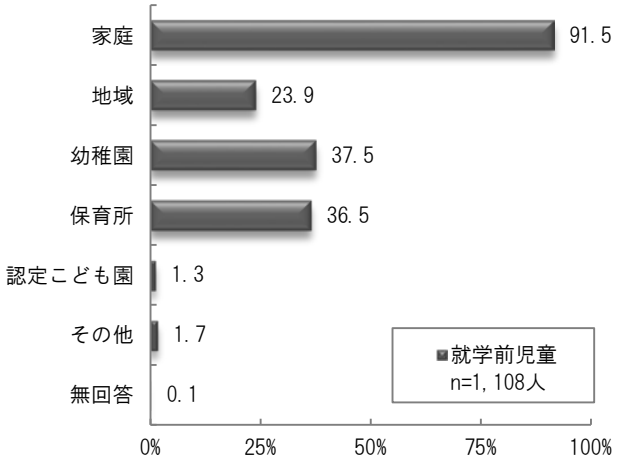
問７　日常的に子育てに関わっている方（施設含む）（ＭＡ）



問7　子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方(施設)　　上段：人／下段：％

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川 富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
父母ともに	627	208	178	118	40	30	28	18	7
	56.6	58.6	59.7	57.8	49.4	50.8	43.8	51.4	58.3
母親	378	126	87	69	34	17	30	12	3
	34.1	35.5	29.2	33.8	42.0	28.8	46.9	34.3	25.0
父親	35	8	10	7	3	2	2	1	2
	3.2	2.3	3.4	3.4	3.7	3.4	3.1	2.9	16.7
祖父母	320	100	77	50	32	20	28	8	5
	28.9	28.2	25.8	24.5	39.5	33.9	43.8	22.9	41.7
幼稚園	285	94	83	59	23	9	10	5	2
	25.7	26.5	27.9	28.9	28.4	15.3	15.6	14.3	16.7
保育所	322	98	87	58	21	22	24	9	3
	29.1	27.6	29.2	28.4	25.9	37.3	37.5	25.7	25.0
認定こども園	2	0	1	0	0	0	0	1	0
	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0
その他	32	6	8	3	4	3	5	2	1
	2.9	1.7	2.7	1.5	4.9	5.1	7.8	5.7	8.3
無回答	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問８　子育てに影響を与える環境（ＭＡ）



問8　子育て（教育を含む）に、もっとも影響を与えると思う環境　　上段：人／下段：％

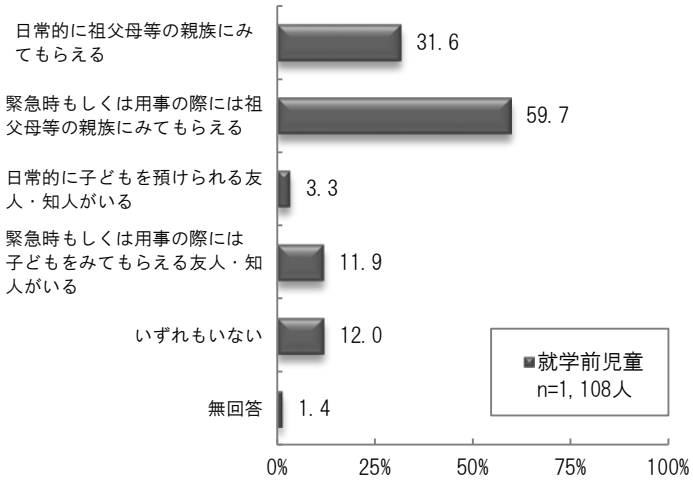
	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川 富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
家庭	1,014	327	271	191	76	50	57	32	10
	91.5	92.1	90.9	93.6	93.8	84.7	89.1	91.4	83.3
地域	265	93	71	38	22	14	17	8	2
	23.9	26.2	23.8	18.6	27.2	23.7	26.6	22.9	16.7
幼稚園	416	137	113	81	30	16	21	14	4
	37.5	38.6	37.9	39.7	37.0	27.1	32.8	40.0	33.3
保育所	404	120	102	75	27	27	33	16	4
	36.5	33.8	34.2	36.8	33.3	45.8	51.6	45.7	33.3
認定こども園	14	5	5	2	1	0	0	1	0
	1.3	1.4	1.7	1.0	1.2	0.0	0.0	2.9	0.0
その他	19	5	4	4	2	1	3	0	0
	1.7	1.4	1.3	2.0	2.5	1.7	4.7	0.0	0.0
無回答	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

主な親族等協力者の状況をみると「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」（59.7%）が最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（31.6%）の順となっています。

祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考えに対しては「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（54.4%）が最も多く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（25.8%）となっています。

また、友人・知人に預かってもらうことへの考えに対しては「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（47.9%）が最も多く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（24.7%）となっています。

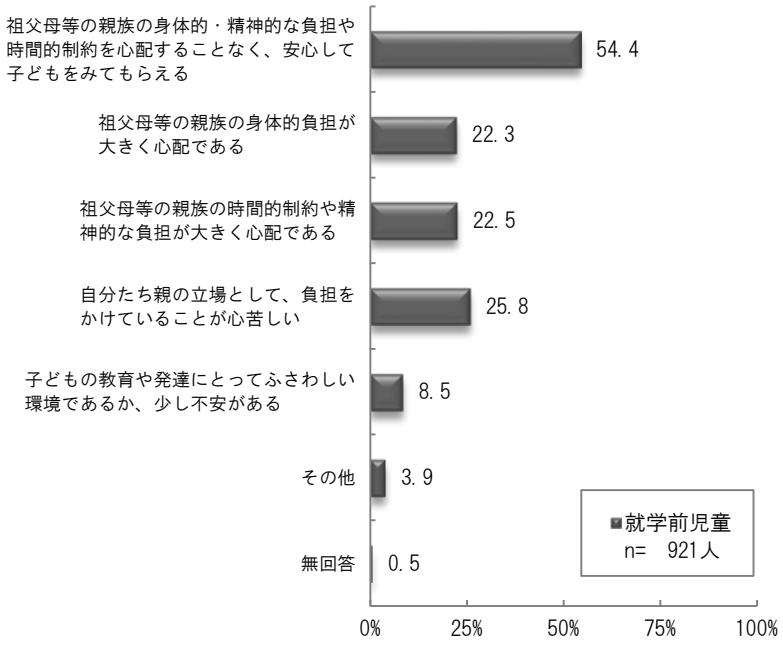
問９　主な親族等協力者の状況（ＭＡ）



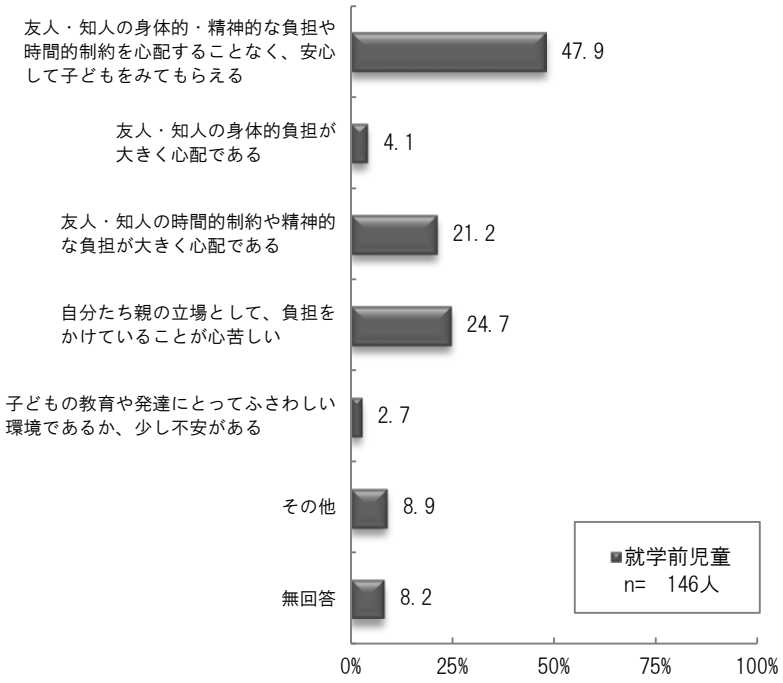
問9　日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人の有無　　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	350	113	90	45	34	24	31	8	5
	31.6	31.8	30.2	22.1	42.0	40.7	48.4	22.9	41.7
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	661	214	187	121	43	35	35	20	6
	59.7	60.3	62.8	59.3	53.1	59.3	54.7	57.1	50.0
日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる	37	8	9	9	5	4	2	0	0
	3.3	2.3	3.0	4.4	6.2	6.8	3.1	0.0	0.0
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	132	37	36	21	13	9	8	6	2
	11.9	10.4	12.1	10.3	16.0	15.3	12.5	17.1	16.7
いずれもいない	133	40	28	38	9	6	5	5	2
	12.0	11.3	9.4	18.6	11.1	10.2	7.8	14.3	16.7
無回答	15	5	6	2	2	0	0	0	0
	1.4	1.4	2.0	1.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0

問 9-1　祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え（ＭＡ）



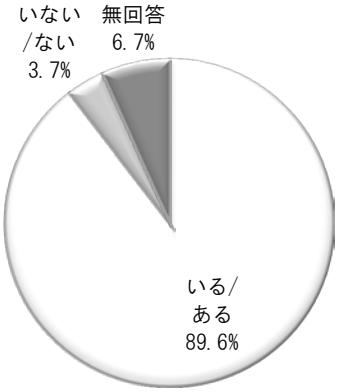
問 9-2　友人・知人に預かってもらうことへの考え（ＭＡ）



（２）子育てに関する相談者の状況

気軽に相談できる人の有無をみると「いる／ある」（89.6%）とほとんどの方が「いる」または「ある」と答えています。その相談できる相手としては「祖父母等の親族」（84.4%）、「友人や知人」（78.9%）、「保育士」（21.6%）の順になっています。

問 10　気軽に相談できる人の有無（ＳＡ）



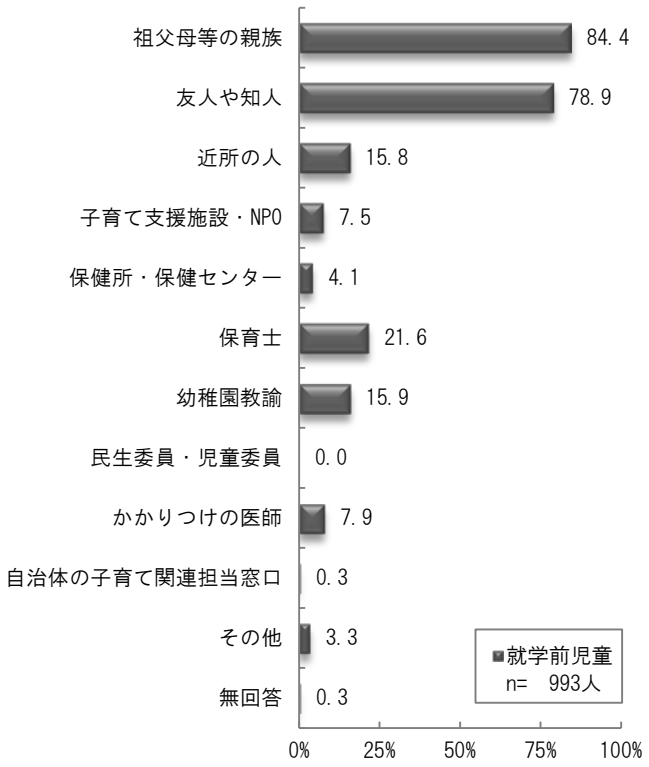
就学前児童
n=1,108人

問10　子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所はありますか。

上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
いる／ある	993	312	275	177	73	54	60	32	10
	89.6	87.9	92.3	86.8	90.1	91.5	93.8	91.4	83.3
いない／ない	41	14	8	10	3	2	1	2	1
	3.7	3.9	2.7	4.9	3.7	3.4	1.6	5.7	8.3
無回答	74	29	15	17	5	3	3	1	1
	6.7	8.2	5.0	8.3	6.2	5.1	4.7	2.9	8.3

問 10-1　気軽にできる相談者の状況（ＭＡ）

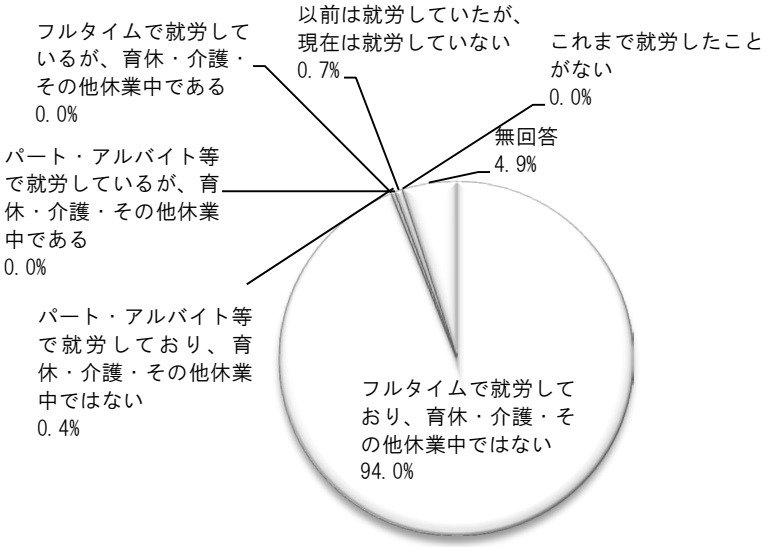


２　保護者の就労状況

（１）父親の就労状況

父親の就労状況をみると「フルタイムで就労しており、育休・介護・その他休業中ではない」（94.0%）が最も多くなっています。

問 12(1)　父親の就労状況（ＳＡ）



就学前児童
n=1,108人

問12　父親　保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）　　上段：人／下段：%

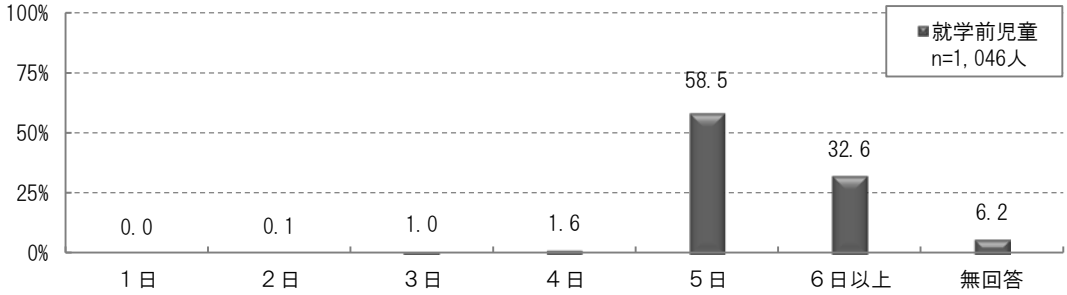
	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない	1,042	337	279	196	79	55	52	33	11
	94.0	94.9	93.6	96.1	97.5	93.2	81.3	94.3	91.7
フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、育休・介護休業中である	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない	4	0	1	0	0	0	3	0	0
	0.4	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	0.0
パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、育休・介護休業中である	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	8	1	4	3	0	0	0	0	0
	0.7	0.3	1.3	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
これまで就労したことがない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	54	17	14	5	2	4	9	2	1
	4.9	4.8	4.7	2.5	2.5	6.8	14.1	5.7	8.3

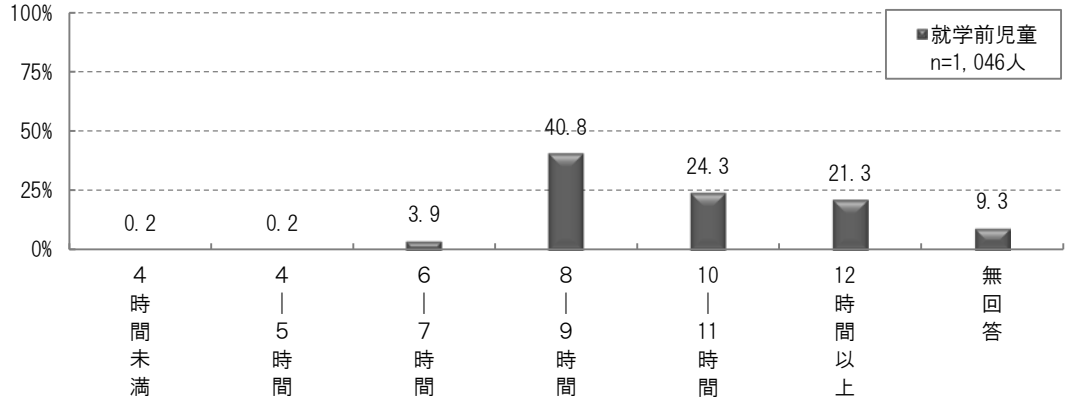
父親の就労日数／週・就労時間／日をみると「５日」（58.5%）、「８－９時間」（40.8%）、が最も多く、「6 日以上」（32.6%）、「10－11 時間」（24.3%）、「12 時間以上」（21.3%）となっています。

父親の出勤時間は、「７時台」（37.7%）、「6 時台」「8 時台」（各 17.2%）の順になっています。

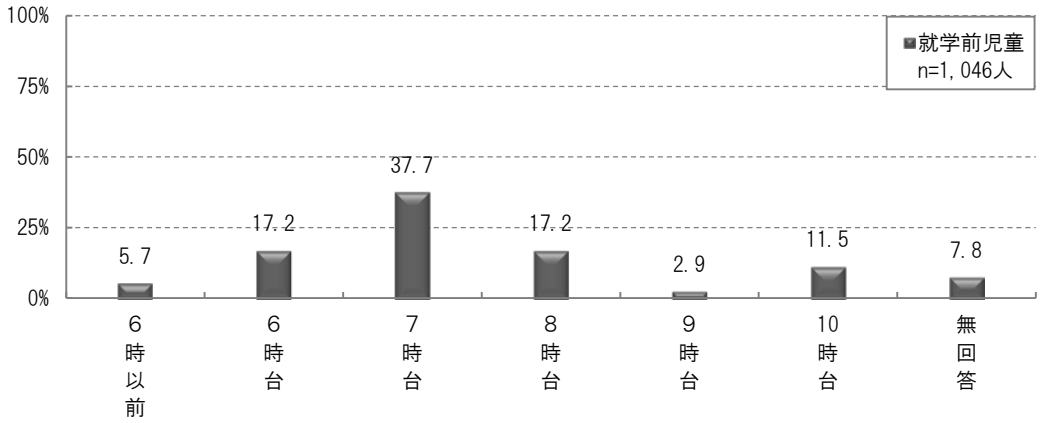
帰宅時間は、「18－19 時台」（33.3%）、「20－21 時台」（30.6%）の順となり、22 時以後の帰宅は「17.6%」となっています。

問 12(1)-1　父親の就労日数（１週当たり）・就労時間（１日当たり）（ＮＡ）

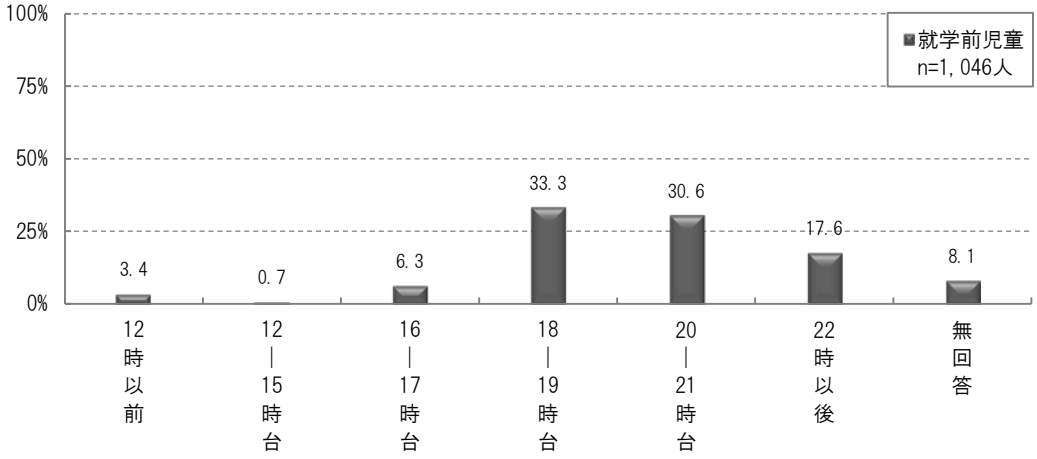




問 12(1)-2　父親の出勤時間（ＮＡ）

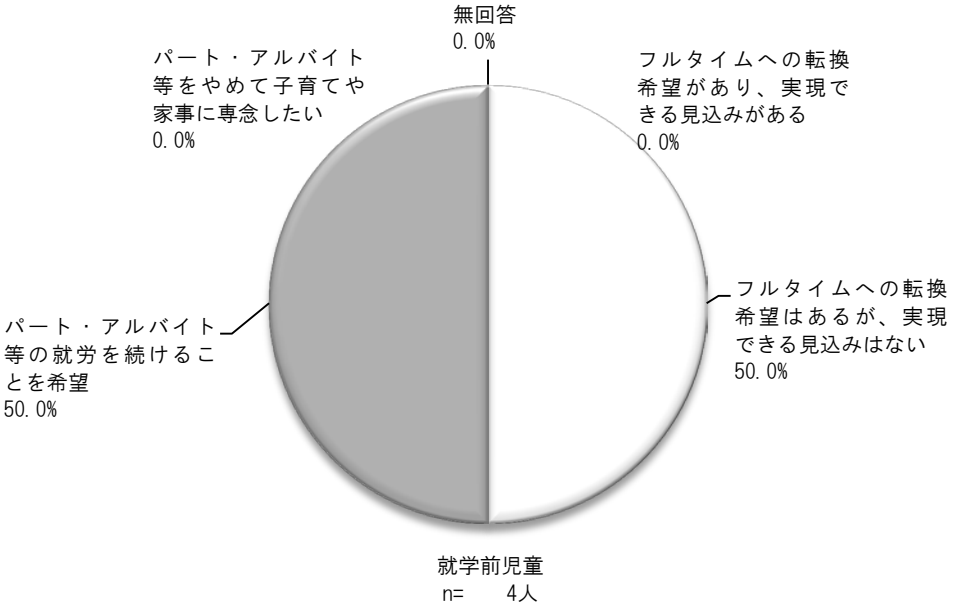


問 12(1)-2　父親の帰宅時間（ＮＡ）



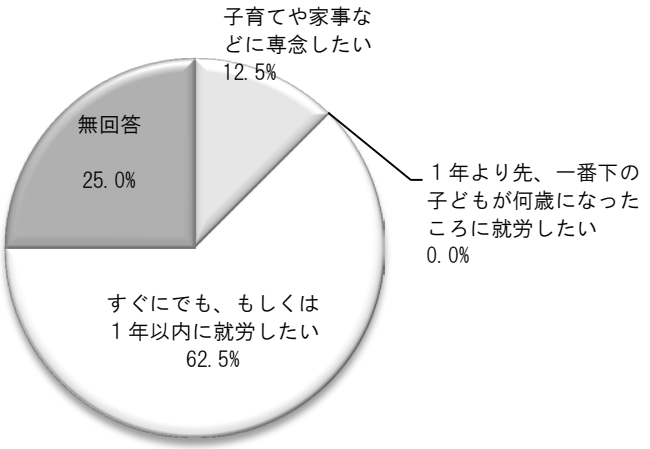
父親のパートタイムからフルタイム勤務への意向をみると「フルタイム勤務を希望する方」は 100.0%いますが、「実現できる見込みのある方」は 50.0%と半分に留まっています。

問 13(1)　父親のパートタイムからフルタイム勤務への意向（ＳＡ）



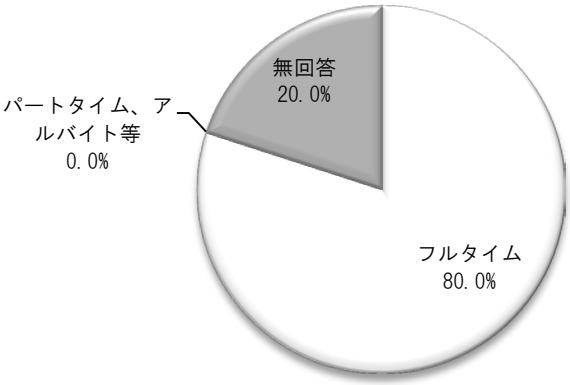
就労していない父親に対して今後の就労希望を聞いたところ、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」（62.5%）、希望する就労形態は「フルタイム」（80.0%）が多くなっています。

問 14-1　就労していない父親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢（ＳＡ）



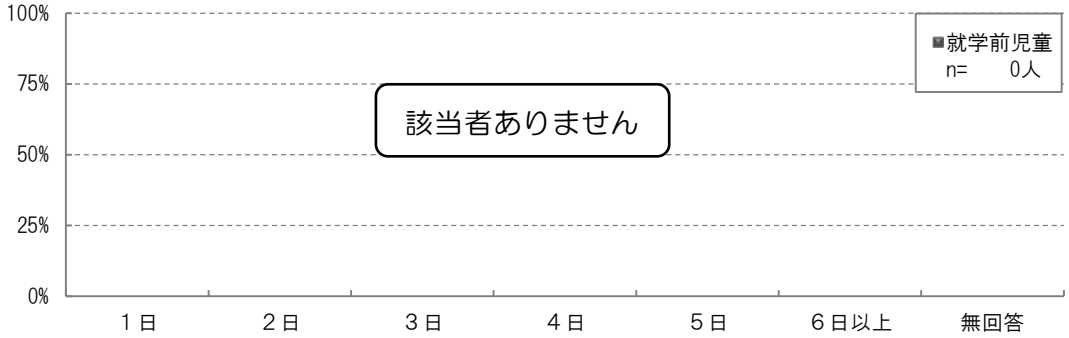
就学前児童
n=　8人

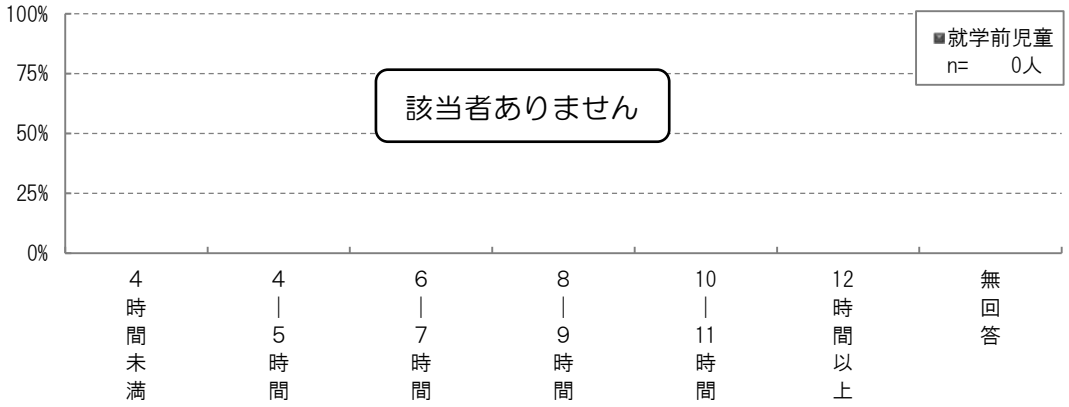
父親の希望する就労形態（ＳＡ）



就学前児童
n=　5人

問 14(1).2　父親の希望就労日数（１週当たり）と希望就労時間（１日当たり）（ＮＡ）

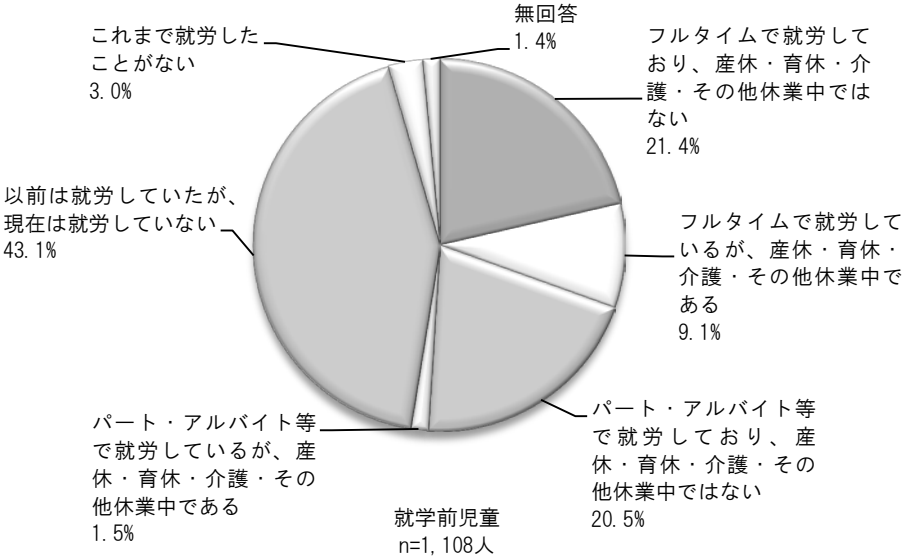




（２）母親の就労状況

母親の就労状況をみると「以前は就労していたが、現在は就労していない」（43.1%）が最も多く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護・その他休業中ではない」（21.4%）、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護・その他休業中でない」（20.5%）となっています。

問 12(2)　母親の就労状況（ＳＡ）

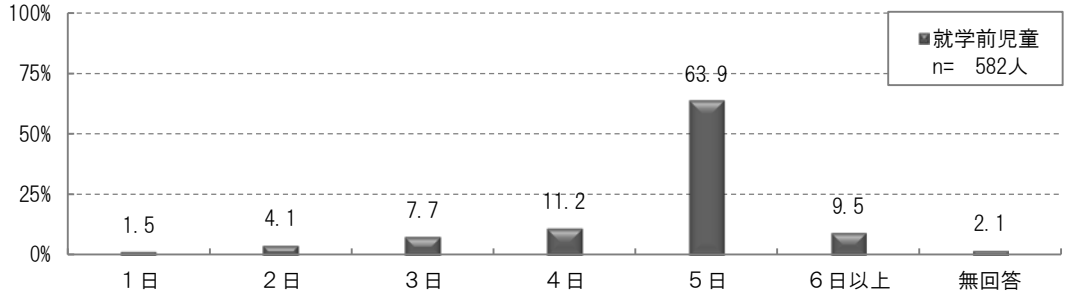


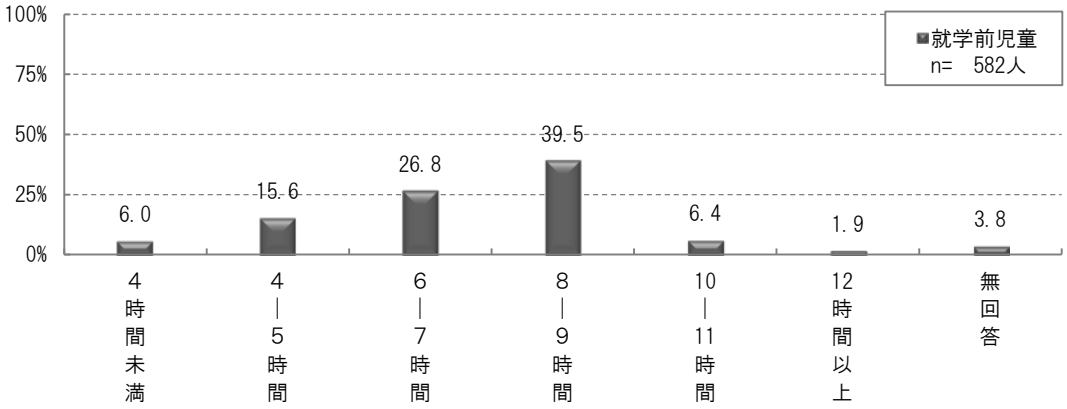
問12　母親　保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）　　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	237	81	58	49	15	12	13	6	3
	21.4	22.8	19.5	24.0	18.5	20.3	20.3	17.1	25.0
フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	101	44	26	12	6	6	5	1	1
	9.1	12.4	8.7	5.9	7.4	10.2	7.8	2.9	8.3
パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	227	67	72	33	15	17	20	3	0
	20.5	18.9	24.2	16.2	18.5	28.8	31.3	8.6	0.0
パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	17	2	4	2	1	2	1	5	0
	1.5	0.6	1.3	1.0	1.2	3.4	1.6	14.3	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	477	152	129	95	41	18	22	16	4
	43.1	42.8	43.3	46.6	50.6	30.5	34.4	45.7	33.3
これまで就労したことがない	33	9	5	9	3	2	1	2	2
	3.0	2.5	1.7	4.4	3.7	3.4	1.6	5.7	16.7
無回答	16	0	4	4	0	2	2	2	2
	1.4	0.0	1.3	2.0	0.0	3.4	3.1	5.7	16.7

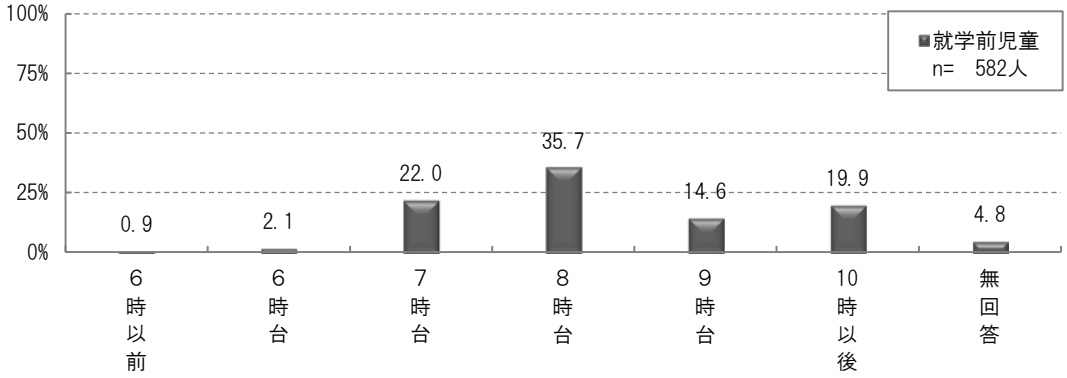
母親の就労日数／週・就労時間／日をみると「５日」（63.9%）、「８－９時間」（39.5%）が最も多くなっています。
母親の出勤時間は「8 時台」（35.7%）、「7 時台」（22.0%）、「10 時以後」（19.9%）の順となっています。
帰宅時間は「18－19 時台」（46.6%）、「16－17 時台」（24.4%）の順となっています。

問 12(2)-1　母親の就労日数（１週当たり）・就労時間（１日当たり）（ＮＡ）

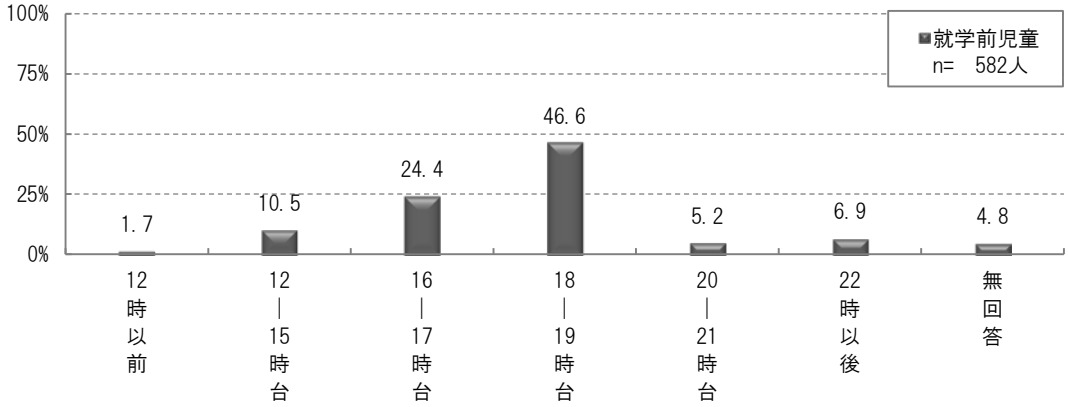




問 12(2)-2　母親の出勤時間（ＮＡ）

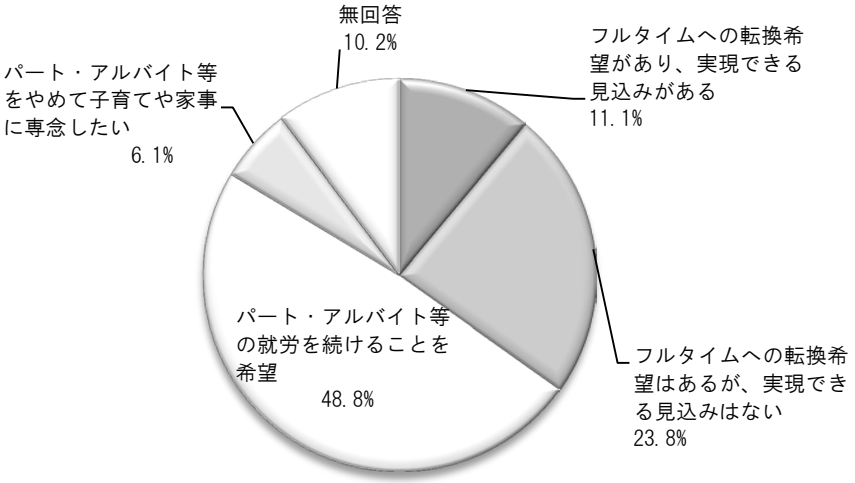


問 12(2)-2　母親の帰宅時間（ＮＡ）



母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向をみると「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」（48.8%）が最も多く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みがない」（23.8%）、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」（11.1%）となっています。

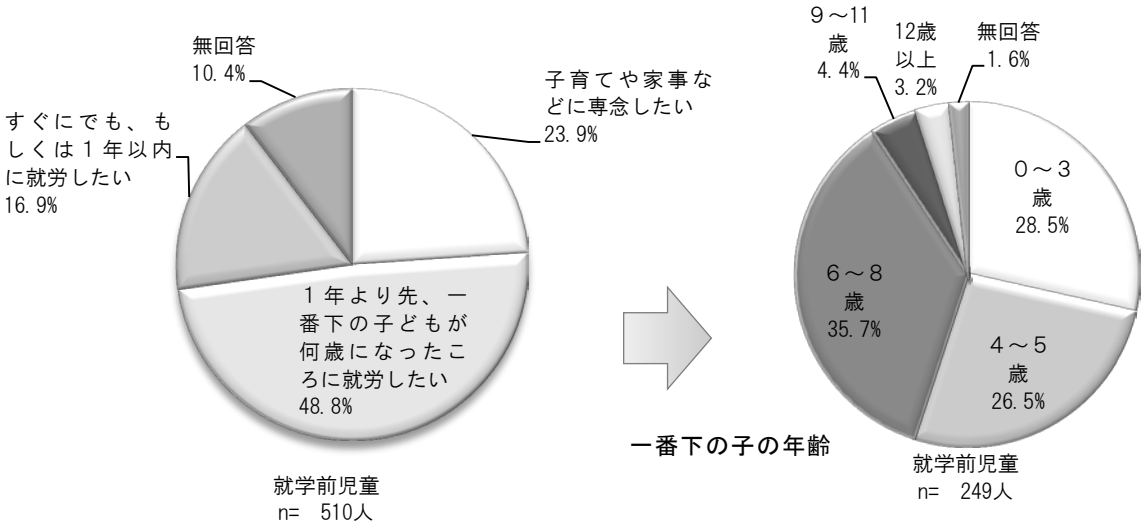
問 13(2)　母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向（ＳＡ）



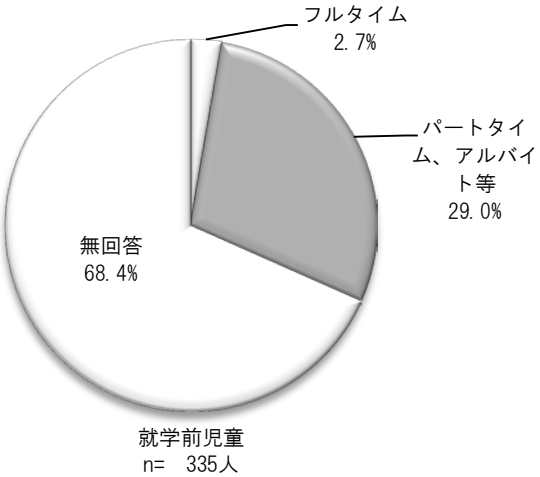
就学前児童
n=　244人

就労していない母親に対して今後の就労希望を聞いたところ、「１年より先、一番下の子どもが何歳になったころに就労したい」（48.8%）、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」（16.9%）、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」（29.0%）、「フルタイム」（2.7%）となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「6～8 歳」（35.7%）、「０～３歳」（28.5%）、「4～5 歳」（26.5%）の順となっています。

問 14(2)　就労していない母親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢（ＳＡ）

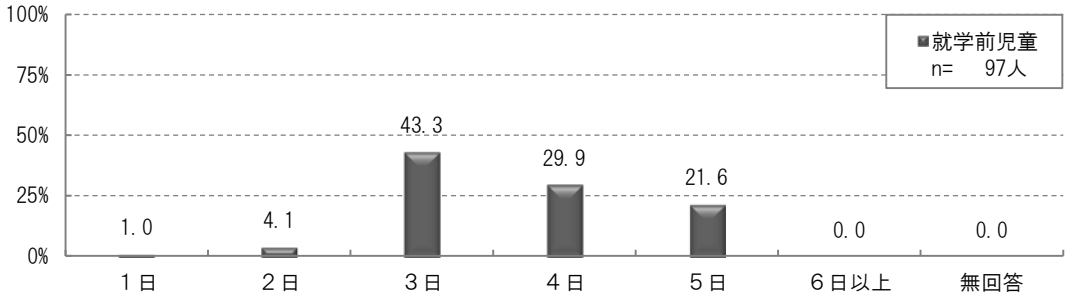


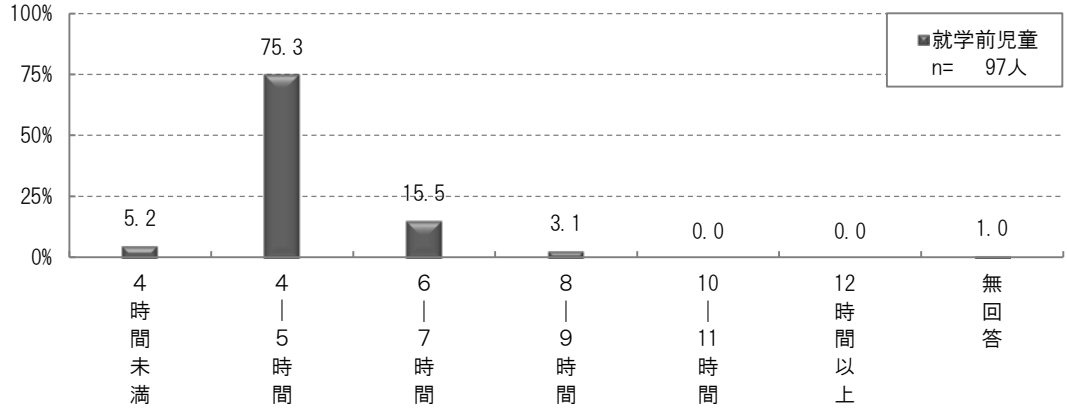
母親の希望する就労形態



母親の『フルタイム、パートタイム、アルバイト等』の希望する就労日数／週は「３日」（43.3%）が最も多く、「４日」（29.9%）、「５日」（21.6%）の順、就労時間／日は「４－５時間」（75.3%）が最も多く、「６－７時間」（15.5%）の順となっています。

問 14(2).2　母親の希望就労日数（１週当たり）と希望就労時間（１日当たり）（ＮＡ）





第 3 章
子育て支援サービスの現状と
今後の利用希望

第３章　子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

１　平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

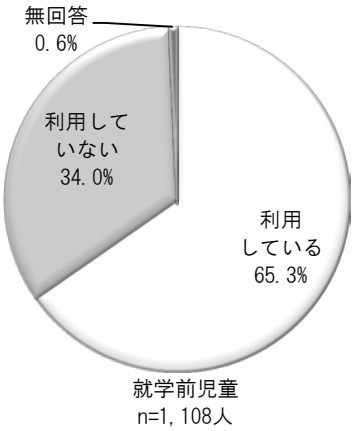
（１）平日の定期的な教育・保育事業（全体）

定期的な教育・保育事業（全体）の利用状況をみると「利用している」（65.3%）となっています。

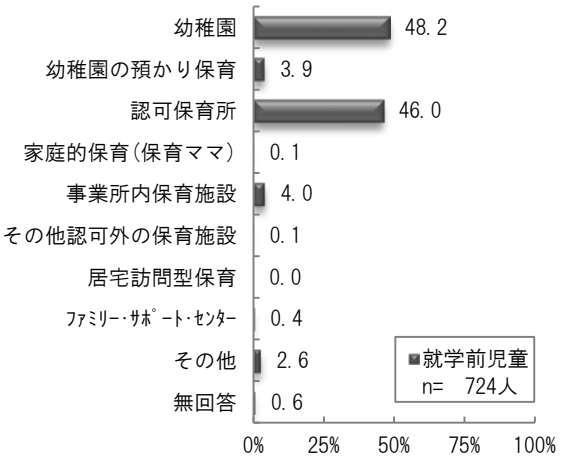
利用中の事業としては、「幼稚園」（48.2%）、「認可保育所」（46.0%）、「事業所内保育施設」（4.0%）、「幼稚園の預かり保育」（3.9%）の順となっています。

一方、今後の利用希望では「幼稚園」（61.6%）、「認可保育所」（47.7%）、「幼稚園の預かり保育」（23.0%）、「認定こども園」（14.0%）がともに増加しています。

問 15　定期的な教育・保育事業の利用状況　（ＳＡ）



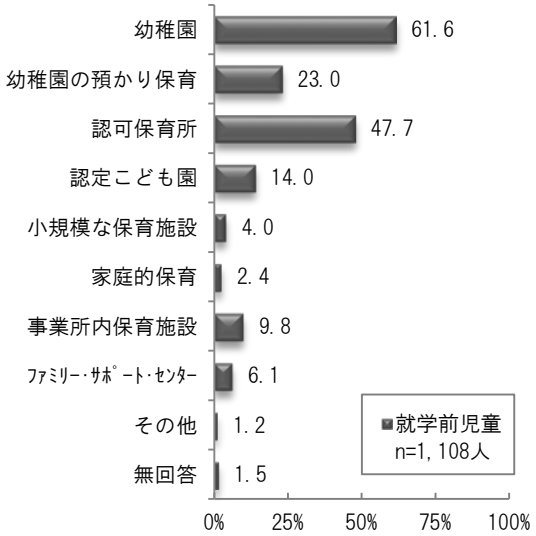
問 15-1　利用中の定期的な教育・保育事業　（ＭＡ）



問15　現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」の利用の有無　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
利用している	724	227	202	138	51	42	42	17	5
	65.3	63.9	67.8	67.6	63.0	71.2	65.6	48.6	41.7
利用していない	377	124	94	66	30	16	22	18	7
	34.0	34.9	31.5	32.4	37.0	27.1	34.4	51.4	58.3
無回答	7	4	2	0	0	1	0	0	0
	0.6	1.1	0.7	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0

問 16　希望する定期的な教育・保育事業（ＭＡ）



問16　現在、利用している、利用していないにかかわらず、平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したい事業

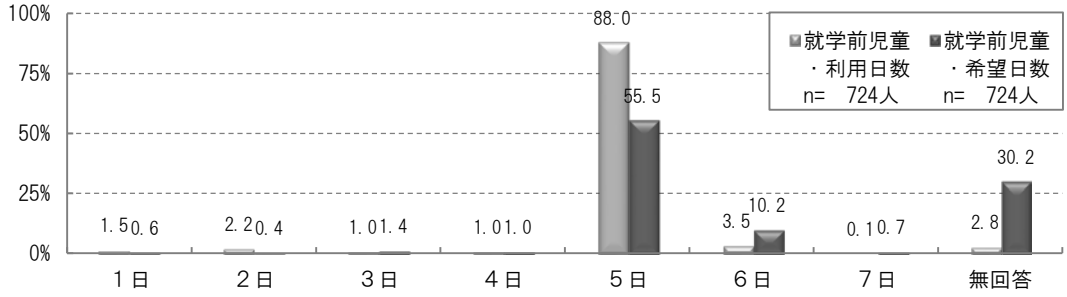
上段：人／下段：％

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
幼稚園（通常の就園時間の利用）	682	221	186	121	52	34	34	25	9
	61.6	62.3	62.4	59.3	64.2	57.6	53.1	71.4	75.0
幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	255	97	67	41	20	10	11	8	1
	23.0	27.3	22.5	20.1	24.7	16.9	17.2	22.9	8.3
認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの）	529	183	130	88	44	30	36	15	3
	47.7	51.5	43.6	43.1	54.3	50.8	56.3	42.9	25.0
認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）	155	51	43	21	13	11	8	8	0
	14.0	14.4	14.4	10.3	16.0	18.6	12.5	22.9	0.0
小規模な保育施設（国が定める最低基準に適合した施設で市町村の認可を受けた定員概ね6～19人のもの）	44	18	13	7	0	3	1	2	0
	4.0	5.1	4.4	3.4	0.0	5.1	1.6	5.7	0.0
家庭的保育（保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業）	27	8	8	6	0	2	1	1	1
	2.4	2.3	2.7	2.9	0.0	3.4	1.6	2.9	8.3
事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設）	109	44	26	22	8	3	4	2	0
	9.8	12.4	8.7	10.8	9.9	5.1	6.3	5.7	0.0
ファミリー・サポート・センター（地域住民が子どもを預かる事業）	68	23	15	19	2	3	3	2	1
	6.1	6.5	5.0	9.3	2.5	5.1	4.7	5.7	8.3
その他	13	4	3	3	0	1	2	0	0
	1.2	1.1	1.0	1.5	0.0	1.7	3.1	0.0	0.0
無回答	17	3	2	6	1	1	2	0	2
	1.5	0.8	0.7	2.9	1.2	1.7	3.1	0.0	16.7

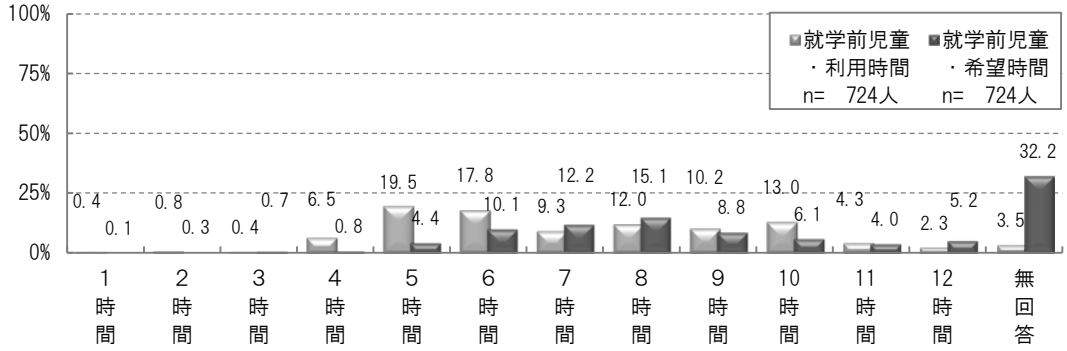
定期的な教育・保育事業（全体）の利用日数と希望日数（１週当たり）をみると、利用では「５日」（88.0%）、「６日」（3.5%）の順となり、希望では「５日」（55.5%）が減少した一方で「６日」（10.2%）がやや増加しています。

また、利用時間と希望時間（１日当たり）について、利用では「5 時間」（19.5%）、「6 時間」（17.8%）、「8 時間」（12.0%）、「9 時間」（10.2%）の順となり、希望では「4～6 時間」がやや減少しています。

問 15-2 (1)-1　定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（１週当たり）（ＮＡ）

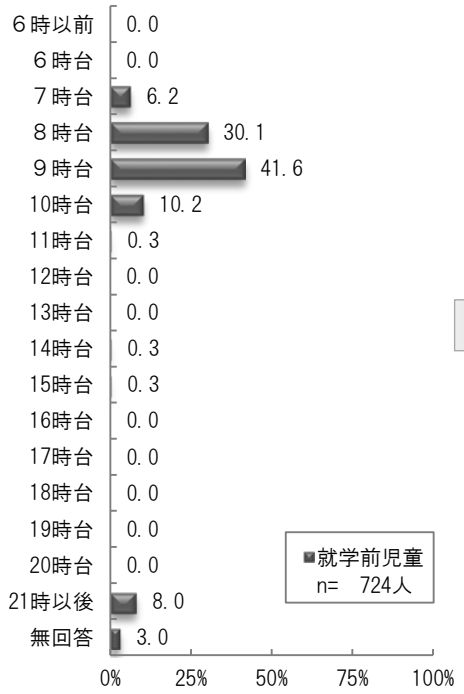


問 15-2 (1)-2　定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間（１日当たり）（ＮＡ）

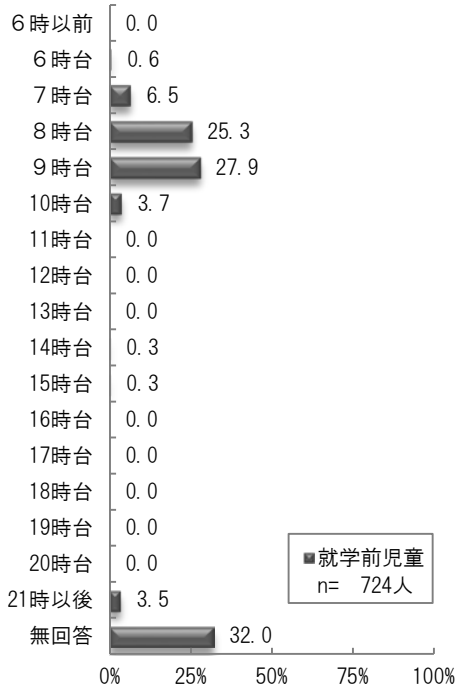


定期的な教育・保育事業（全体）の利用開始時間と利用終了時間をみると、開始時間は「８時台」（30.1%）、「９時台」（41.6%）、「10 時台」（10.2%）の利用順、終了時間は「14 時台」（27.1%）、「18 時台」（15.3%）、「15 時台」（15.1%）の利用順となっています。

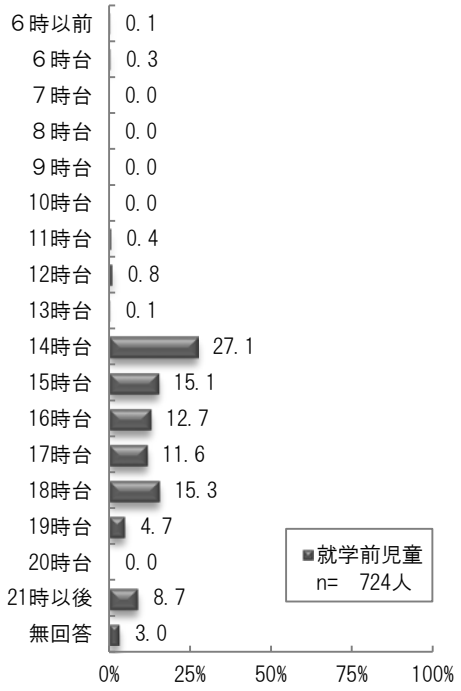
問 15-2 (1)-3　利用開始時間（ＮＡ）



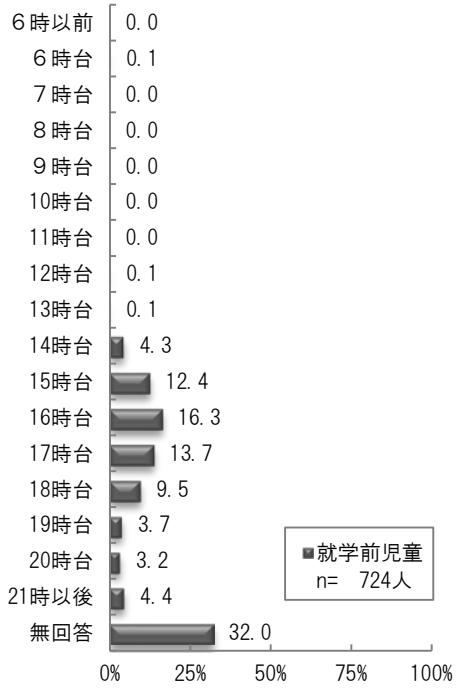
問 15-2 (2)-3　希望開始時間（ＮＡ）



問 15-2 (1)-4　利用終了時間（ＮＡ）

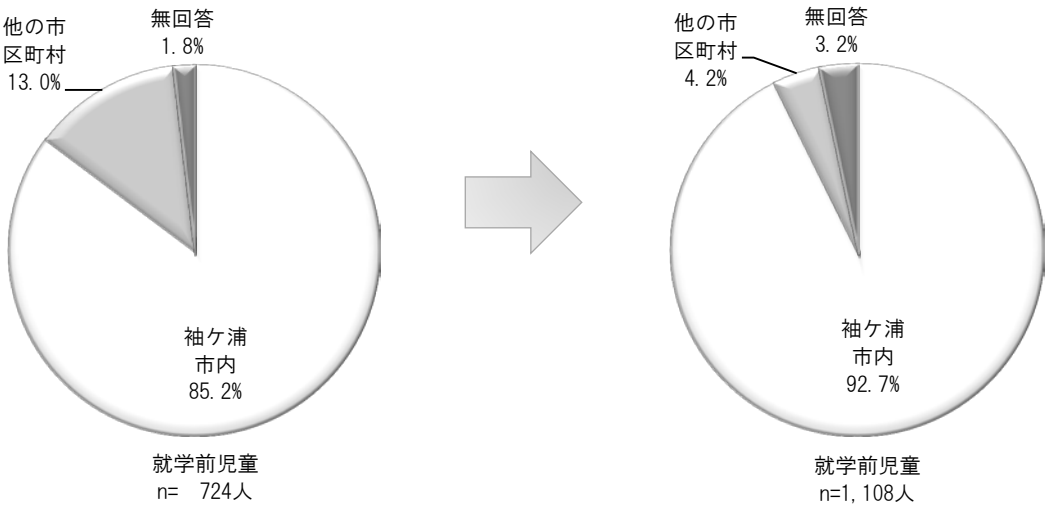


問 15-2 (2)-4　希望終了時間（ＮＡ）



定期的な教育・保育事業（全体）の教育・保育施設の利用場所は、「袖ケ浦市内」（85.2%）と回答し、ほとんどの方が市内の施設を利用しています。一方、希望したい実施場所としては、「袖ケ浦市内」（92.7%）となっています。

問 15-3　教育・保育の実施場所（ＳＡ）　問 16-1　教育・保育の希望実施場所（ＳＡ）

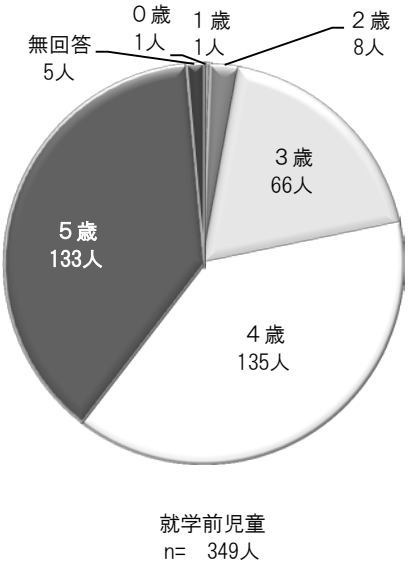


（２）幼稚園

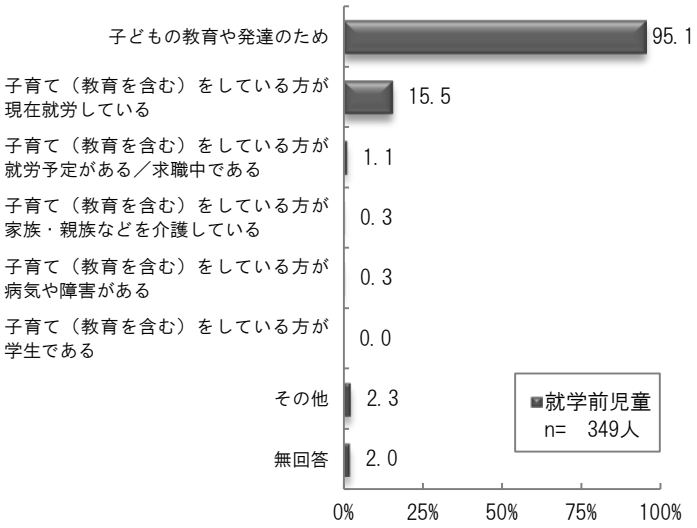
幼稚園の年齢別利用者数は、４歳（135 人）、５歳（133 人）、３歳（66 人）の順に利用されています。

利用している理由は、ほとんどが「子どもの教育や発達のため」（95.1%）であり、次いで「子育て（教育を含む）している方が現在就労している」（15.5%）の順となり、その他理由はごく少数となっています。

問 15-1.①　幼稚園の年齢別利用者数（ＳＡ）



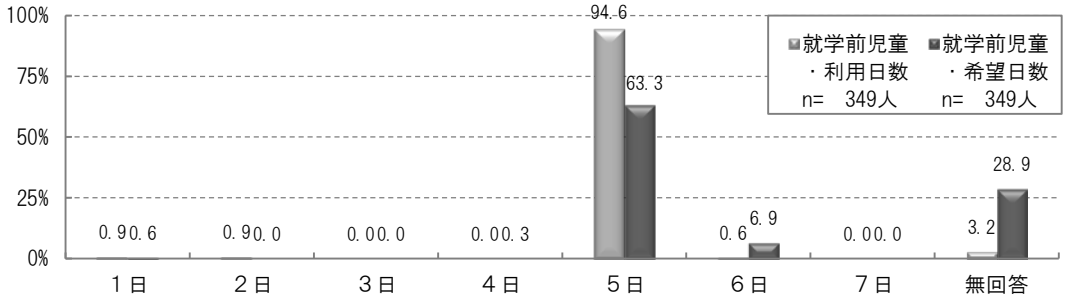
問 15-4.①　幼稚園を利用している理由（ＭＡ）



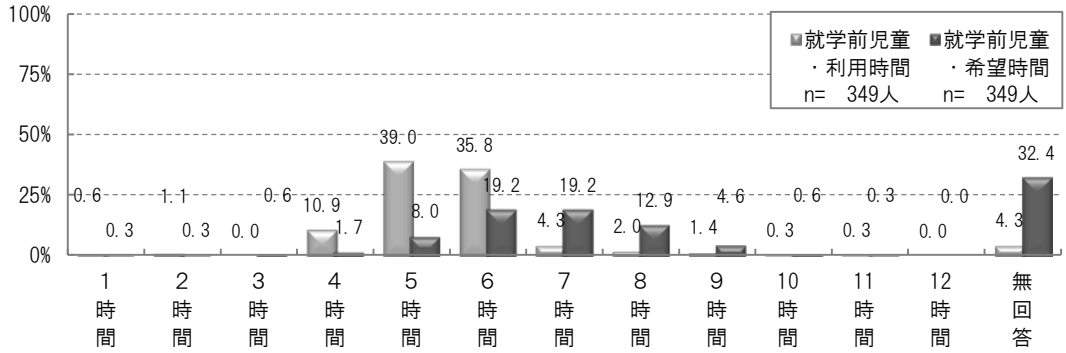
幼稚園の利用日数と希望日数（１週当たり）をみると、利用では「５日」（94.6%）が最も多く、希望では「５日」（63.3%）が減少した一方で「６日」（6.9%）がやや増加しています。

また、利用時間と希望時間（１日当たり）について、利用では「５時間」（39.0%）、「6 時間」（35.8%）、「4 時間」（10.9%）の順となり、希望では「４時間～6時間」が減少した一方で「7 時間」「8 時間」が増加しているため、一部の利用者に時間延長を希望していることが伺えます。

問 15-2(1)-1.①　幼稚園の利用日数と希望日数（１週当たり）（ＮＡ）

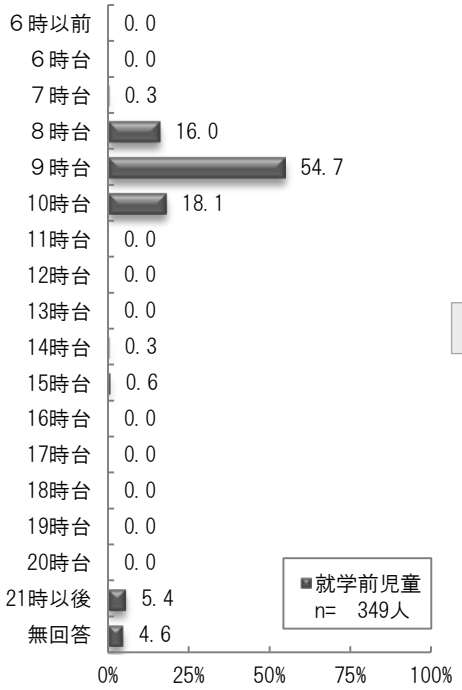


問 15-2(1)-2.①　幼稚園の利用時間と希望時間（１日当たり）（ＮＡ）

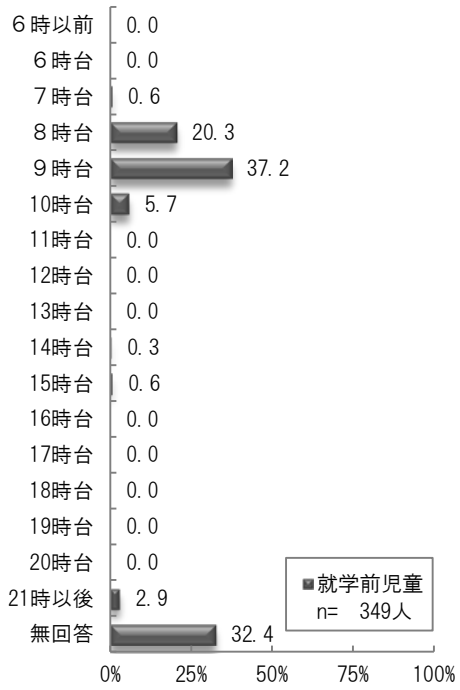


利用開始時間と利用終了時間をみると、開始時間は「9 時台」（54.7%）、10 時台」（18.1%）の利用順、終了時間は「14 時台」（54.7%）、「15 時台」（28.7%）、「21 以後」（6.6%）の利用順となっています。利用時間と希望時間との差は、希望終了時間において「14 時台」～「15 時台」が減少した一方で「16時台」以後が増加しています。

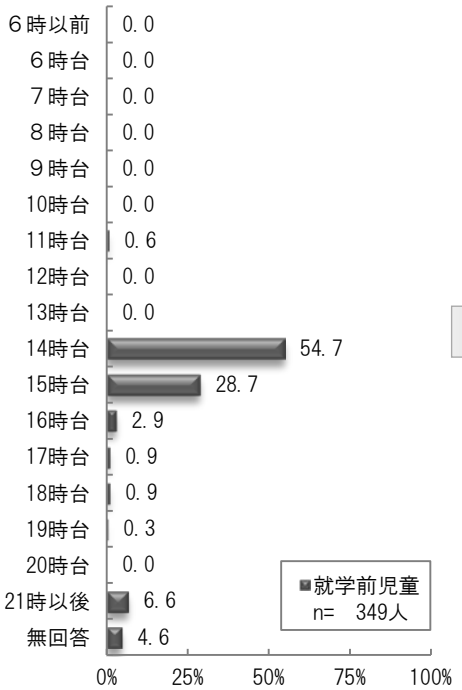
問 15-2(1)-3.① 利用開始時間（ＮＡ）



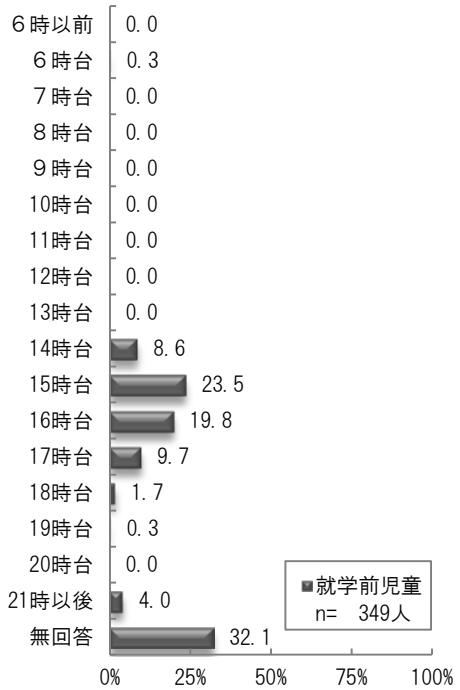
問 15-2(2)-3.① 希望開始時間（ＮＡ）



問 15-2(1)-4.① 利用終了時間（ＮＡ）



問 15-2(2)-4.① 希望終了時間（ＮＡ）

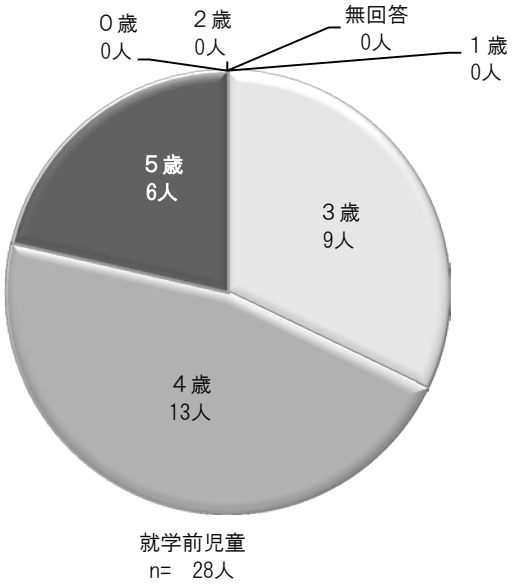


（３）幼稚園の預かり保育

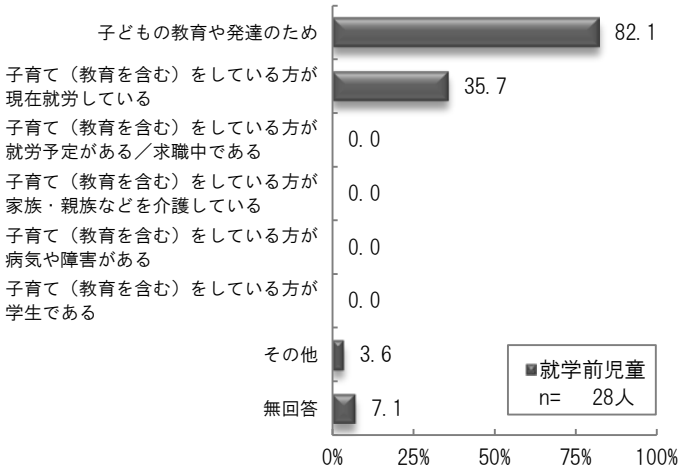
幼稚園の預かり保育の年齢別利用者数は、４歳（13 人）、３歳（９人）、５歳（６人）の順に利用されています。

利用している理由は、ほとんどが「子どもの教育や発達のため」（82.1%）であり、次いで「子育て（教育を含む）している方が現在就労している」（35.7%）の順となり、その他理由はごく少数となっています。

問 15-1.②　幼稚園の預かり保育の年齢別利用者数（ＳＡ）



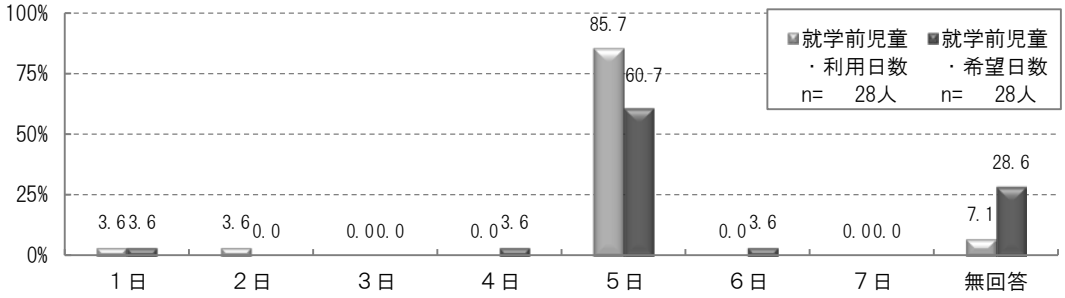
問 15-4.②　幼稚園の預かり保育を利用している理由（ＭＡ）



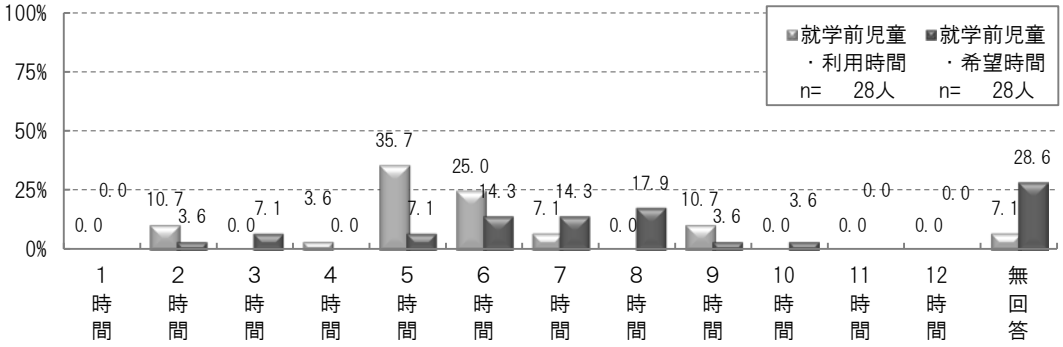
幼稚園の預かり保育の利用日数と希望日数（１週当たり）をみると、利用では「５日」（85.7%）が最も多いものの、希望では「５日」（60.7%）で少し減少しました。

また、利用時間と希望時間（１日当たり）について、利用では「５時間」（35.7%）、「６時間」（25.0%）、「２時間」「９時間」（10.7%）の順、希望では「４時間」～「６時間」が減少した一方で「７時間」と「８時間」が増加しているため、一部の利用者に時間延長を希望していることが伺えます。

問 15-2(1)-1.②　幼稚園の預かり保育の利用日数と希望日数（１週当たり）（ＮＡ）

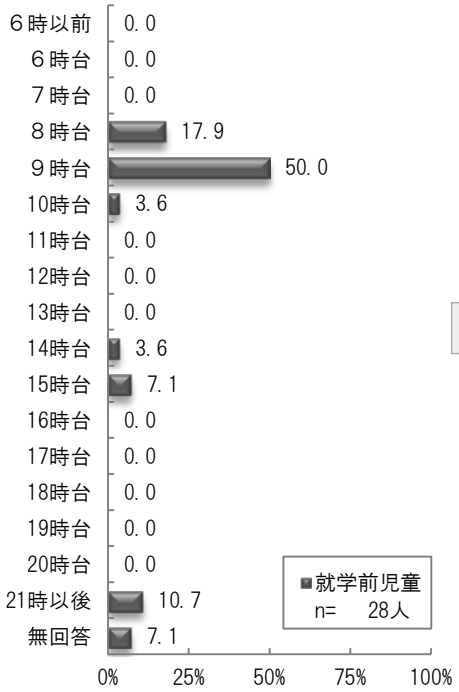


問 15-2(1)-2.②　幼稚園の預かり保育の利用時間と希望時間（１日当たり）（ＮＡ）

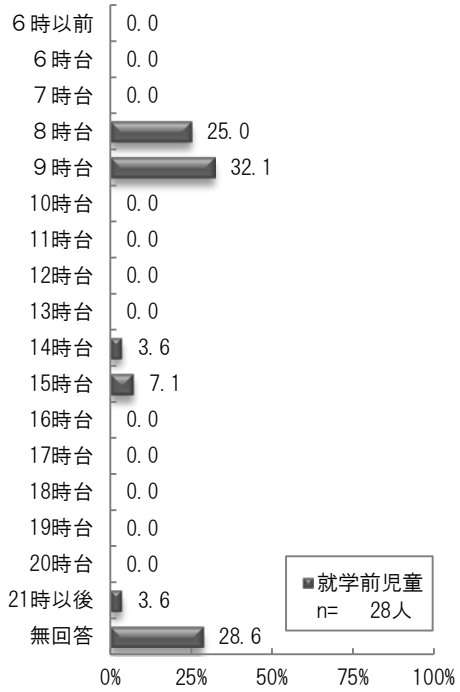


利用開始時間と利用終了時間をみると、開始時間は「9 時台」（50.0%）、「8 時台」（17.9%）、終了時間は「14 時台」（50.0%）、「15 時台」（14.3%）、「17 時台」（10.7%）の利用順となっています。利用時間と希望時間との差は、希望終了時間において「14 時台」「15 時台」が減少し、「16 時台」が増加しています。

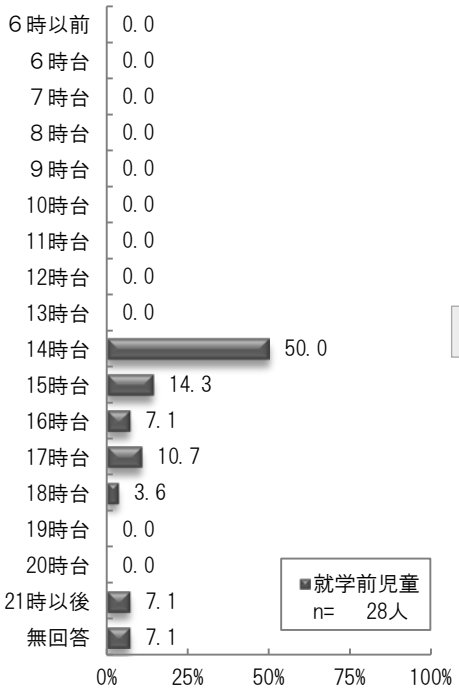
問 15-2(1)-3.②　利用開始時間（ＮＡ）



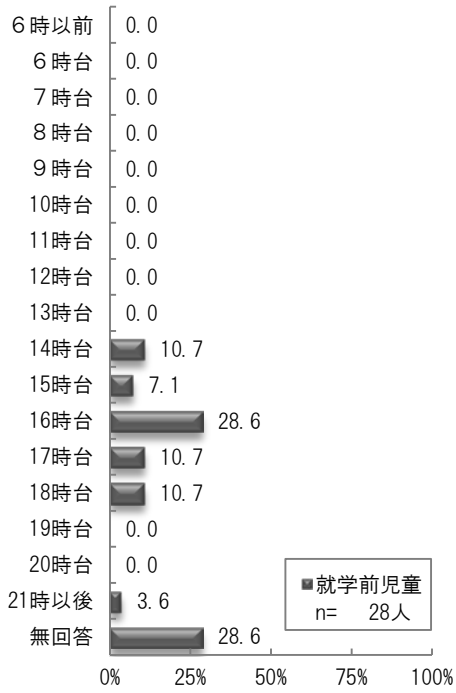
問 15-2(2)-3.②　希望開始時間（ＮＡ）



問 15-2(1)-4.②　利用終了時間（ＮＡ）



問 15-2(2)-4.②　希望終了時間（ＮＡ）

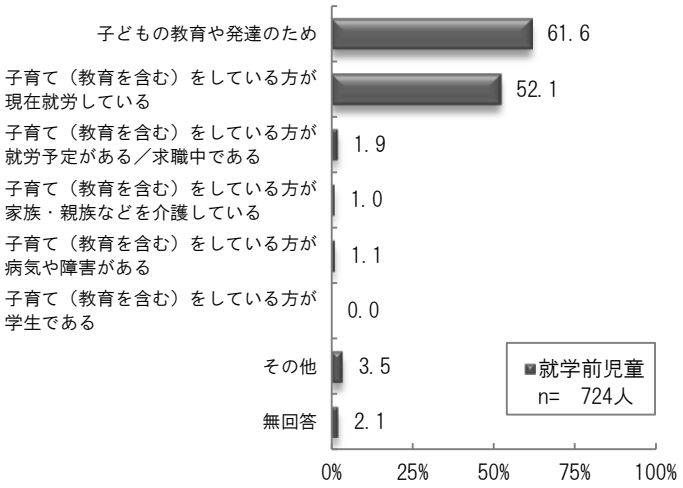


（４）定期的な教育・保育の利用理由と未利用の理由

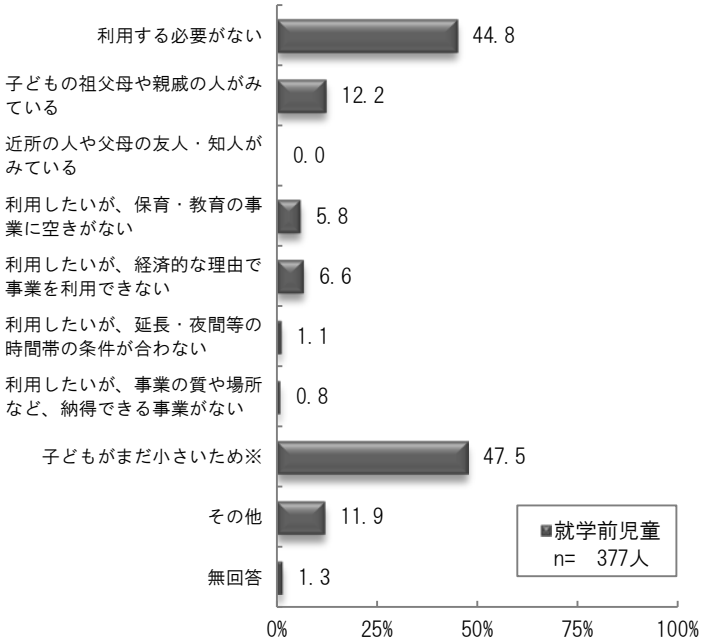
定期的な教育・保育事業を利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」（61.6%）、「子育てをしている方が現在就労している」（52.1%）、の順となり、その他の理由はごく少数となっています。一方、利用しない理由は、「子どもがまだ小さいため」（47.5%）、「利用する必要がない」（44.8%）、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」（12.2%）の順になっています。

利用を希望する子どもの年齢は、「0～３歳」（64.8%）、「4～5 歳」（34.6%）となっています。

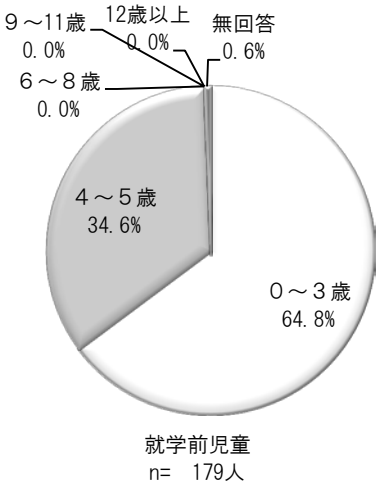
問 15-4　定期的な教育・保育事業を利用している理由（ＭＡ）



問 15-5　定期的な教育・保育事業を利用しない理由（ＭＡ）



問15-6⑧　利用を希望する子どもの年齢（ＳＡ）



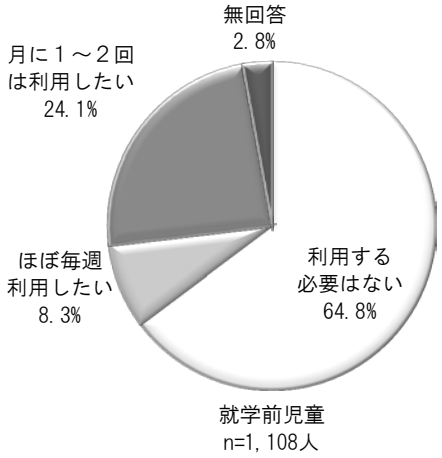
※（何歳くらいになったら利用しようと考えている）

（５）休日の教育・保育事業の利用意向

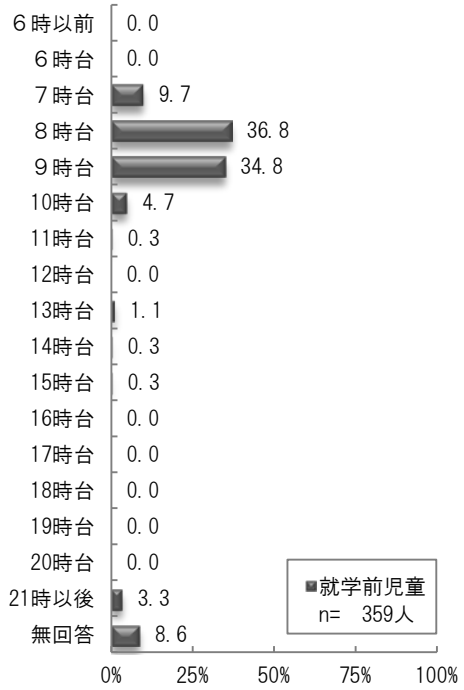
土曜日の利用希望は、「利用する必要はない」（64.8%）が多く、「月に 1～2 回は利用したい」（24.1%）、「ほぼ毎週利用したい」（8.3%）で 32.4%の方が利用を希望しています。

また、利用希望の開始時間は「８時台」（36.8%）、「９時台」（34.8%）、「7 時台」（9.7%）の順、終了時間は、「17 時台」（23.4%）、「18 時台」（18.9%）、「15 時台」（13.4%）の順に希望しています。

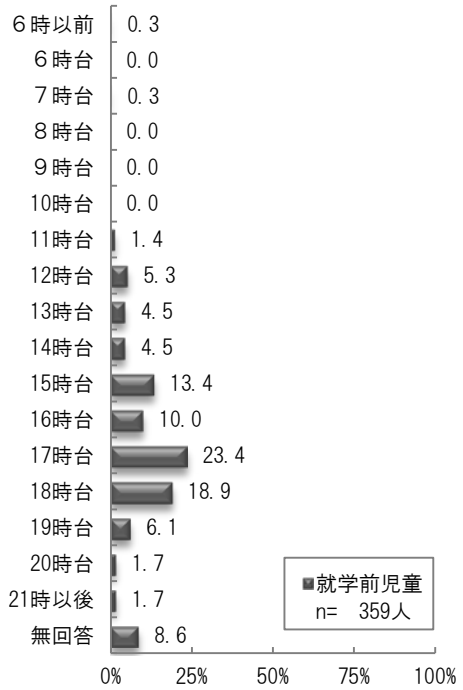
問 20(1)　土曜日の利用希望（ＳＡ）



問 20(1).1　土曜日の利用希望開始時間（ＮＡ）



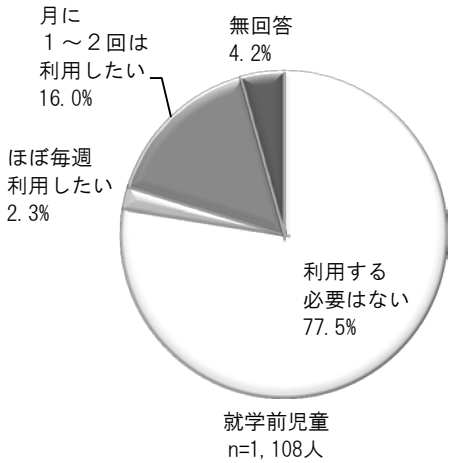
問 20(1).2　土曜日の利用希望終了時間（ＮＡ）



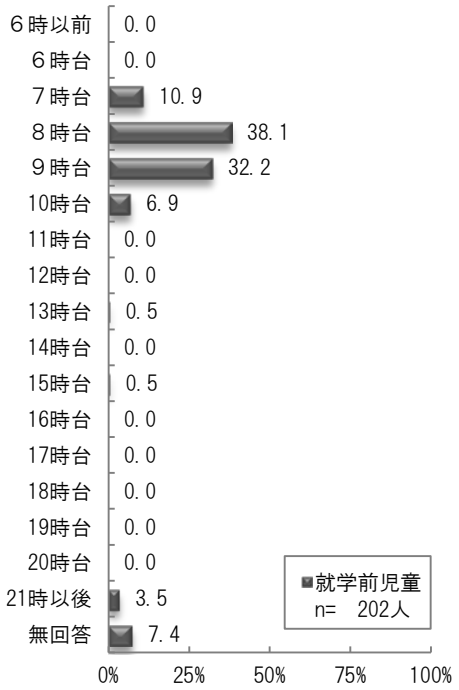
日曜・祝日の利用希望は、「利用する必要はない」（77.5%）が最も多く、「月に1～2回は利用したい」（16.0%）、「ほぼ毎週利用したい」（2.3%）で18.3%の方が利用を希望しています。

また、利用希望の開始時間は「８時台」（38.1%）、「９時台」（32.2%）、「７時台」（10.9%）の順、終了時間は、「17時台」（24.3%）、「18時台」（22.3%）、「16時台」（10.4%）の順に希望しています。

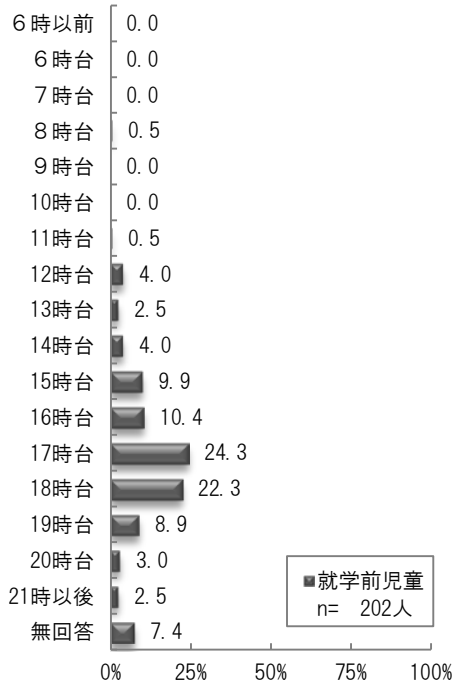
問 20(2)　日曜・祝日の利用希望（ＳＡ）



問 20(2).1　日曜・祝日の利用希望開始時間（ＮＡ）

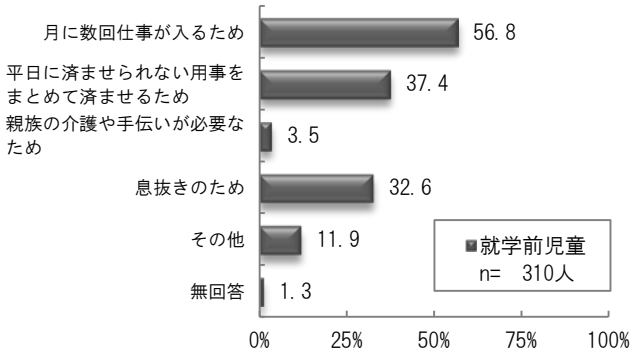


問 20(2).2　日曜・祝日の利用希望終了時間（ＮＡ）



土曜・日曜・祝日において「月に 1～2 回は利用したい」方の理由は、「月に数回仕事が入るため」（56.8%）、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」（37.4%）、「息抜きのため」（32.6%）の順となっています。

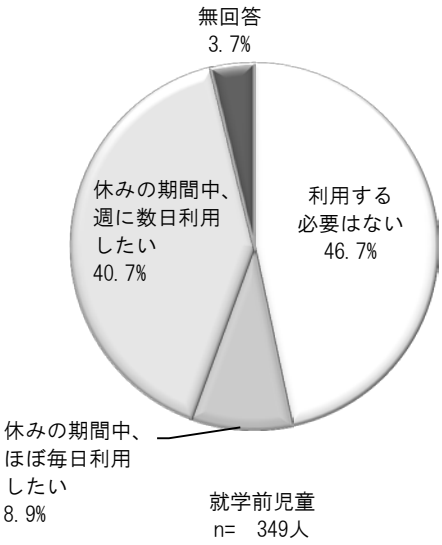
問 20-1　土曜・日曜・祝日に「月に１～２回は利用者したい」方の理由（ＭＡ）



長期休暇中において教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）は、「利用する必要はない」（46.7％）が最も多く、「休みの期間中、週に数日利用したい」（40.7％）、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（8.9％）で 49.6％の方が利用を希望しています。

また、希望する開始時間は、「９時台」（60.1％）、「８時台」（24.9％）、「10 時台」（9.8％）の順、終了時間は「15 時台」（33.5％）、「14 時台」「16 時台」「17 時台」（17.3％）の順に希望しています。

問 21　長期休暇中の教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）（ＳＡ）

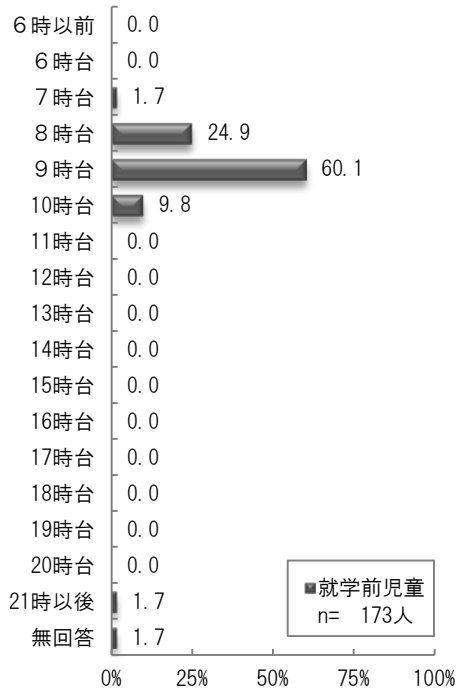


問21（利用希望）　夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望　　上段：人／下段：％

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	349	115	102	68	27	13	14	7	3
利用する必要はない	163	48	50	36	10	8	3	5	3
	46.7	41.7	49.0	52.9	37.0	61.5	21.4	71.4	100.0
休みの期間中、ほぼ毎日利用したい	31	16	6	7	0	0	2	0	0
	8.9	13.9	5.9	10.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
休みの期間中、週に数日利用したい	142	46	42	24	16	5	8	1	0
	40.7	40.0	41.2	35.3	59.3	38.5	57.1	14.3	0.0
無回答	13	5	4	1	1	0	1	1	0
	3.7	4.3	3.9	1.5	3.7	0.0	7.1	14.3	0.0

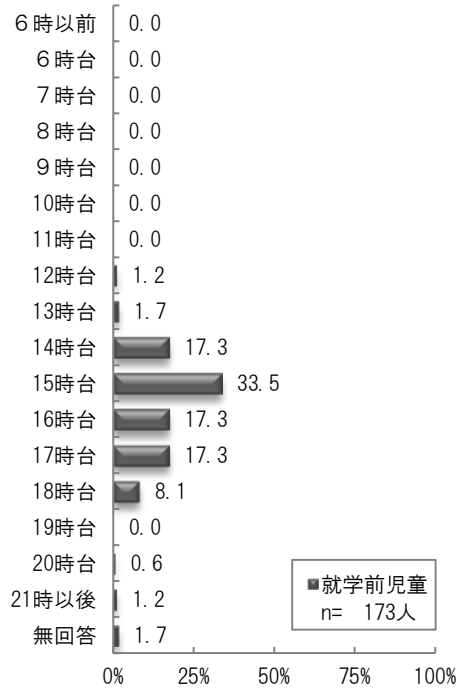
問 21.1　長期休暇中の希望開始時間

（ＮＡ）



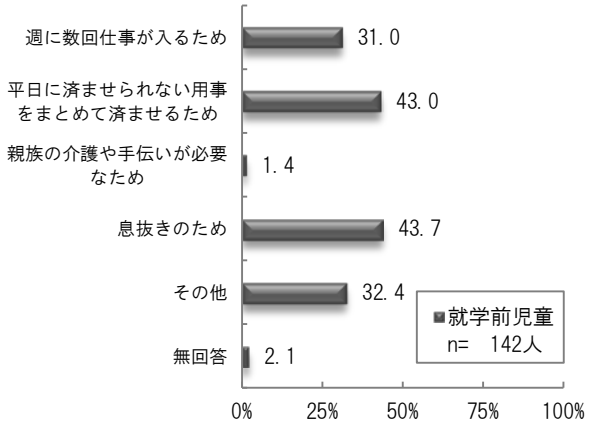
問 21.2　長期休暇中の希望終了時間

（ＮＡ）



長期休暇中において「週に数日利用したい」方の理由は、「息抜きのため」（43.7%）、「平日に済ませられない用事を済ませるため」（43.0%）、「週に数回仕事が入るため」（31.0%）の順となっています。

問 21-1　長期休暇中「週に数日利用したい」方の理由（ＭＡ）



（６）病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

保護者の（71.8%）の方は、病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかった体験をしています。その際の対処方法は、「母親が仕事を休んだ」（56.5%）、「就労していない保護者がみた」（38.8%）、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」（36.2%）の順となっています。

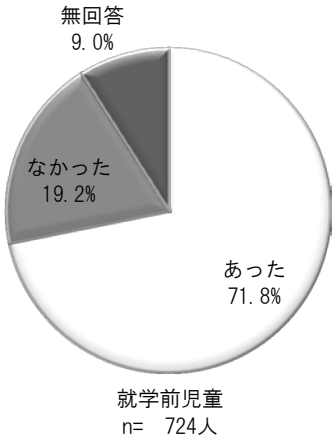
就労していない保護者がみた日数は「10 日」（22.3%）、「5 日」（17.8%）、「3 日」（8.4%）の順となっています。

病児・病後児保育を利用した日数は、「5 日」（24.0%）、「2 日」、「3 日」（各 20.0%）の順となっています。

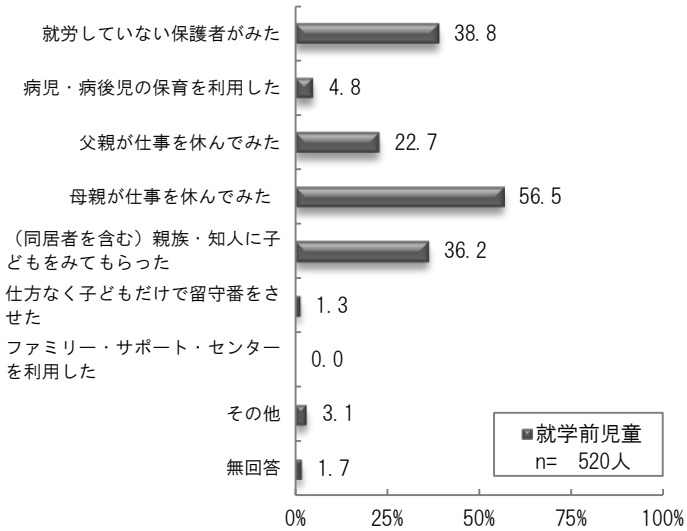
母親が休んだ日数は、「10 日」（20.4%）、「5 日」（15.6%）、「3 日」（12.9%）の順、父親では「２日」（32.2%）、「1 日」（27.1%）、「3 日」（13.6%）の順となっています。

（同居者を含む）親族・知人に預けた日数は、「2 日」（17.0%）、「5 日」（16.0%）、「3 日」「10 日」（15.4%）の順となっています。

問 22　病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことの有無（ＳＡ）



問 22-1　この１年間の対処方法（ＳＡ）



問22（対処の有無）　この１年間に、お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

上段：人／下段：%

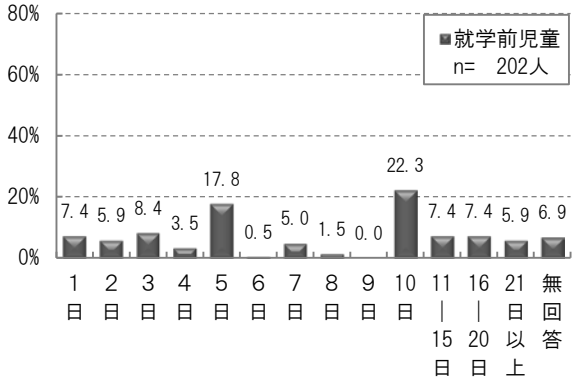
	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	724	227	202	138	51	42	42	17	5
あった	520	170	146	102	32	26	32	9	3
	71.8	74.9	72.3	73.9	62.7	61.9	76.2	52.9	60.0
なかった	139	38	42	22	13	12	5	6	1
	19.2	16.7	20.8	15.9	25.5	28.6	11.9	35.3	20.0
無回答	65	19	14	14	6	4	5	2	1
	9.0	8.4	6.9	10.1	11.8	9.5	11.9	11.8	20.0

問22-1　お子さんが病気やけがで利用している教育・保育事業が利用できなかった場合の対処方法　　上段：人／下段：％

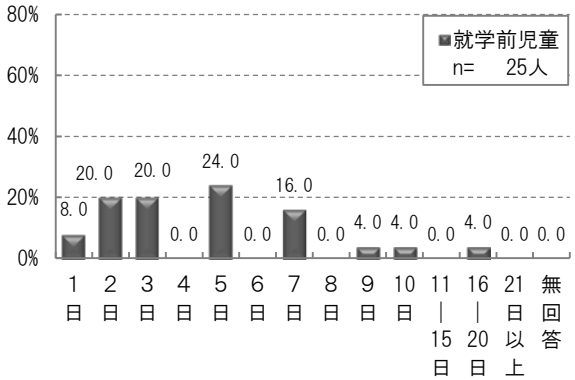
	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川 富岡地区	その他	無回答
対象者	520	170	146	102	32	26	32	9	3
就労していない保護者がみた	202	72	60	39	15	6	5	3	2
	38.8	42.4	41.1	38.2	46.9	23.1	15.6	33.3	66.7
病児・病後児の保育を利用した	25	4	10	9	0	0	0	1	1
	4.8	2.4	6.8	8.8	0.0	0.0	0.0	11.1	33.3
父親が仕事を休んでみた	118	34	34	25	6	7	9	1	2
	22.7	20.0	23.3	24.5	18.8	26.9	28.1	11.1	66.7
母親が仕事を休んでみた	294	93	85	57	14	17	21	6	1
	56.5	54.7	58.2	55.9	43.8	65.4	65.6	66.7	33.3
（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった	188	58	52	40	13	7	14	3	1
	36.2	34.1	35.6	39.2	40.6	26.9	43.8	33.3	33.3
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	7	1	4	2	0	0	0	0	0
	1.3	0.6	2.7	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ファミリー・サポート・センターを利用した	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	16	6	2	4	2	0	1	1	0
	3.1	3.5	1.4	3.9	6.3	0.0	3.1	11.1	0.0
無回答	9	3	3	1	1	0	1	0	0
	1.7	1.8	2.1	1.0	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0

（ＮＡ）

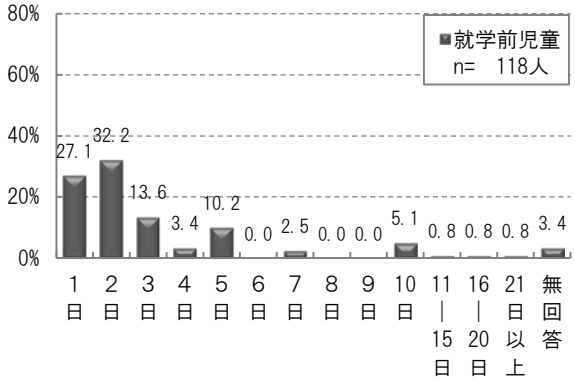
問 22-1.1　就労していない保護者がみた日数



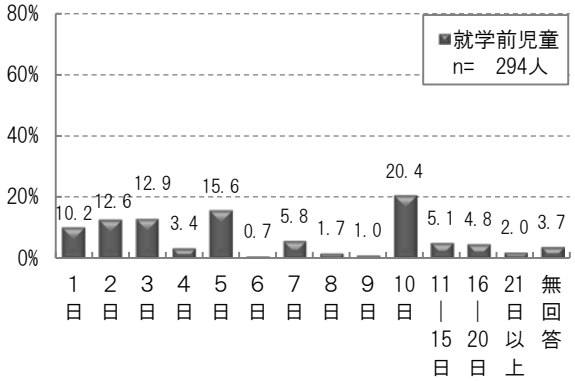
問 22-1.2　病児・病後児保育を利用した日数



問 22-1.3 父親が休んだ日数

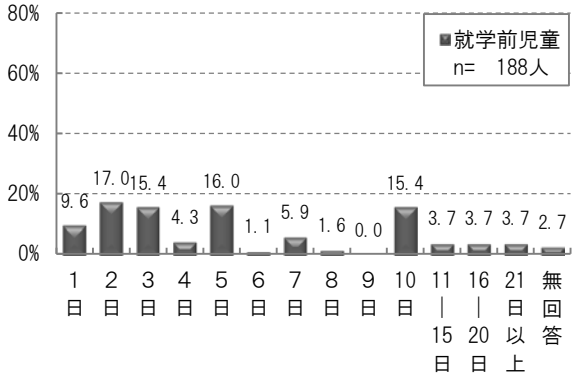


問 22-1.4　母親が休んだ日数

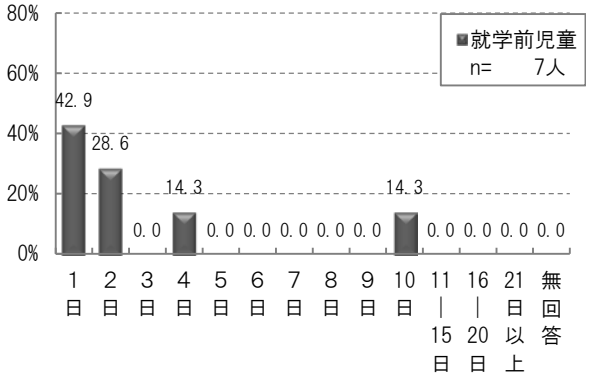


（ＮＡ）

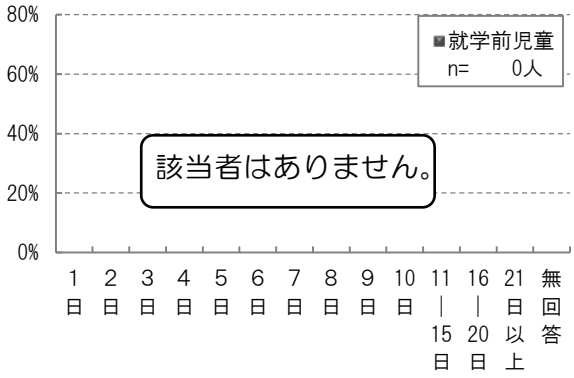
問 22-1.5　同居者を含む）親族・知人に預けた日数



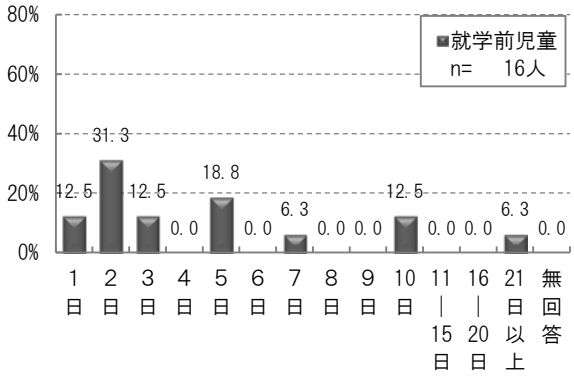
問 22-1.6　子どもだけで留守番させた日数



問 22-1.7　ﾌｧﾐﾘｰ･ｻﾎﾟｰﾄ･ｾﾝﾀｰを利用した日数



問 22-1.8　その他

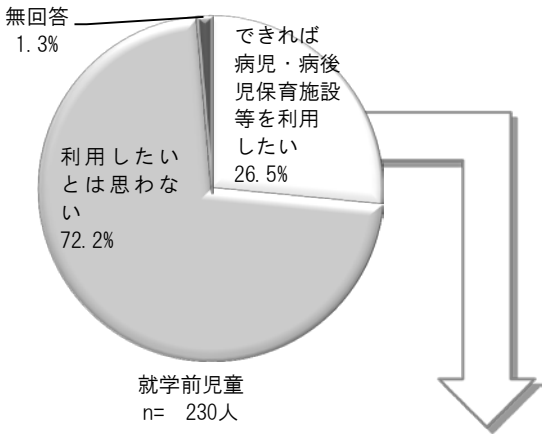


父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると 26.5%の方が利用を希望し、その利用希望日数は「５日」（23.0%）、「２日」（13.1%）、「10日」（11.5%）の順となっています。

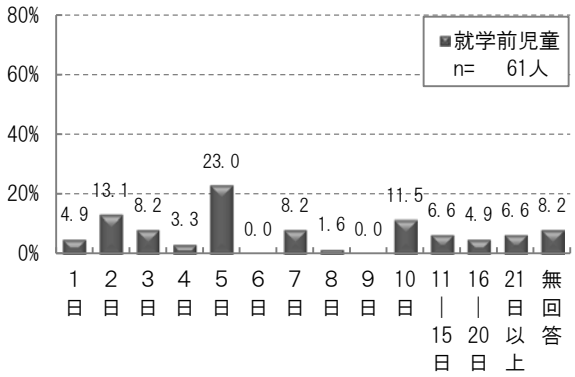
また、子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（82.0%）、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」（54.1%）の順となっています。一方、利用意向のない方の理由は、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」（54.8%）、「親が仕事を休んで対応する」「利用料がかかる・高い」（各 22.3%）の順となっています。

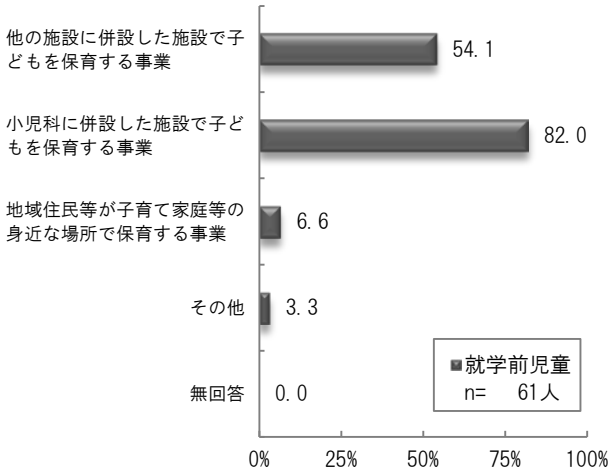
父母が休む以外の対処方法を選んだ方に対して「父母が休んで看たい」という意向をみると（64.8%）の方が「できれば仕事を休んで看たい」と回答しています。一方、「仕事を休んで看ることは非常に難しい」方の理由は、「子どもの看護を理由に休みが取れない」（53.1%）、「休暇日数が足りないので休めない」（28.4%）の順となっています。

問 22-2　父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設利用意向（ＳＡ）

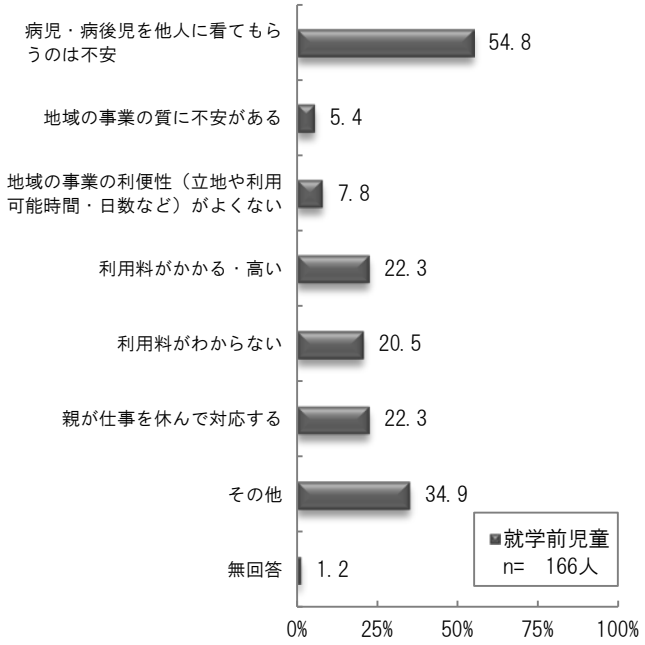


問 22-3　子どもを預ける場合の望ましい希望日数（年間）と事業形態（ＮＡ）（ＭＡ）

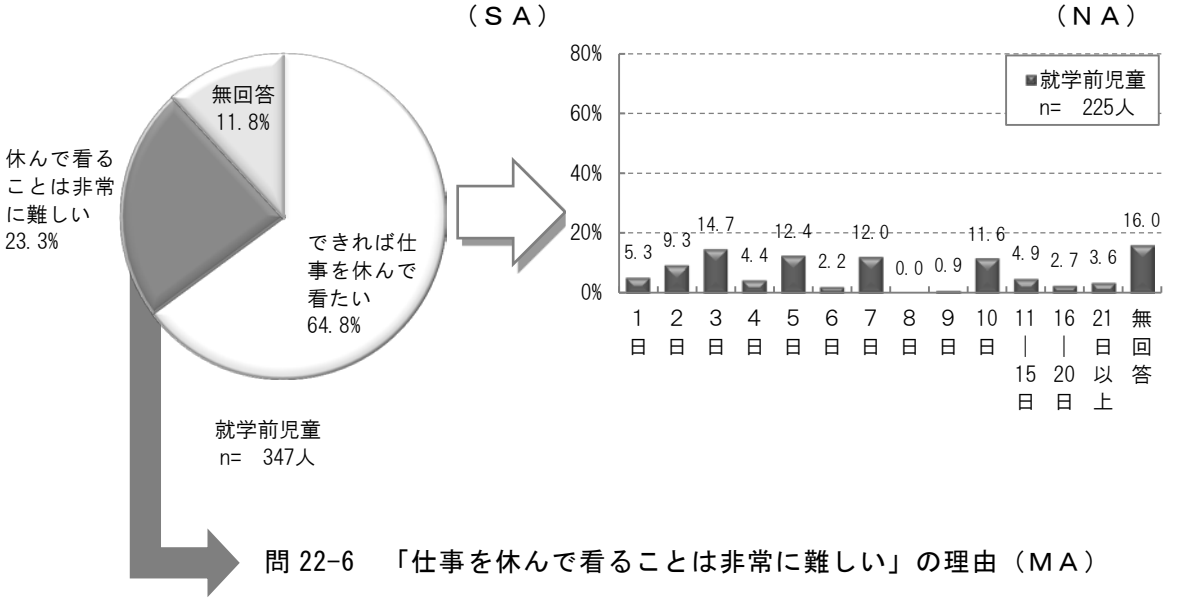




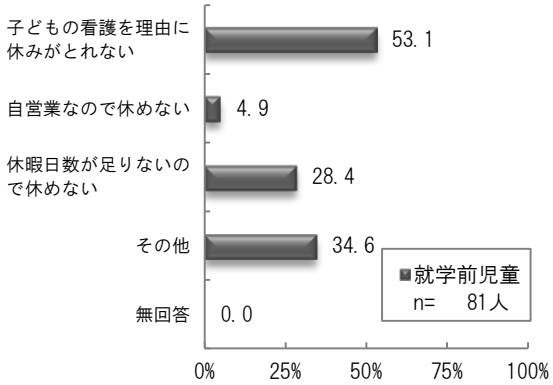
問 22-4　病児・病後児のための保育施設利用意向のない方の理由（ＭＡ）



問 22-5　父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が休んで看たい」意向と希望日数



問 22-6　「仕事を休んで看ることは非常に難しい」の理由（ＭＡ）



２　地域の子育て支援事業の現状と今後の利用意向

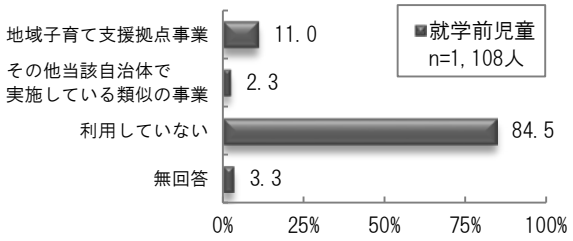
（１）地域子育て支援拠点事業の利用について

地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「利用していない」（84.5%）が最も多く、「地域子育て支援拠点事業」の利用者が（11.0%）、その他の類似事業の利用者が（2.3%）となっています。

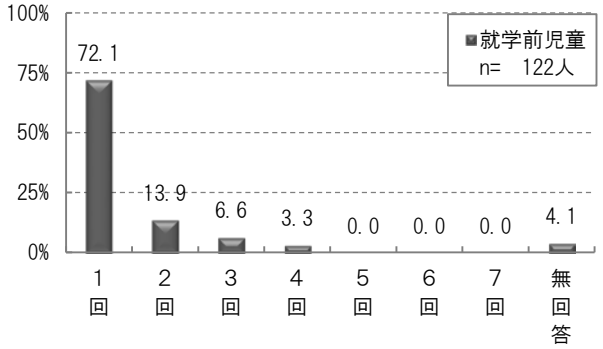
地域子育て支援拠点事業の利用回数（1 週当たり）は、「1 回」（72.1%）が最も多く、次いで「２回」（13.9%）、「3 回」（6.6%）の順となっています。

その他の類似事業では、就学前児童で「1 回」（76.9%）が最も多く、その他回数はごく少数となっています。

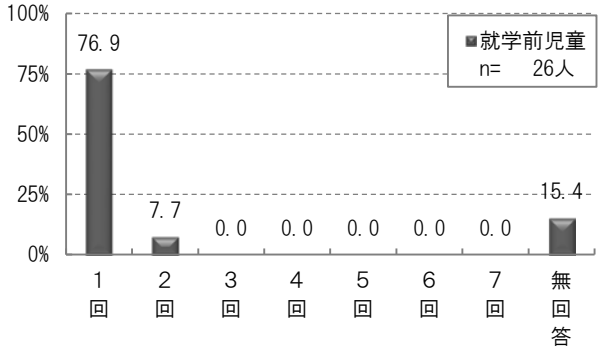
問 17.1　地域子育て支援拠点事業の利用状況（ＳＡ）



問 17.1.1　地域子育て支援拠点事業の利用回数（１週当たり）（ＮＡ）



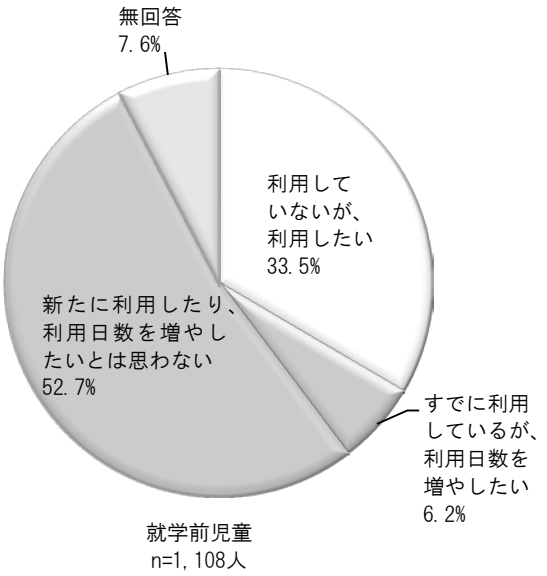
問 17.1.2　その他類似事業の利用回数（１週当たり）（ＮＡ）



「新たに利用したり、利用日数を増やしたいと思わない」（52.7%）、「利用していないが、利用したい」（33.5%）、「すでに利用しているが、利用日数を増やしたい」（6.2%）の順となっています。

希望利用回数（１週当たり）は「1 回」（58.0%）が最も多くなっています。また、増やしたい利用回数（１週当たり）は「1 回」（46.4%）、「2 回」（21.7%）の順となっています。

問 18　未利用者の利用及び利用者の利用回数増加希望（ＳＡ）

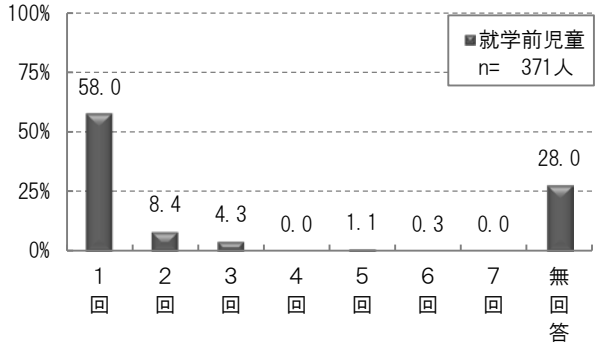


問18（利用希望）　地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。

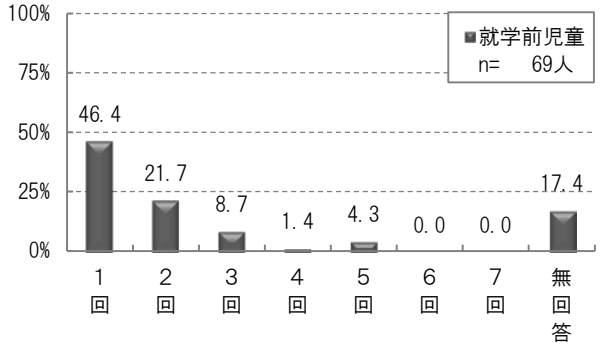
上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
利用していないが、利用したい	371	129	95	68	24	17	19	15	4
	33.5	36.3	31.9	33.3	29.6	28.8	29.7	42.9	33.3
すでに利用しているが、利用日数を増やしたい	69	29	13	11	6	3	4	1	2
	6.2	8.2	4.4	5.4	7.4	5.1	6.3	2.9	16.7
新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない	584	173	167	118	43	31	33	14	5
	52.7	48.7	56.0	57.8	53.1	52.5	51.6	40.0	41.7
無回答	84	24	23	7	8	8	8	5	1
	7.6	6.8	7.7	3.4	9.9	13.6	12.5	14.3	8.3

問 18.1　希望利用回数（１週当たり）（ＮＡ）



問 18.2　増やしたい利用回数（１週当たり）（ＮＡ）

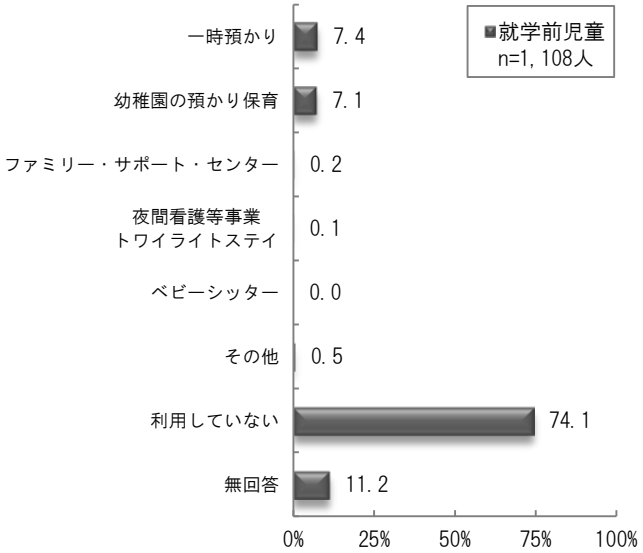


（２）不定期の一時保育の利用について

一時保育の利用状況をみると「利用していない」（74.1％）、「一時預かり」（7.4％）、「幼稚園の預かり保育」（7.1％）となっています。

利用していない理由は、「特に利用する必要がない」（79.2％）、「利用料がかかる・高い」（17.5％）、「事業の利用方法（手続き等）がわからない」（11.7％）の順となっています。

問 23　一時保育事業の利用状況（ＭＡ）

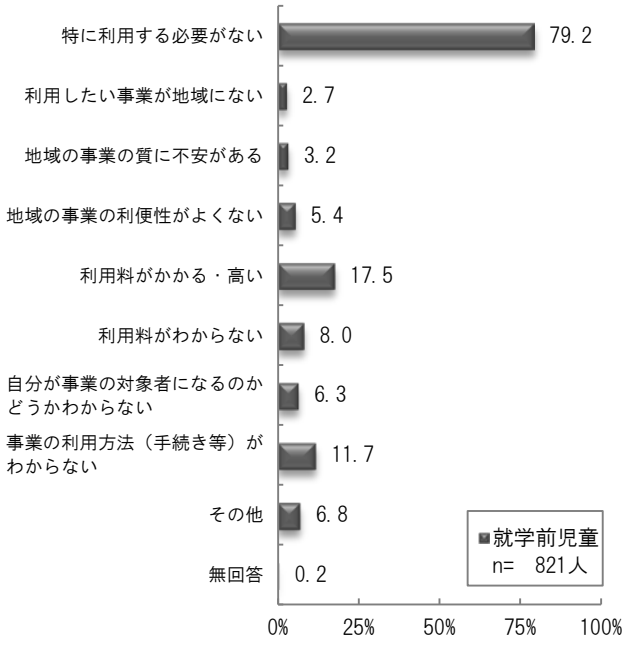


問23（利用事業）　定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。

上段：人／下段：％

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川 富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
一時預かり	82	30	19	15	6	4	7	1	0
	7.4	8.5	6.4	7.4	7.4	6.8	10.9	2.9	0.0
幼稚園の預かり保育	79	33	21	14	6	2	2	1	0
	7.1	9.3	7.0	6.9	7.4	3.4	3.1	2.9	0.0
ファミリー・サポート・センター	2	0	0	1	0	1	0	0	0
	0.2	0.0	0.0	0.5	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
夜間養護等事業：トワイライトステイ	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ベビーシッター	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	5	0	2	2	0	1	0	0	0
	0.5	0.0	0.7	1.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
利用していない	821	255	220	158	63	40	48	28	9
	74.1	71.8	73.8	77.5	77.8	67.8	75.0	80.0	75.0
無回答	124	41	36	14	6	12	7	5	3
	11.2	11.5	12.1	6.9	7.4	20.3	10.9	14.3	25.0

問 23-1　一時保育を利用していない理由（ＭＡ）



幼稚園の預かり保育は、年間「21 日以上」（22.8%）、「10 日」（17.7%）、「5 日」（15.2%）の順となっています。

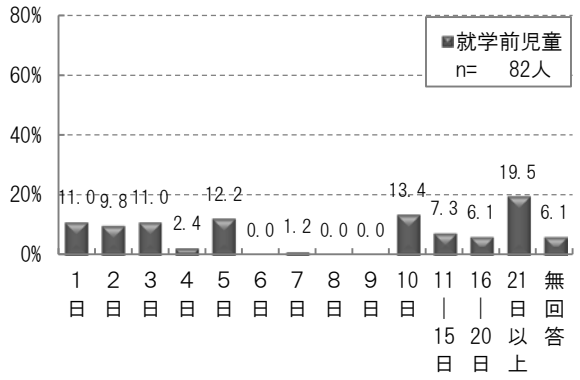
ファミリー・サポート・センターは、「2 日」（50.0%）、が一番多くなっています。

夜間養護等事業は、１人の利用で「無回答」となっています。

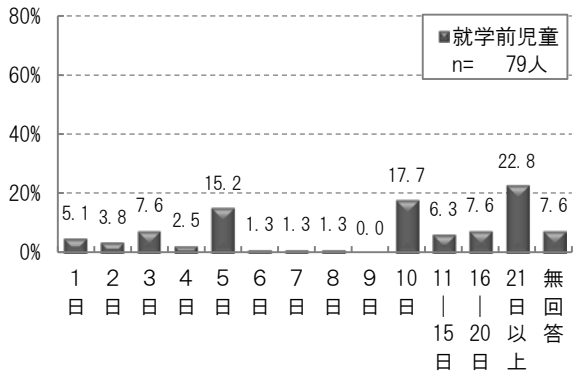
その他の事業は、「21 日以上」（60.0%）、「10 日」（20.0%）の順となっています。

（ＮＡ）

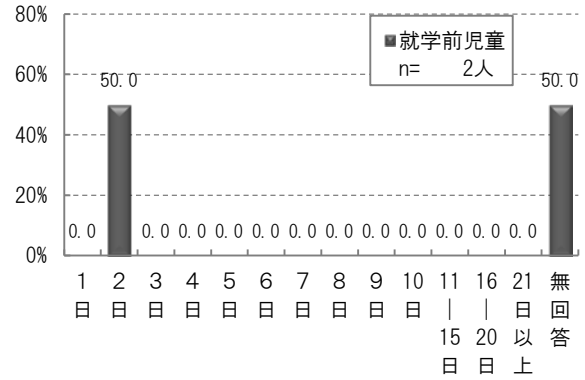
問 23.1　一時預かり（年間）



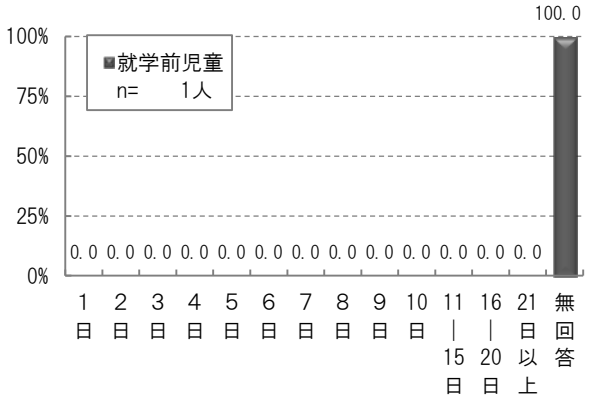
問 23.2　幼稚園の預かり保育（年間）



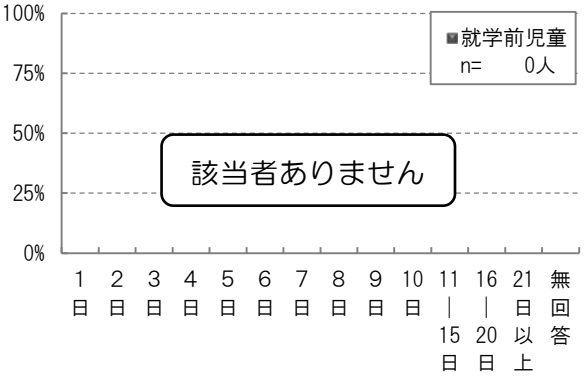
問 23.3　ﾌｧﾐﾘｰ･ｻﾎﾟｰﾄ･ｾﾝﾀｰ（年間）



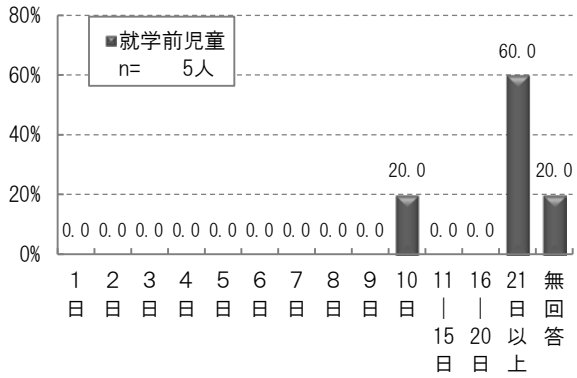
問 23.4　夜間養護等事業（年間）



問 23.5　ベビーシッター（年間）

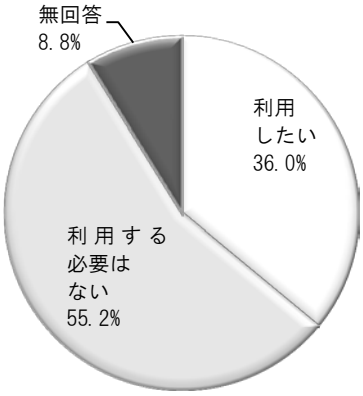


問 23.6　その他（年間）

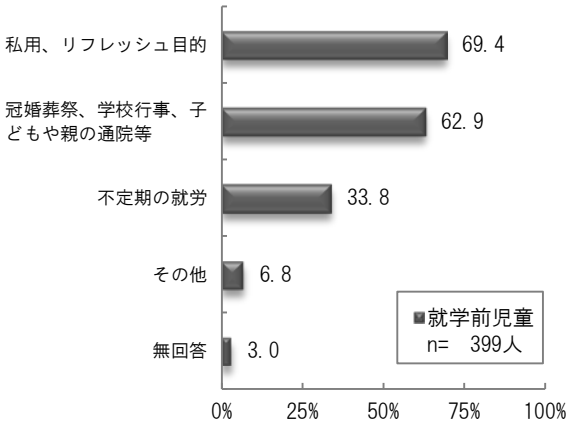


一時保育事業の利用希望とその目的は、「利用する必要はない」（55.2%）、「利用したい」（36.0%）となっています。利用したい方の利用目的は、「私用、リフレッシュ目的」（69.4%）、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」（62.9%）、「不定期の就労」（33.8%）の順となっています。

問 24　一時保育事業の利用希望とその目的（ＳＡ）（ＭＡ）



就学前児童
n=1,108人



問24（利用希望）　私用、親の通院、不定期の就労等の目的での利用希望　　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
利用したい	399	147	93	70	36	17	25	9	2
	36.0	41.4	31.2	34.3	44.4	28.8	39.1	25.7	16.7
利用する必要はない	612	180	173	118	43	32	36	22	8
	55.2	50.7	58.1	57.8	53.1	54.2	56.3	62.9	66.7
無回答	97	28	32	16	2	10	3	4	2
	8.8	7.9	10.7	7.8	2.5	16.9	4.7	11.4	16.7

利用希望の年間合計日数は、「21 日以上」（26.6%）で最も多く、「11～15 日」（14.0%）、「16～20 日」（9.0%）の順となっています。

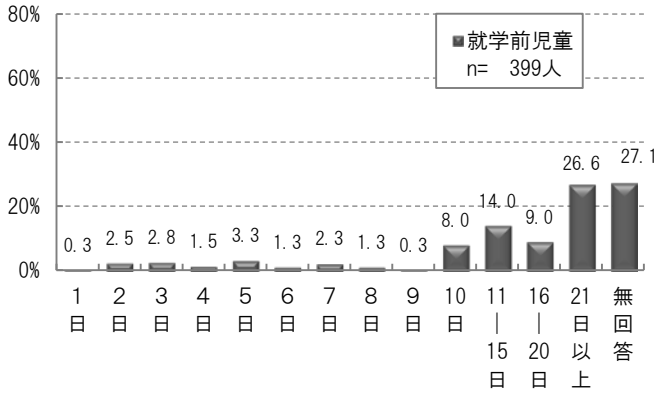
目的ごとの希望利用日数をみると、私用・リフレッシュ目的は、年間「11-15 日」（22.4%）、「21 日以上」（18.1%）、「10 日」（17.3%）、「5 日」（13.0%）の順となっています。

冠婚葬祭、学校行事、家族の通院目的は、「5日」（21.5%）、「10 日」（17.1%）の順となっています。

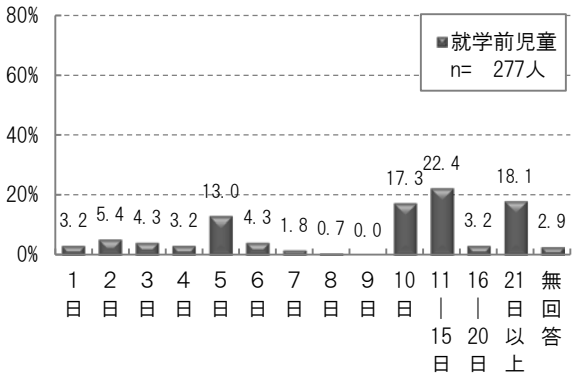
不定期の就労目的は、「21 日以上」（32.6%）、「10 日」（16.3%）、「5日」（14.1%）の順となっています。

その他の目的は、「10 日」「21 日以上」が各（25.9%）で最も多くなっています。

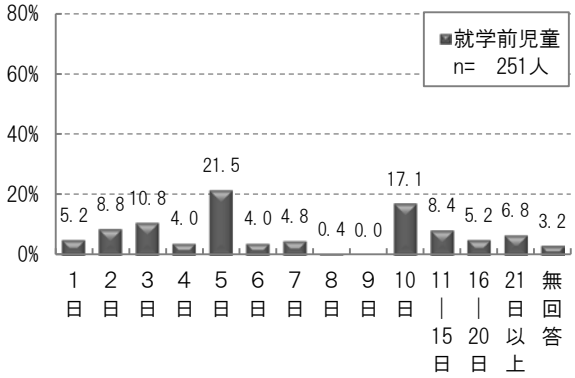
問 24.1 利用希望年間合計日数（ＳＡ）



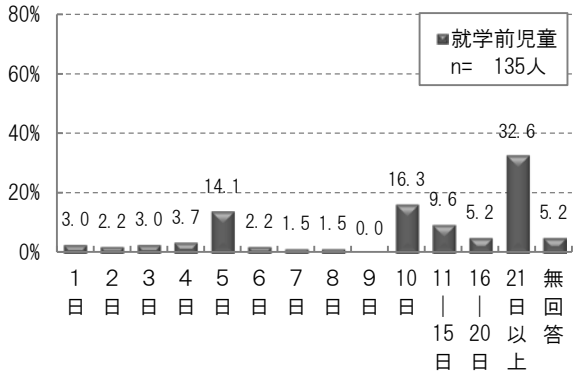
問 24.1.①私用、リフレッシュ目的



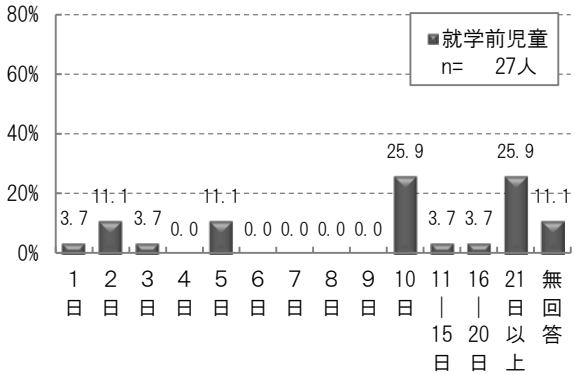
問 24.1.② 冠婚葬祭、学校行事、家族の通院目的



問 24.1.③不定期の就労目的

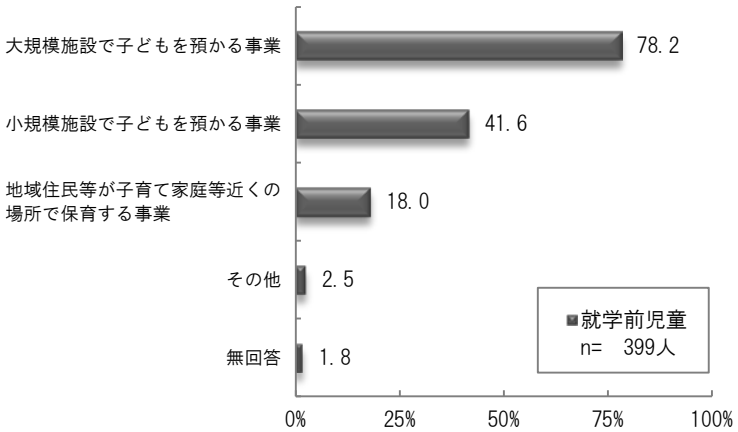


問 24.1.④その他の目的



子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、「大規模施設で子供を預かる事業」（78.2%）、「小規模施設で子供を預かる事業」（41.6%）、「地域住民等が子育て家庭等近くの場所で保育する事業」（18.0%）の順となっています。

問 24-1　子どもを預ける場合の望ましい事業形態（ＭＡ）

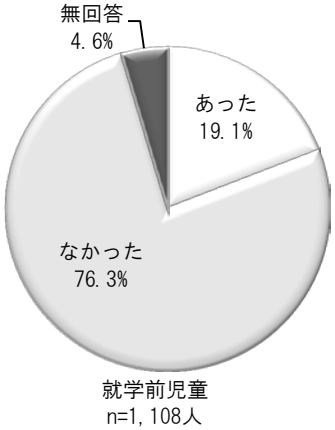


（３）宿泊を伴う一時保育の利用について

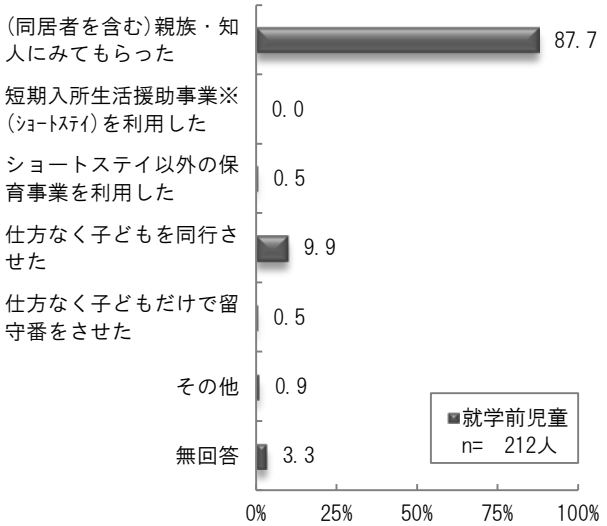
この１年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けた方は、（19.1%）となっています。

この対処方法は、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」（87.7%）が最も多くなっています。また、親族・知人にみてもらった場合の困難度は、「特に困難ではない」（47.3%）、「どちらかというと困難」（40.9%）、「非常に困難」（10.2%）となっています。

問 25　この１年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けたことの有無（ＳＡ）



問 25.1　１年間の対処方法（ＭＡ）



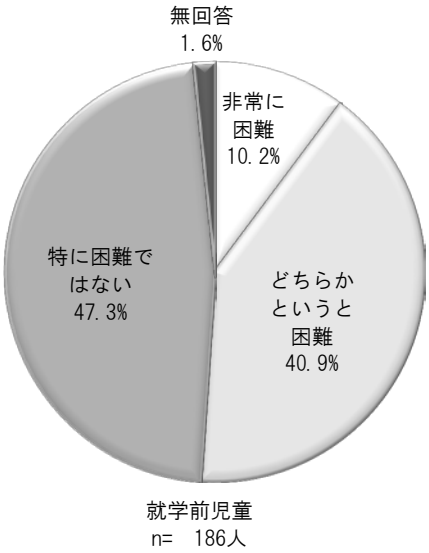
※短期入所生活援助事業：児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業

問25（対処の有無）　この１年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことの有無

上段：人／下段：％

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
あった	212	79	52	42	16	6	11	5	1
	19.1	22.3	17.4	20.6	19.8	10.2	17.2	14.3	8.3
なかった	845	266	229	154	64	44	52	26	10
	76.3	74.9	76.8	75.5	79.0	74.6	81.3	74.3	83.3
無回答	51	10	17	8	1	9	1	4	1
	4.6	2.8	5.7	3.9	1.2	15.3	1.6	11.4	8.3

問 25-1　親族・知人にみてもらった場合の困難度（ＳＡ）

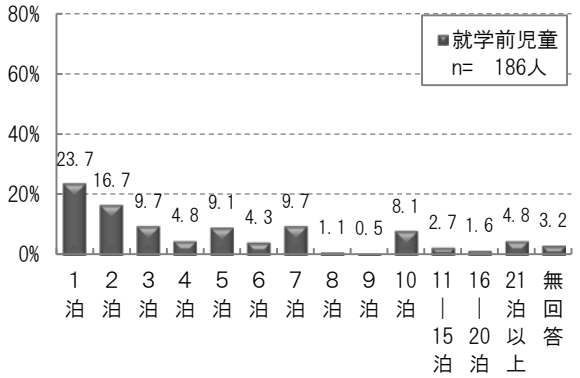


（同居者を含む）親族・知人に預けた泊数は、「1 泊」（23.7%）、「2 泊」（16.7%）、「3 泊」「7 泊」各（9.7%）の順になっています。

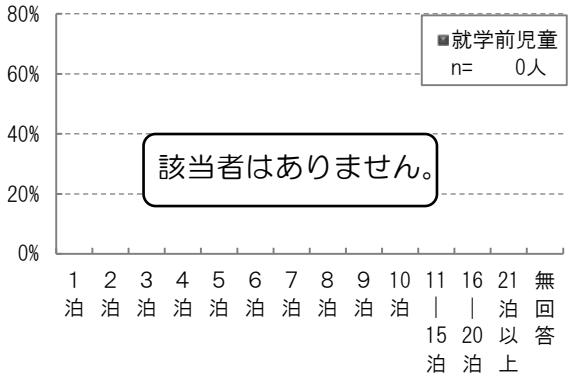
子どもを同行させた泊数は、「1 泊」（47.6%）、「2 泊」（28.6%）の順となっています。

（ＮＡ）

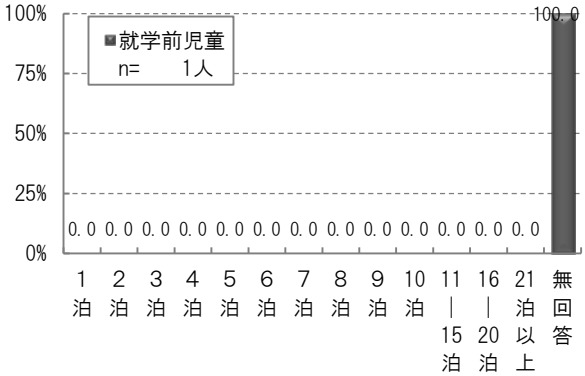
問 25.1.① （同居者を含む）親族・知人に預けた泊数



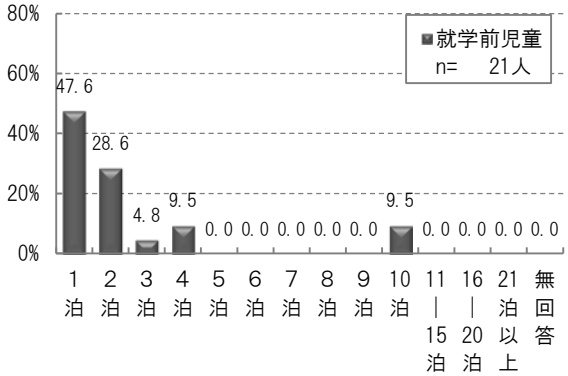
問 25.1.② ｼｮｰﾄｽﾃｲを利用した泊数



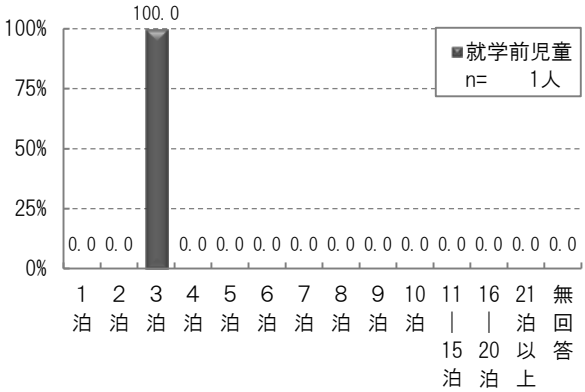
問 25.1.③ ｼｮｰﾄｽﾃｲ以外を利用した泊数



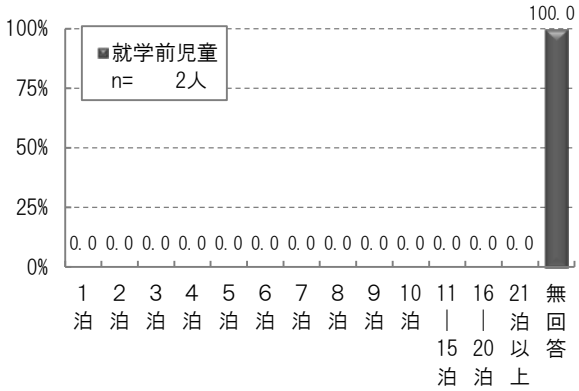
問 25.1.④子どもを同行させた泊数



問 25.1.⑤ 子どもだけで留守番をさせた泊数



問 25.1.⑥ その他の対処をした泊数



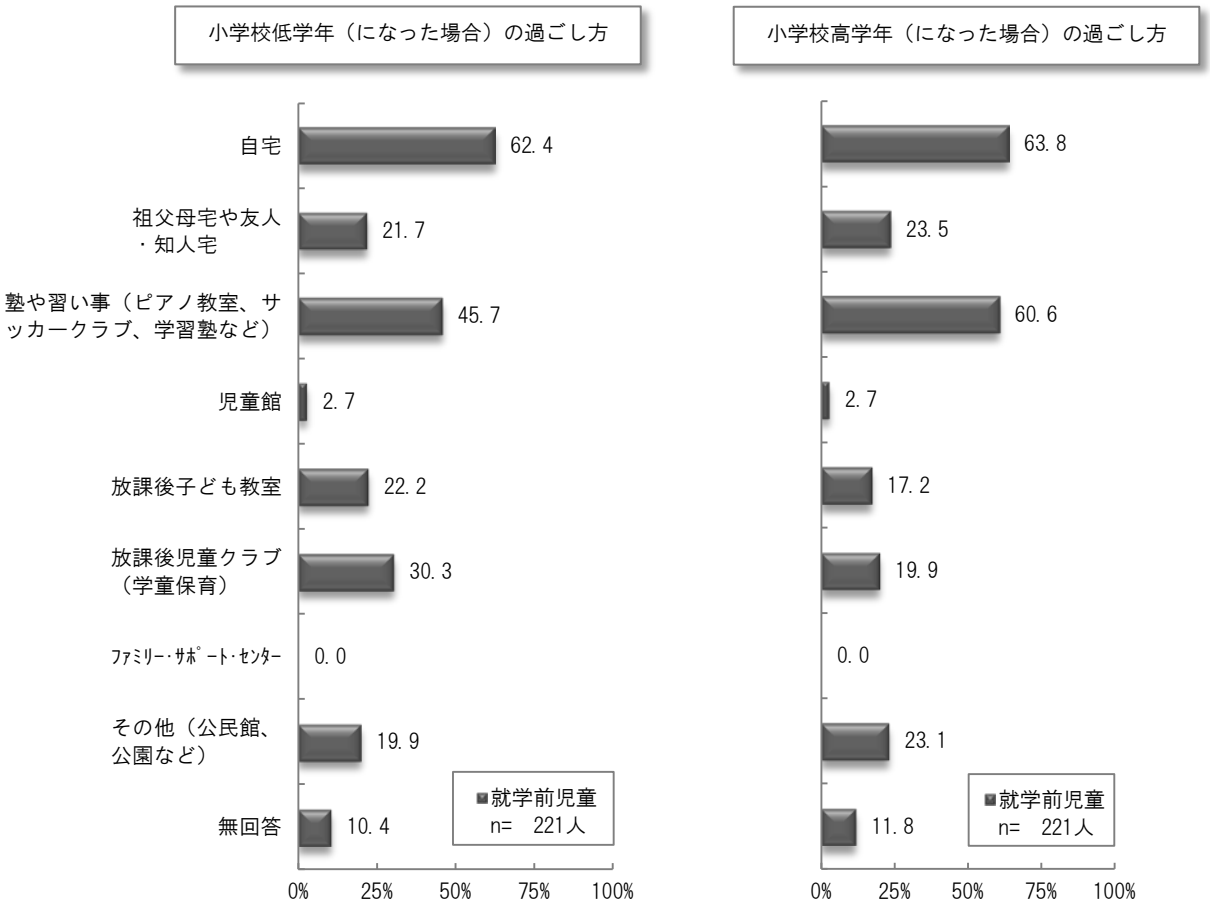
３　放課後の過ごし方について

（１）平日の放課後の過ごし方について

放課後の過ごし方をみると小学校低学年のうちは「自宅」（62.4%）、「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（45.7%）、「放課後児童クラブ」（30.3%）、「放課後子ども教室」（22.2%）の順に希望しています。

また、小学校高学年になっても「自宅」（63.8%）、「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（60.6%）、「祖父母や友人・知人宅」（23.5%）、「その他」（23.1%）となり、「放課後児童クラブ」が減少し「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が増加しています。

問 26・問 27　放課後の過ごし方の希望（ＭＡ）



※「小学校低学年」は１～３年生、「小学校高学年」は４～６年生。

問26（場所）　小学校低学年（１～３年生）のうち、放課後の時間を過ごさせたい場所　　上段：人／下段：％

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	221	56	73	48	13	13	14	3	1
自宅	138	39	46	24	8	8	11	2	0
	62.4	69.6	63.0	50.0	61.5	61.5	78.6	66.7	0.0
祖父母宅や友人・知人宅	48	15	15	11	0	4	2	1	0
	21.7	26.8	20.5	22.9	0.0	30.8	14.3	33.3	0.0
塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	101	26	30	27	5	5	7	1	0
	45.7	46.4	41.1	56.3	38.5	38.5	50.0	33.3	0.0
児童館	6	1	0	2	1	1	1	0	0
	2.7	1.8	0.0	4.2	7.7	7.7	7.1	0.0	0.0
放課後子ども教室	49	11	13	15	3	2	5	0	0
	22.2	19.6	17.8	31.3	23.1	15.4	35.7	0.0	0.0
放課後児童クラブ（学童保育）	67	15	24	16	5	2	5	0	0
	30.3	26.8	32.9	33.3	38.5	15.4	35.7	0.0	0.0
ファミリー・サポート・センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他（公民館、公園など）	44	16	10	11	2	1	3	1	0
	19.9	28.6	13.7	22.9	15.4	7.7	21.4	33.3	0.0
無回答	23	4	7	7	0	3	0	1	1
	10.4	7.1	9.6	14.6	0.0	23.1	0.0	33.3	100.0

問27（場所）　小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後の時間を過ごさせたい場所　　上段：人／下段：％

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	221	56	73	48	13	13	14	3	1
自宅	141	34	51	25	8	10	11	2	0
	63.8	60.7	69.9	52.1	61.5	76.9	78.6	66.7	0.0
祖父母宅や友人・知人宅	52	16	14	11	2	6	3	0	0
	23.5	28.6	19.2	22.9	15.4	46.2	21.4	0.0	0.0
塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	134	34	43	30	8	7	11	1	0
	60.6	60.7	58.9	62.5	61.5	53.8	78.6	33.3	0.0
児童館	6	1	1	2	1	0	1	0	0
	2.7	1.8	1.4	4.2	7.7	0.0	7.1	0.0	0.0
放課後子ども教室	38	7	11	13	3	2	2	0	0
	17.2	12.5	15.1	27.1	23.1	15.4	14.3	0.0	0.0
放課後児童クラブ（学童保育）	44	10	12	14	4	2	1	1	0
	19.9	17.9	16.4	29.2	30.8	15.4	7.1	33.3	0.0
ファミリー・サポート・センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他（公民館、公園など）	51	16	15	11	3	1	4	1	0
	23.1	28.6	20.5	22.9	23.1	7.7	28.6	33.3	0.0
無回答	26	6	8	7	0	3	0	1	1
	11.8	10.7	11.0	14.6	0.0	23.1	0.0	33.3	100.0

放課後を過ごさせたい具体的な場所と日数をみると、「自宅」では「５日」（低学年時期 25.4%・高学年時期 29.8%）が最も多くなっています。「祖父母宅や友人・知人宅」では、「1 日」（低学年時期 45.8%・高学年時期 53.8%）が最も多くなっています。

「塾や習い事」では、低学年・高学年の時期ともに「１～3 日」という回答が多くを占めています。「児童館」と「放課後子ども教室」では、「１～５日」の中で回答がばらついていますが、低学年・高学年ともにの「1 日」という回答が多くなっています。

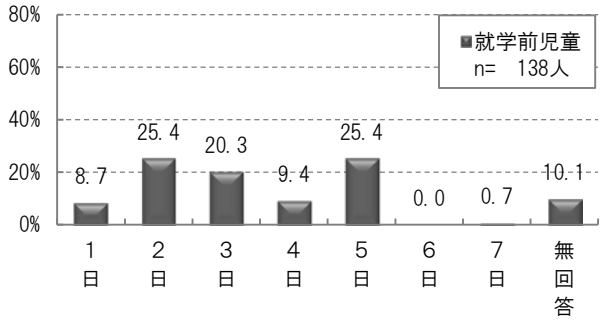
「放課後児童クラブ」では、「５日」（低学年時期 59.7%・高学年時期 40.9%）が最も多くなっています。

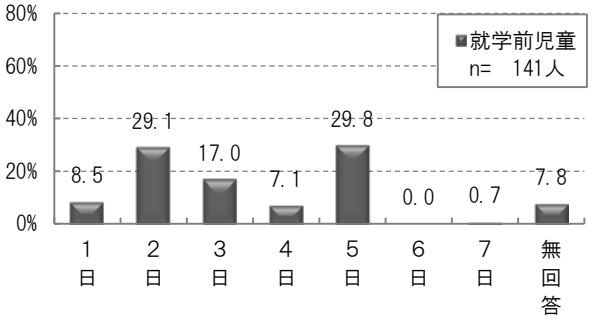
問 26・問 27　放課後の過ごし方の希望日数（ＮＡ）

小学校低学年（になった場合）の過ごし方

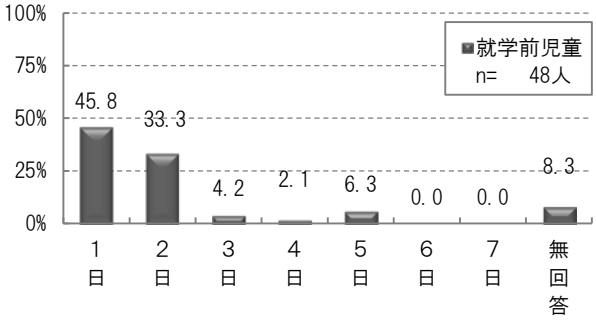
小学校高学年（になった場合）の過ごし方

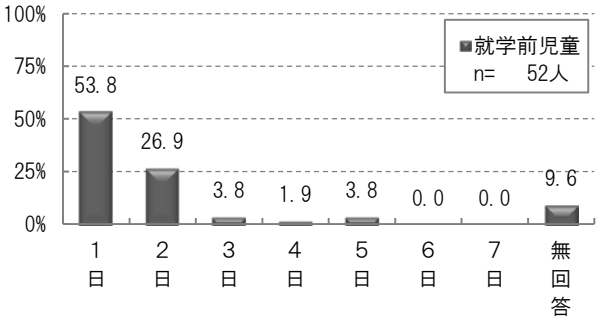
自宅



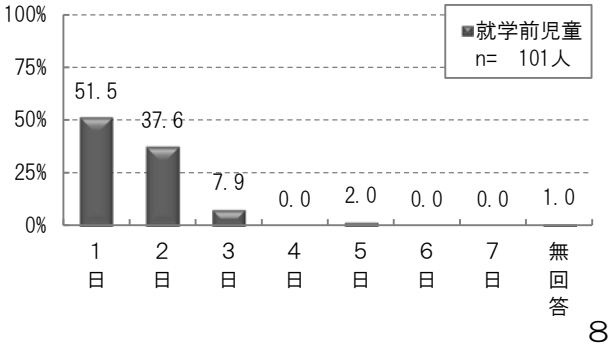


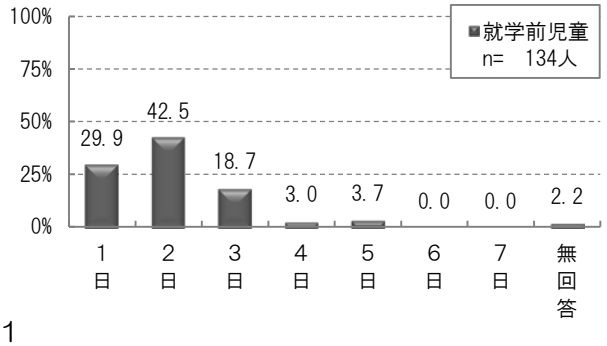
祖父母宅や友人・知人宅





塾や習い事

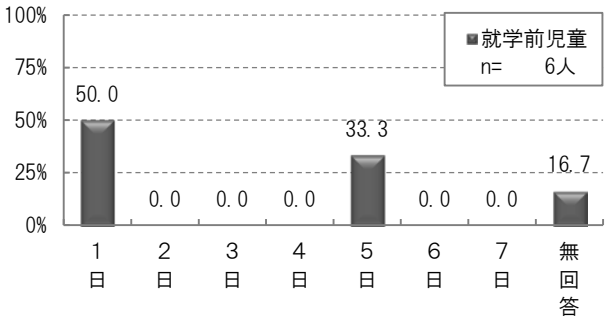


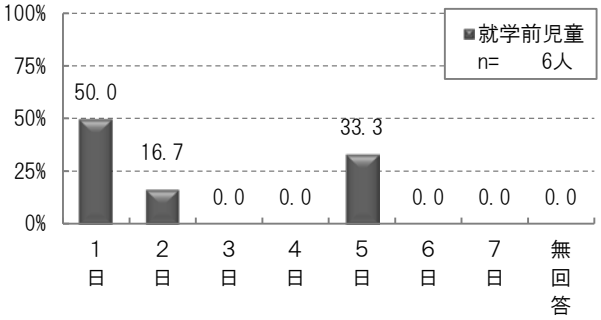


小学校低学年（になった場合）の過ごし方

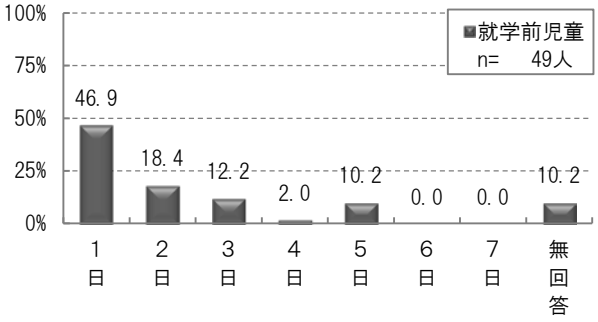
小学校高学年（になった場合）の過ごし方

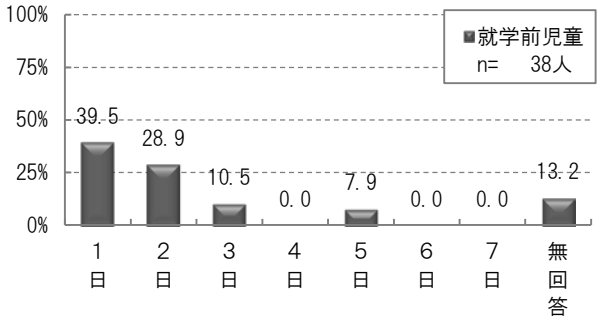
児童館



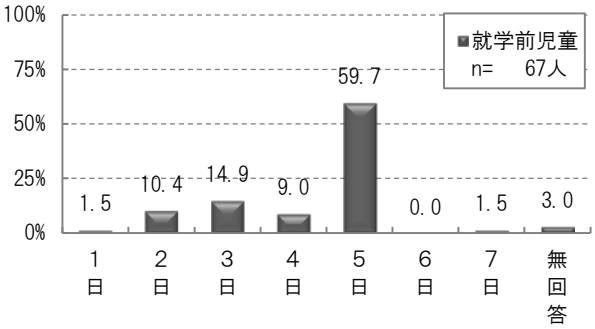


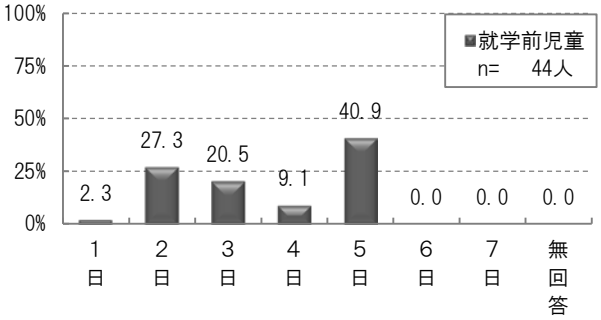
放課後子ども教室



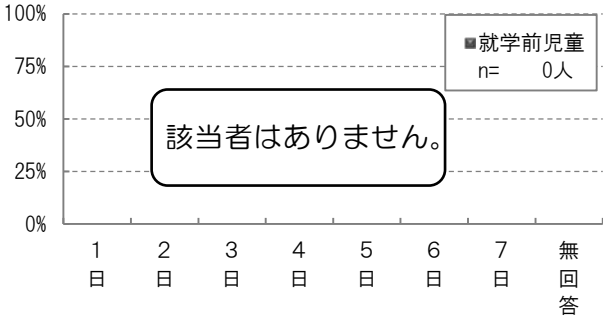


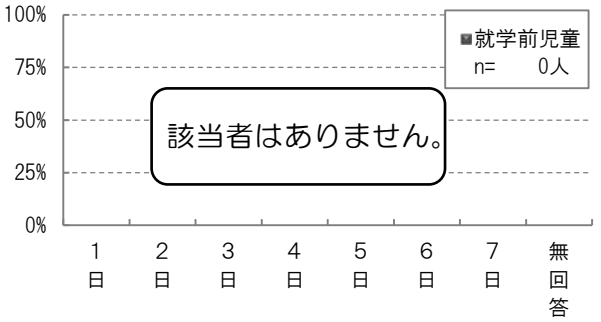
放課後児童クラブ



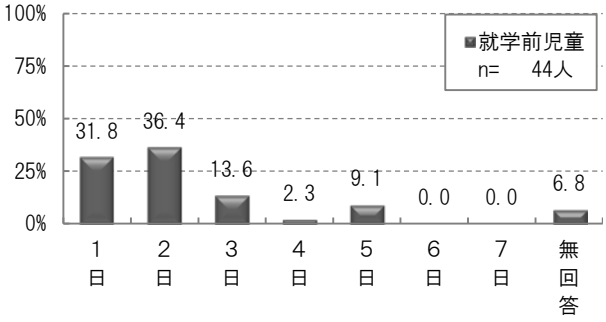


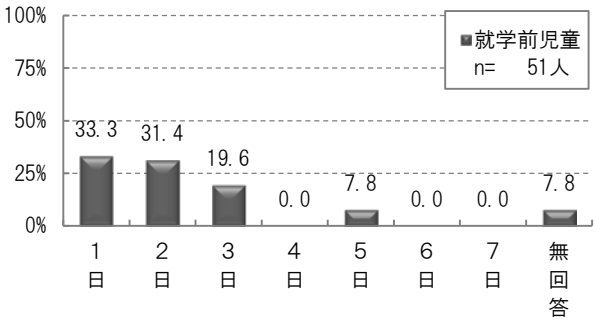
ファミリー・サポート・センター





その他（公民館、公園など）



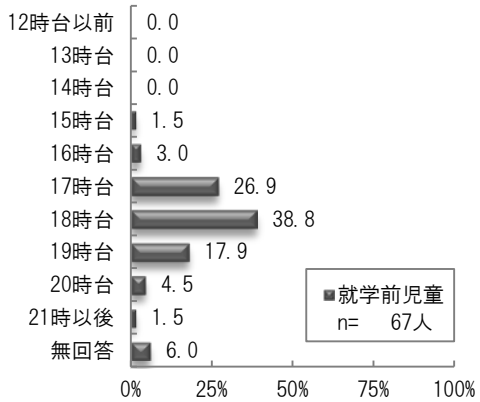


下校時から放課後児童クラブを何時まで利用したいかをみると低学年の時期で「18 時台」（38.8%）、「17 時台」（26.9%）、「19 時台」（17.9%）の順、高学年の時期で「18 時台」（34.1%）、「17 時台」（29.5%）、「19 時台」（15.9%）の順に希望しています。

問 26.6「放課後児童クラブ」を選んだ場合の具体的な利用希望時間（ＮＡ）

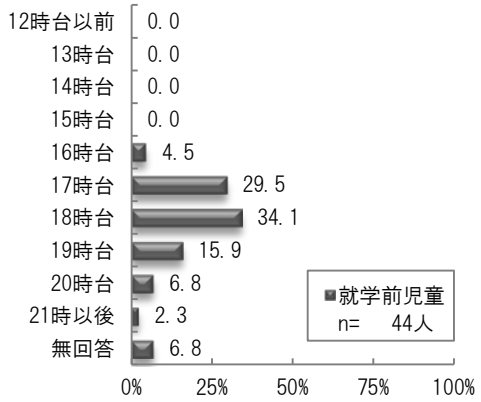
【小学校低学年の時期】

問 26.6.1　下校時からの利用希望時刻



【小学校高学年の時期】

問 27.6.1　下校時からの利用希望時刻

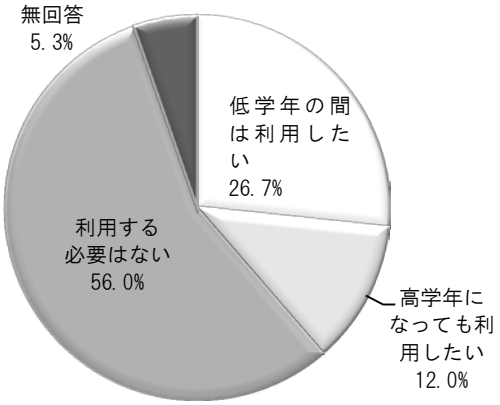


（２）土曜・休日の放課後児童クラブ利用について

放課後児童クラブの土曜・休日の利用希望をみると「低学年の間は利用したい」（土曜 26.7%・休日 14.7%）、「高学年になっても利用したい」（土曜 12.0%・休日 8.0%）、「利用する必要はない」（土曜 56.0%・休日 72.0%）となっています。

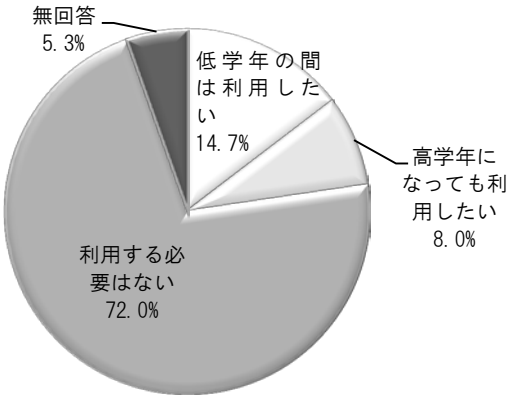
土曜日の希望利用開始時刻は、「8 時台」（37.9%）が最も多く、希望利用終了時刻では「18 時台」（31.0%）、休日の希望利用開始時刻は、「8 時台」（47.1%）が最も多く、希望利用終了時刻では「18 時台」（29.4%）が多くなっています。

問 28(1)　土曜日の利用希望（ＳＡ）



就学前児童
n=　75人

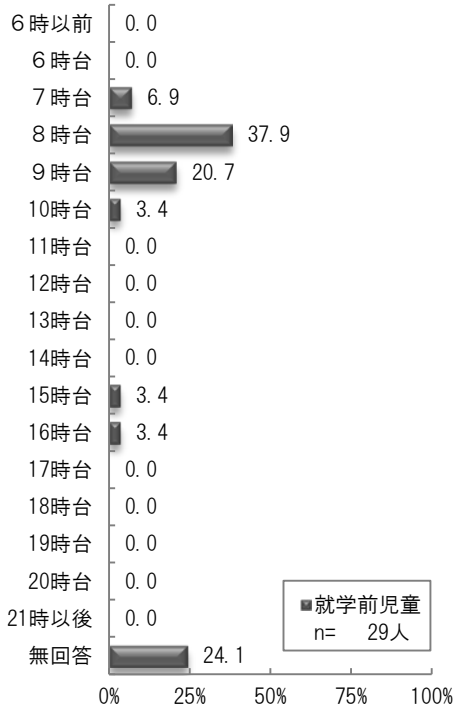
問 28(2)　日曜・祝日の利用希望（ＳＡ）



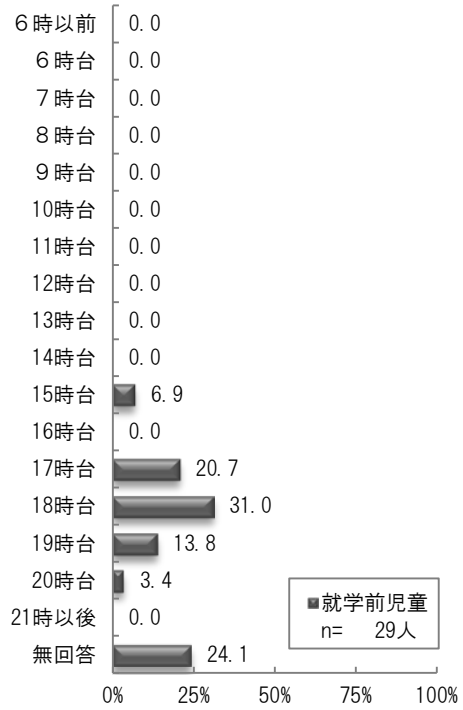
就学前児童
n=　75人

（ＮＡ）

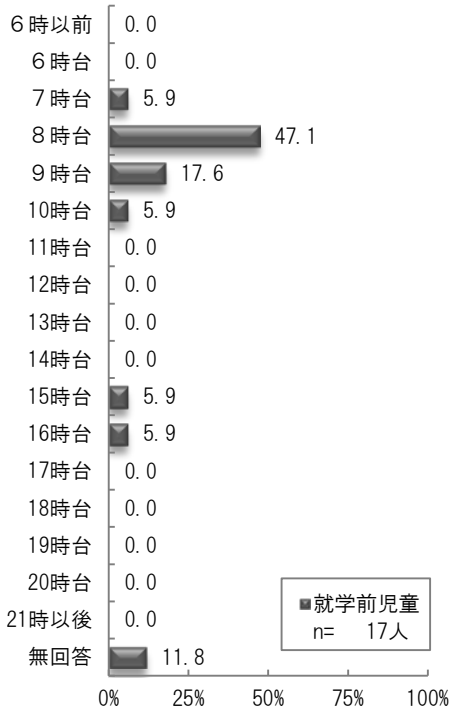
問 28(1).1　土曜日の希望利用開始時間



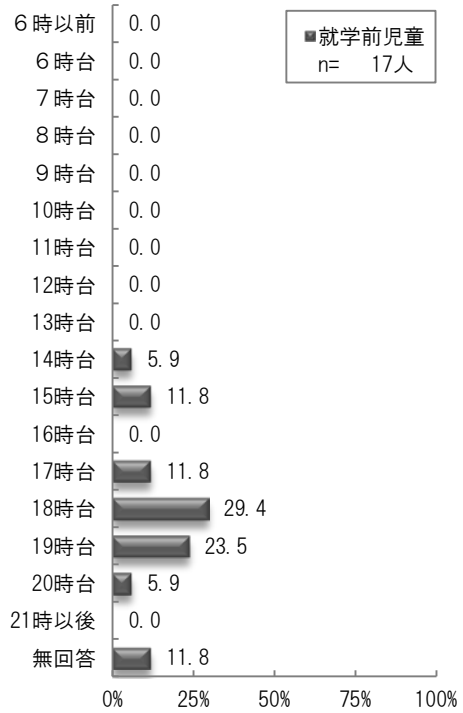
問 28(1).2　土曜日の希望利用終了時間



問 28(2).1 日曜・祝日の希望利用開始時間



問 28(2).2 日曜・祝日の希望利用終了時間

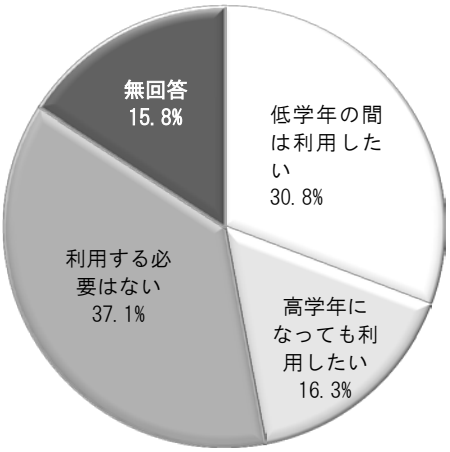


（３）長期休暇期間中の放課後児童クラブ利用について

長期休暇中の利用希望をみると「低学年の間は利用したい」（30.8%）、「高学年になっても利用したい」（16.3%）、「利用する必要はない」（37.1%）となっています。

希望利用開始時刻は、「８時台」（54.8%）が最も多く、希望利用終了時刻は「18時台」（34.6%）が最も多くなっています。

問 29　長期休暇中の利用希望（ＳＡ）



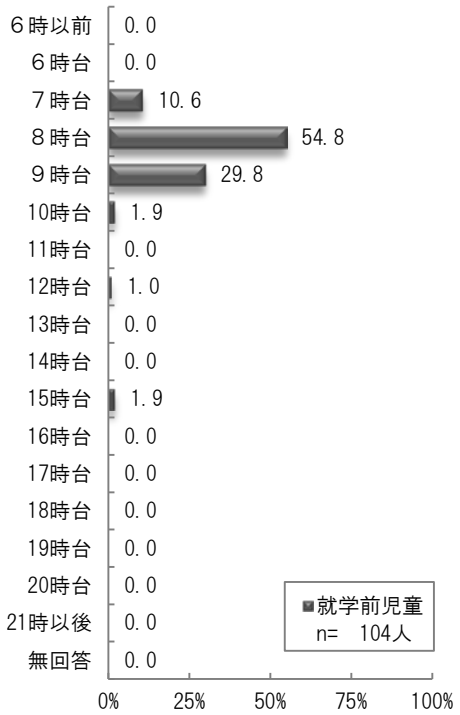
就学前児童
n=　221人

問29（利用希望）　夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望　　上段：人／下段：%

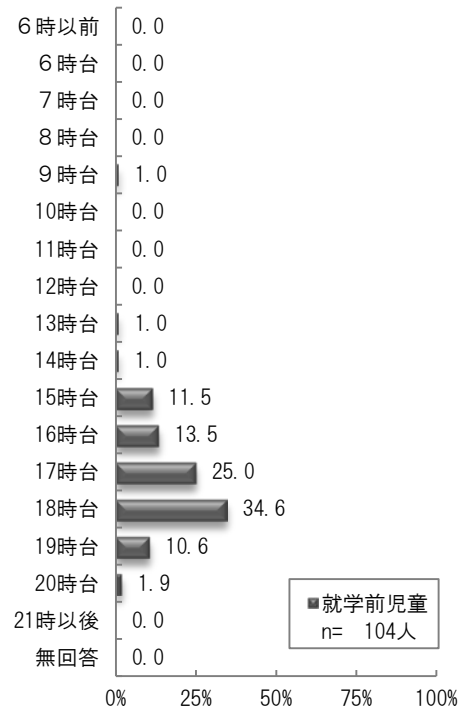
	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川富岡地区	その他	無回答
対象者	221	56	73	48	13	13	14	3	1
低学年（1～3年生）の間は利用したい	68	14	23	14	4	3	10	0	0
	30.8	25.0	31.5	29.2	30.8	23.1	71.4	0.0	0.0
高学年（4～6年生）になっても利用したい	36	10	13	9	2	1	1	0	0
	16.3	17.9	17.8	18.8	15.4	7.7	7.1	0.0	0.0
利用する必要はない	82	24	27	15	7	5	3	1	0
	37.1	42.9	37.0	31.3	53.8	38.5	21.4	33.3	0.0
無回答	35	8	10	10	0	4	0	2	1
	15.8	14.3	13.7	20.8	0.0	30.8	0.0	66.7	100.0

（ＮＡ）

問 29.1　長期休暇中の希望利用開始時間



問 29.2　長期休暇中の希望利用終了時間



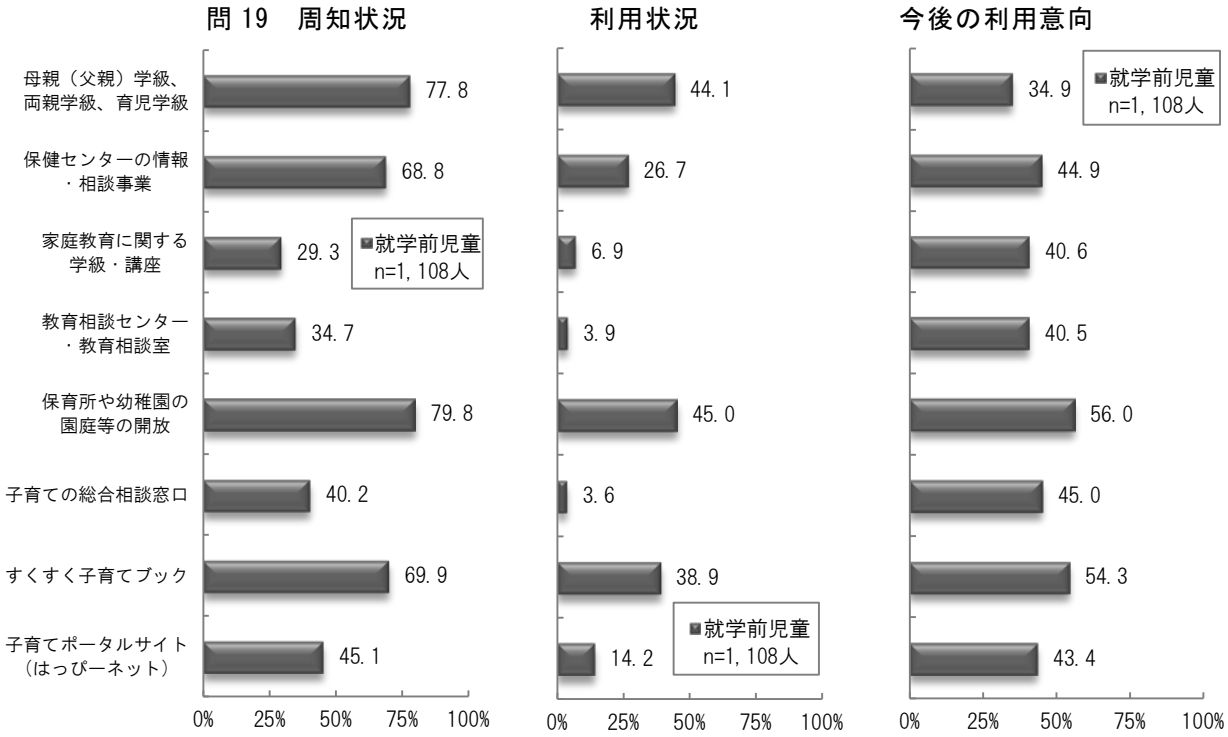
4　子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について

子育て支援事業の周知度をみると、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」（79.8%）「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」（77.8%）、「すくすく子育てブック」（69.9%）、「保健センターの情報・相談事業」（68.8%）が上位を占めているものの、「家庭教育に関する学級・講座」（29.3%）、「教育相談センター・教育相談室」（34.7%）、「子育て総合相談窓口」（40.2%）の周知度は低くなっています。

周知度が高く利用が多い事業は、「保育所や幼稚園の園庭等の解放」（45.0%）、「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」（44.1%）があげられます。

また、今後の利用希望が多い事業は、「保育所や幼稚園の園庭等の解放」（56.0%）、「すくすく子育てブック」（54.3%）で５割を超えています。

（ＭＡ）



第 4 章
育児休業制度の利用状況

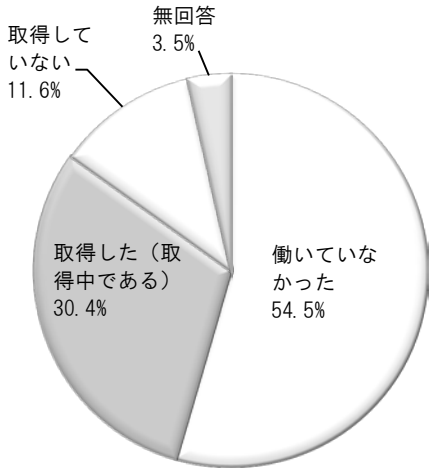
第４章　育児休業制度の利用状況

１　育児休業制度の利用状況

育児休業制度の利用状況をみると、母親は「取得した（取得中である）」（30.4％）に対して、父親は「取得した（取得中である）」（3.2％）となり、父親が取得することの難しさが伺えます。

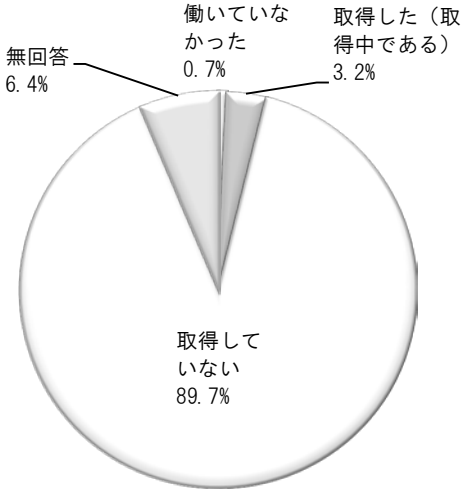
問 30　育児休業制度の利用状況（ＳＡ）

母親



就学前児童
n=1,108人

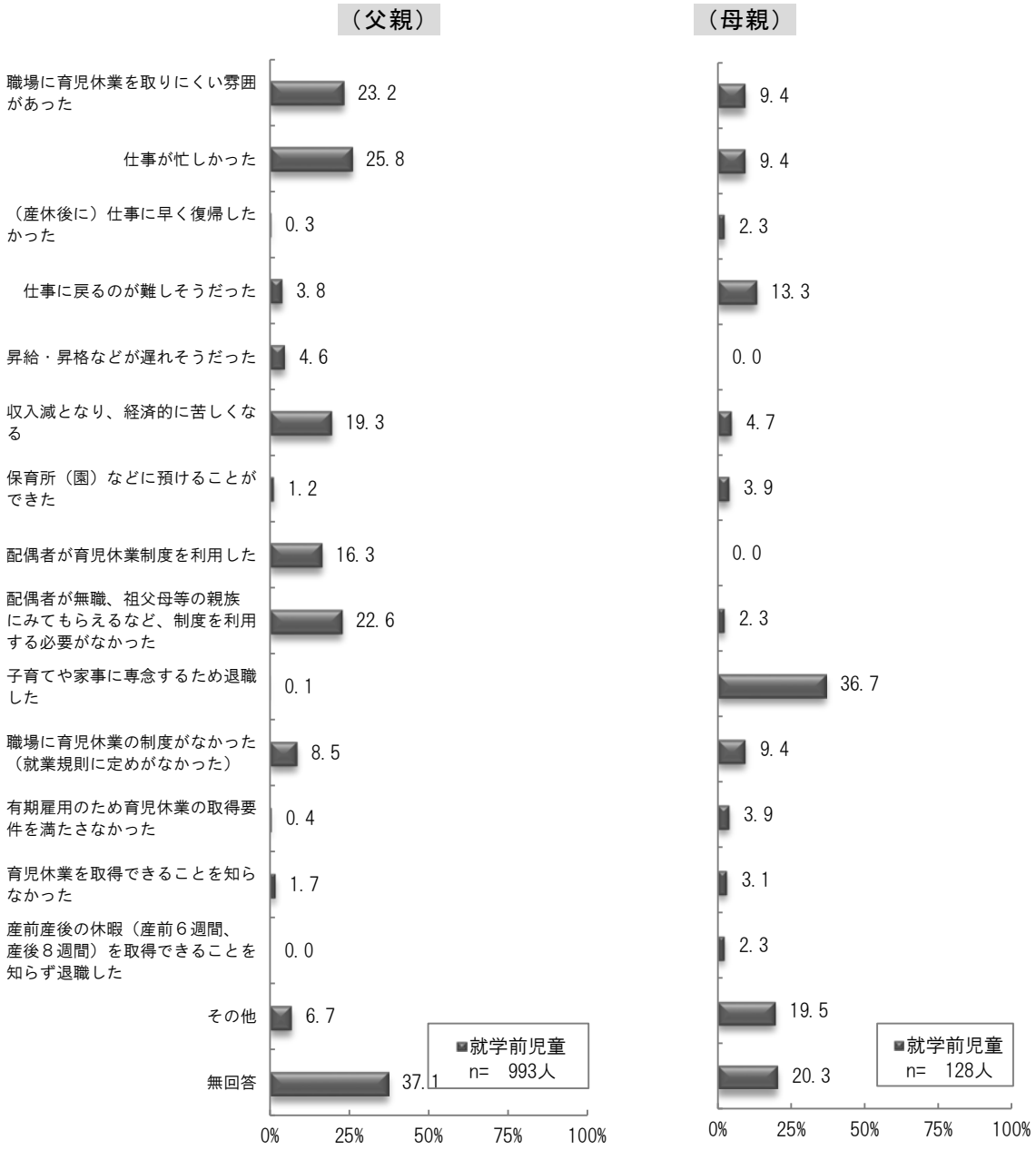
父親



就学前児童
n=1,108人

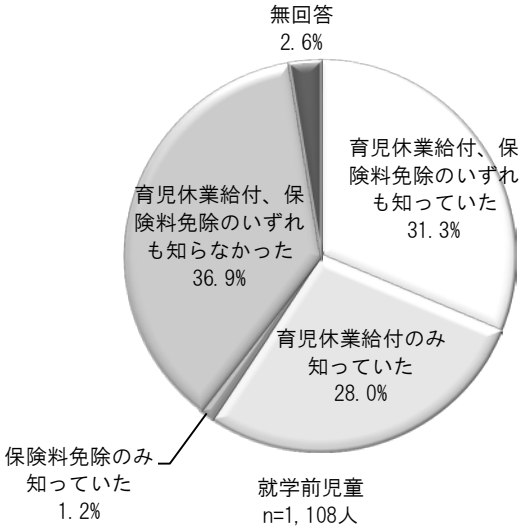
また、育児休業を利用しない理由について、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」（36.7%）、「仕事に戻るのが難しそうだった」（13.3%）、の順となり、一方父親は、「仕事が忙しかった」（25.8%）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（23.2%）、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」（22.6%）など、母親の理由との違いが見られます。

問 30.3　育児休業を利用しない理由（ＭＡ）



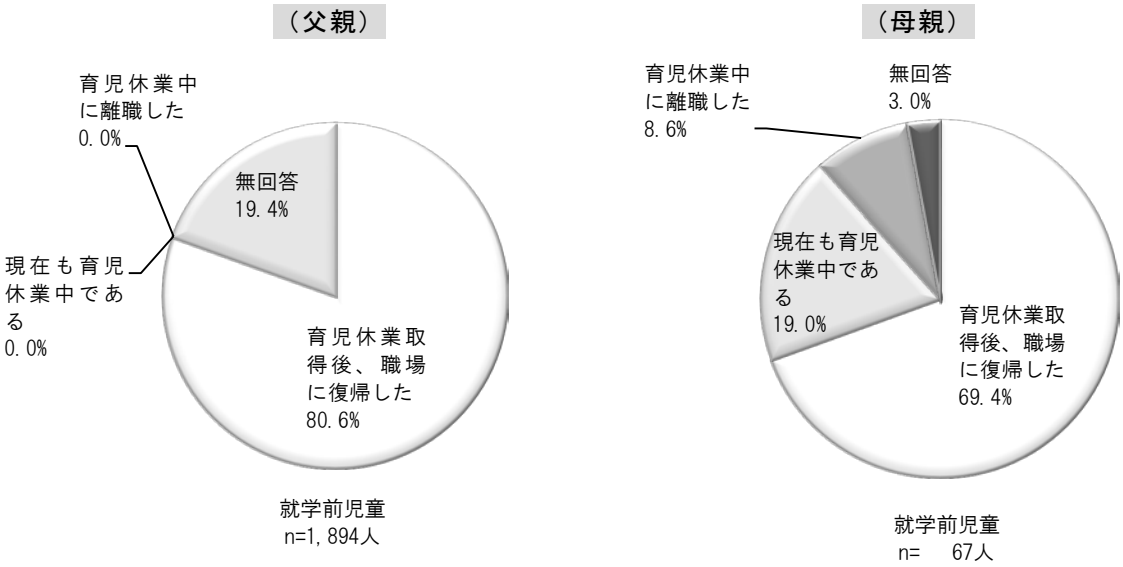
育児休業給付と社会保険料免除の仕組みの認知状況をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」（31.3%）、「育児休業給付のみを知っていた」（28.0%）、「保険料免除のみを知っていた」（1.2%）となっている一方、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」（36.9%）となっています。

問 30-1　育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みを知っている（ＳＡ）



育児休業取得後の対処をみると、母親は「育児休業取得後、職場に復帰した」（69.4%）、「現在も育児休業中である」（19.0%）、「育児休業中に離職した」（8.6%）となっています。一方父親は、「育児休業取得後、職場に復帰した」（80.6%）、「現在も育児休業中である」「育児休業中に離職した」方はいませんでした。

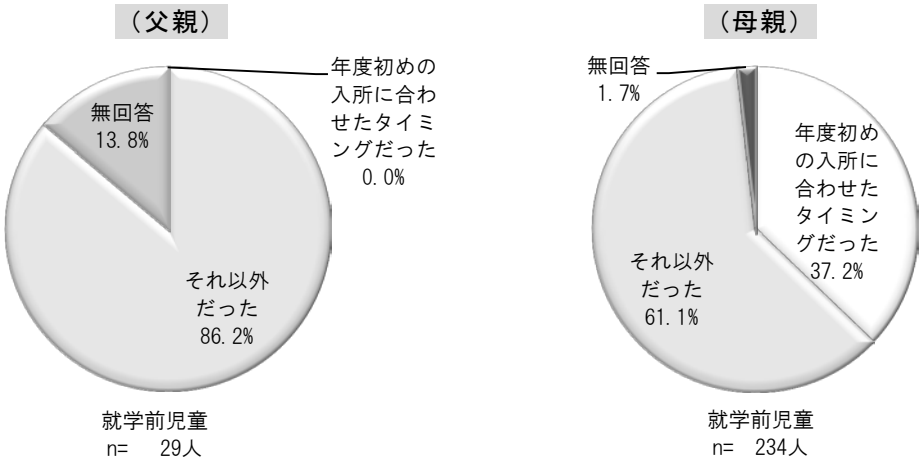
問 30-2　育児休業後の対処（ＳＡ）



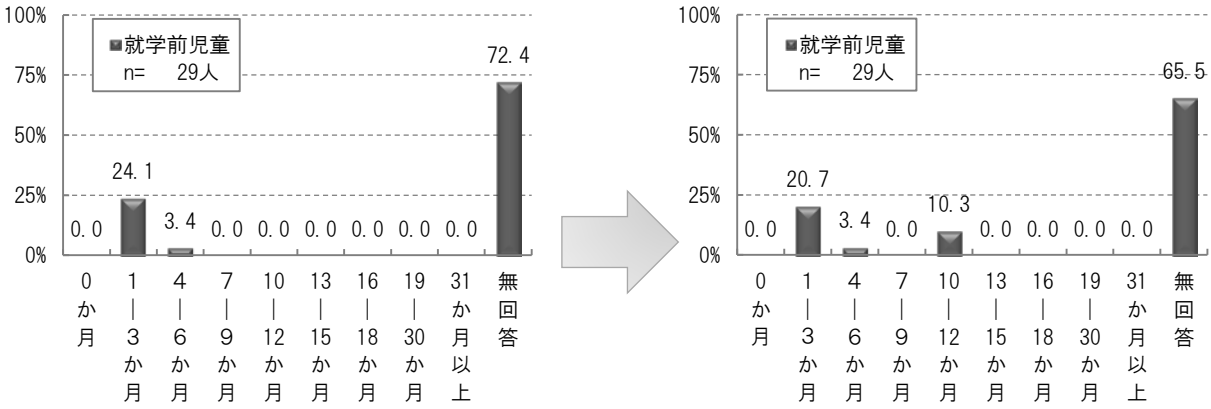
育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、母親は「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」（37.2%）、「それ以外だった」（61.1%）、一方父親は、「それ以外だった」（86.2%）となっています。

育児休業から復帰したときの子どもの実際月齢をみると、母親は「10―12 か月」（47.9%）が最も多く、希望する月齢でも「10―12 か月」（34.2%）が最も多くなっています。一方、父親は「１―３か月」（24.1%）が最も多く、希望する月齢でも「１―３か月」（20.7%）が最も多くなっています。

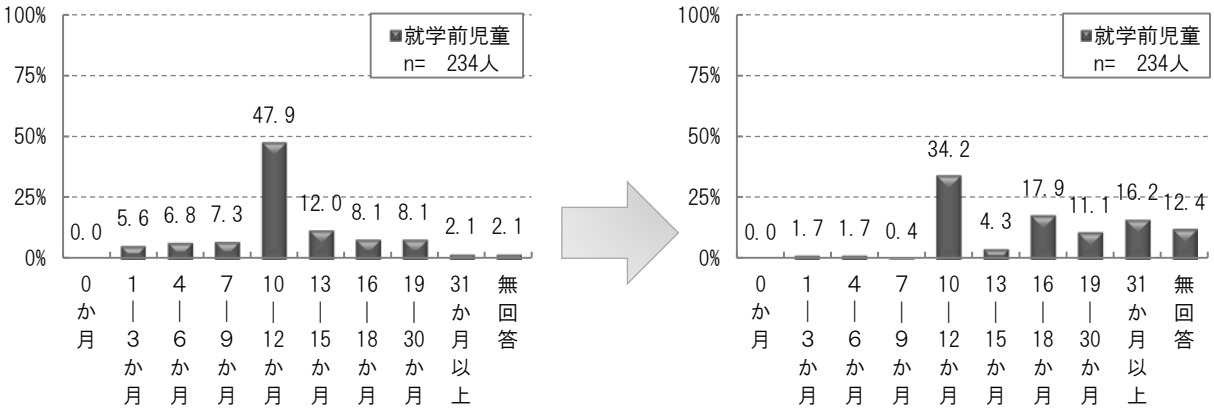
問 30-3　育児休業後に職場へ復帰した時期（ＳＡ）



問 30-4(1)　育児休業から復帰したときの子どもの実際月齢と希望月齢（父親）（ＮＡ）



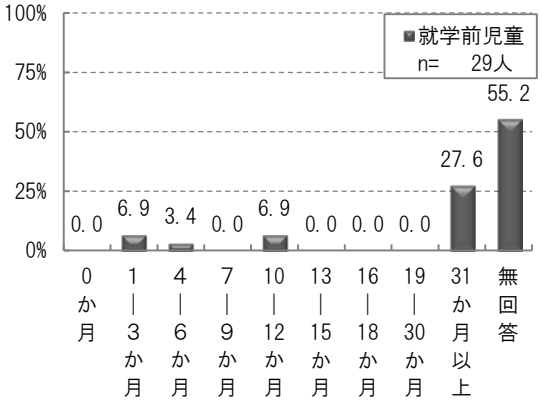
問 30-4(2)　育児休業から復帰したときの子どもの実際月年齢と希望月年齢（母親）



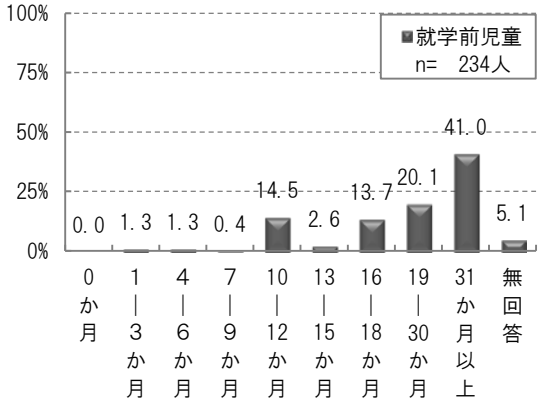
３歳までの育児休業制度があった場合の子どもの希望月齢ついて、母親、父親ともに「31 か月以上」（41.0%）（27.6%）が最も多くなっています。

問 30-5　３歳までの育児休業があった場合の子どもの希望月齢（ＮＡ）

（父親）



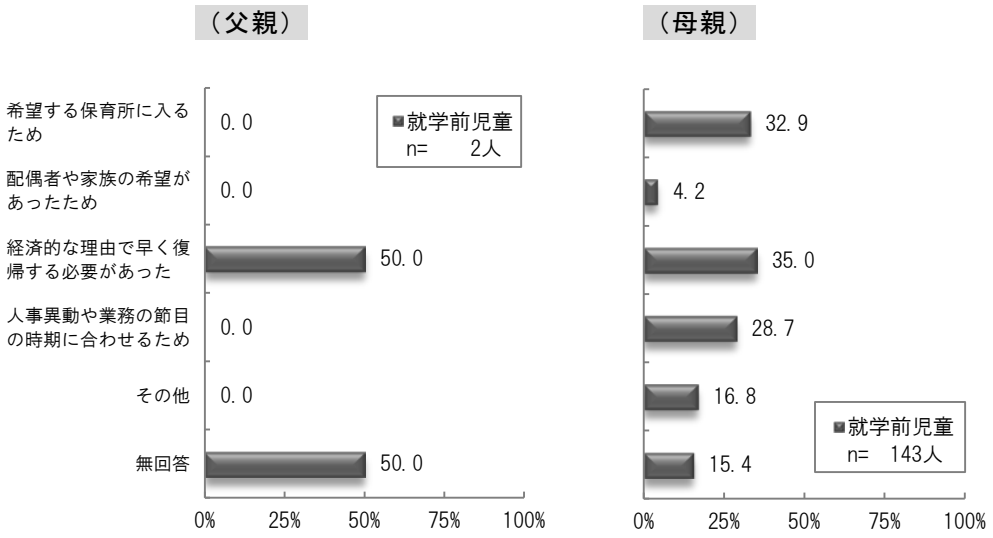
（母親）



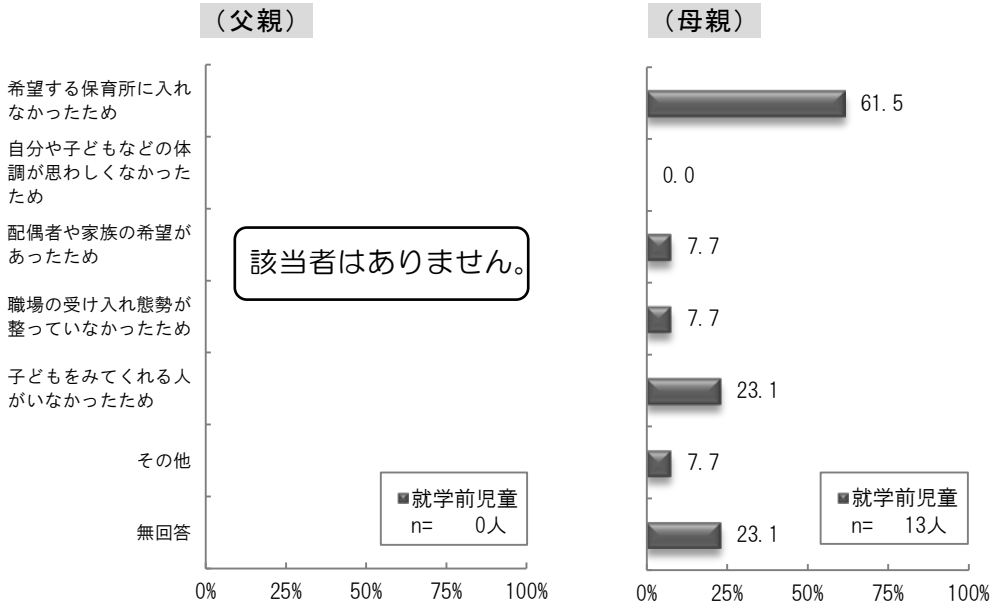
育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由をみると、母親は「経済的な理由で早く復帰する必要があった」（35.0%）、「希望する保育所に入るため」（32.9%）、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」（28.7%）の順となっています。父親は、「経済的な理由で早く復帰する必があった」（50.0%）と同様の理由をあげています。

一方、育児休業から「希望」より遅く職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所に入れなかったため」（61.5%）が最も多くなっています。

問 30-6(1)　育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由（ＭＡ）



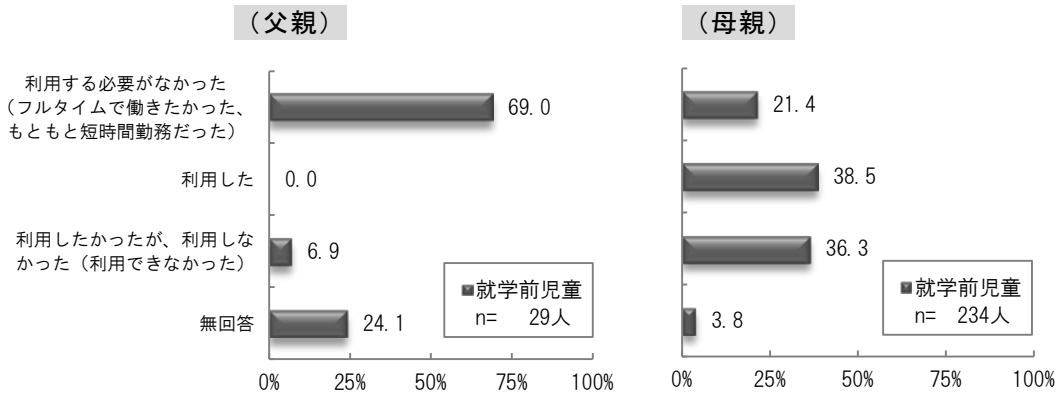
問 30-6(2)　育児休業から「希望」より遅く職場復帰した理由（ＭＡ）



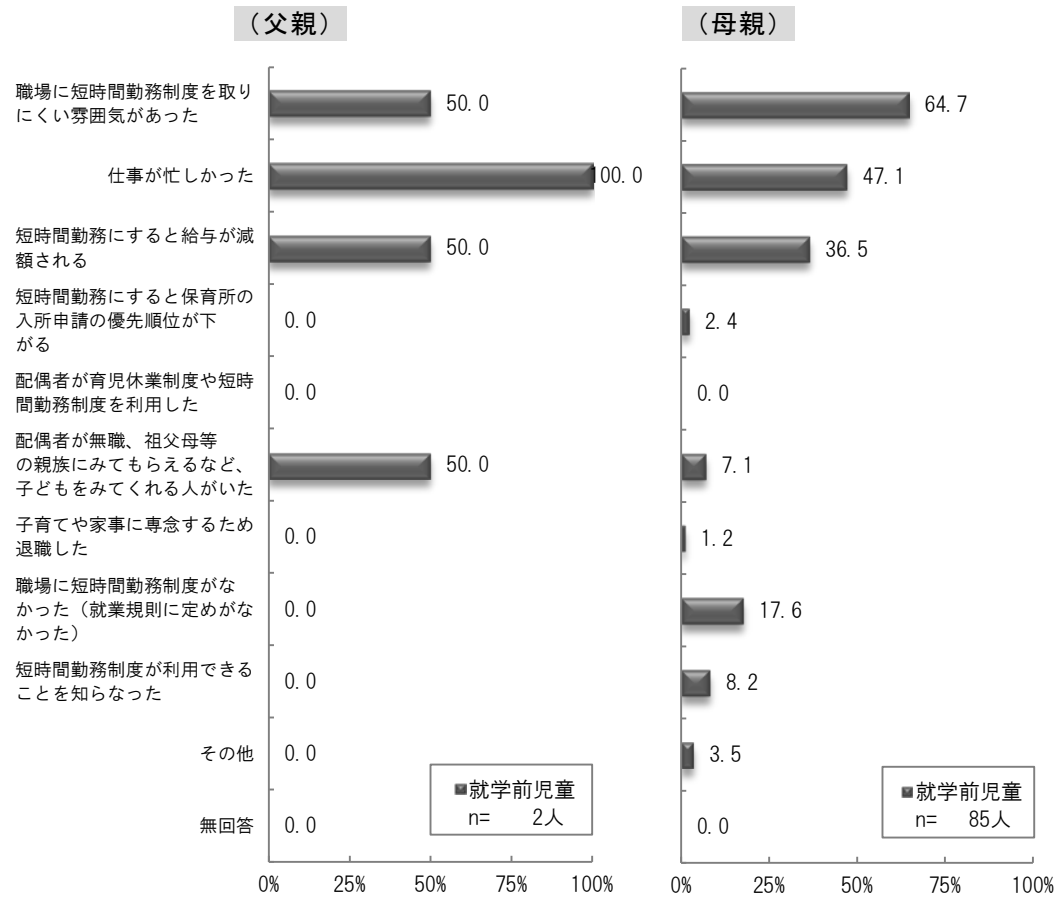
職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親は「利用した」が 38.5%となっています。

職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由をみると、母親は「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」（64.7%）、「仕事が忙しかった」（47.1%）、「短時間勤務になると給与が減額される」（36.5%）の順、父親は「仕事が忙しかった」（100.0%）となっています。

問 30-7　職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況（ＳＡ）



問 30-8　職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由（ＭＡ）



１歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望をみると、母親は「1 歳になるまで育児休業を取得したい」が９割以上を占めています。

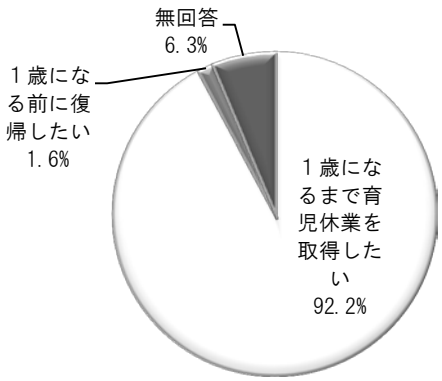
問 30-9　１歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望（ＳＡ）

（父親）

該当者はありません。

就学前児童
n=　0人

（母親）

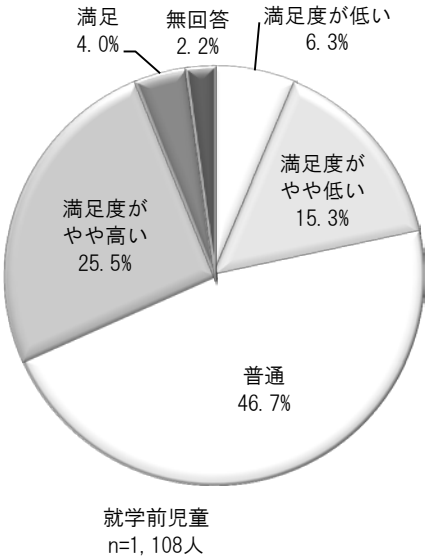


就学前児童
n=　64人

２　地域の子育て支援の環境や支援への満足度

地域の子育て支援の環境や支援に対する満足度の状況について、「普通」と「無回答」を除くと、「満足」と「やや満足」の計が 29.5%、「満足度が低い」と「満足度がやや低い」の計が 21.6%となっています。

問 31　地域の子育て支援の環境や支援への満足度の状況（ＳＡ）



問31　お住まいの地域における子育て環境や支援への満足度　　上段：人／下段：%

	全体	お住まいの地区							
	件	昭和地区	蔵波地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川 富岡地区	その他	無回答
対象者	1,108	355	298	204	81	59	64	35	12
満足度が低い	70	24	20	9	3	7	5	2	0
	6.3	6.8	6.7	4.4	3.7	11.9	7.8	5.7	0.0
満足度がやや低い	170	49	46	35	13	4	11	10	2
	15.3	13.8	15.4	17.2	16.0	6.8	17.2	28.6	16.7
普通	517	178	132	93	36	29	28	14	7
	46.7	50.1	44.3	45.6	44.4	49.2	43.8	40.0	58.3
満足度がやや高い	283	83	84	49	26	13	18	7	3
	25.5	23.4	28.2	24.0	32.1	22.0	28.1	20.0	25.0
満足	44	14	6	15	2	4	2	1	0
	4.0	3.9	2.0	7.4	2.5	6.8	3.1	2.9	0.0
無回答	24	7	10	3	1	2	0	1	0
	2.2	2.0	3.4	1.5	1.2	3.4	0.0	2.9	0.0

資　料　編

調査に使用したニーズ調査票

資　料　編

1　「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査票」の見本

■就学前児童の保護者用

子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査票

お子さんとご家族の状況についてうかがいます。

問1　お住まいの地区はどれになりますか。（あてはまる番号1つに○）

1.昭和地区　2.蔵波地区　3.長浦地区　4.横形地区　5.平岡地区
6.中川・富岡地区　7.その他(不明の場合大字を記入下さい　　)

問2　宛名のお子さんの生年月をご記入ください。　※（□内に数字でご記入ください）

平成 □ 年 □ 月生まれ

問3　宛名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。
※宛名のお子さんを含めた人数を□内に数字で記入してください。
※お子さんが2人以上の場合は、末子の生年月をご記入ください。（□内に数字でご記入ください）

きょうだい数 □ 人　　末子の生年月　平成 □ 年 □ 月生まれ

問4　この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。
（あてはまる番号1つに○）

1．母親　2．父親　3．その他（　　）

問5　この調査票に回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。
（あてはまる番号1つに○）

1．配偶者がいる　2．配偶者はいない

問6　宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。
※お子さんからみた関係でお答えください。（あてはまる番号1つに○）

1．父母ともに　2．主に母親　3．主に父親　4．主に祖父母　5．その他（　　）

問7　宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。
※お子さんからみた関係でお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

1．父母ともに　2．母親　3．父親　4．祖父母　5．幼稚園
6．保育所　7．認定こども園　8．その他（　　）

宛名のお子さんの育ちをめぐる環境についてうかがいます。

問8　宛名のお子さんの子育て（教育を含む）にもっとも影響を与えると思う環境は何ですか。
（あてはまる番号すべてに○）

1．家庭　2．地域　3．幼稚園　4．保育所
5．認定こども園　6．その他（　　）

1

問9　日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。（あてはまる番号すべてに○）

1．日常的に祖父母等の親族にみてもらえる
2．緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる
⇒ **問9-1へ**
3．日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる
4．緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる
⇒ **問9-2へ**
5．いずれもいない　⇒ **問10へ**

問9-1　問9で「1.」または「2.」に○をつけた方にうかがいます。
祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。
（あてはまる番号すべてに○）

1．祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
2．祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である
3．祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である
4．自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい
5．子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある
6．その他（　　）

問9-2　問9で「3.」または「4.」に○をつけた方にうかがいます。
友人・知人に預かってもらっている状況についてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

1．友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
2．友人・知人の身体的負担が大きく心配である
3．友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である
4．自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい
5．子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある
6．その他（　　）

問10　宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所はありますか。（あてはまる番号1つに○）

1．いる／ある　⇒ **問10-1へ**　　2．いない／ない　⇒ **問11へ**

問 10-1　問 10 で「1. いる／ある」に○をつけた方にうかがいます。
お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。
（あてはまる番号すべてに○）

1．祖父母等の親族	2．友人や知人
3．近所の人	4．子育て支援施設（地域子育て支援拠点、児童館等）・NPO
5．保健所・保健センター	6．保育士
7．幼稚園教諭	8．民生委員・児童委員
9．かかりつけの医師	10．自治体の子育て関連担当窓口
11．その他　［　【例】ベビーシッター　］	

問 11　子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

宛名のお子さんの保護者の就労状況についてうかがいます。
※問 12～14 は、父親・母親それぞれについてお答えください。（ひとり親の方は、ご自信に関する設問のみお答えください。）

問 12　宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

父親(当てはまる番号1つに○)	母親(当てはまる番号1つに○)
1．フルタイム（1 週５日程度・１日８時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない	1．フルタイム（1 週５日程度・１日８時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
2．フルタイム（1 週５日程度・１日８時間程度の就労）で就労しているが、育休・介護休業中である	2．フルタイム（1 週５日程度・１日８時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
3．パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない	3．パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
4．パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、育休・介護休業中である	4．パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
5．以前は就労していたが、現在は就労していない	5．以前は就労していたが、現在は就労していない
6．これまで就労したことがない	6．これまで就労したことがない

問 12-1　問 12 で「1．～4．」（就労している）に○をつけた方にうかがいます。
1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」を、□内に数字でご記入ください。
※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
※時間は、必ず（例）08 時～18 時のように、24 時間制でお答えください。

父親	母親
1週当たり □ 日　1日当たり □ 時間	1週当たり □ 日　1日当たり □ 時間

問 12-2　問 12 で「1．～4．」（就労している）に○をつけた方にうかがいます。
家を出る時刻と帰宅時刻を、□内に数字でご記入ください。
※就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
※時間は、必ず（例）08 時～18 時のように、24 時間制でお答えください。

父親	母親
家を出る時刻 □ 時	家を出る時刻 □ 時
帰宅する時刻 □ 時	帰宅する時刻 □ 時

問 13　問 12 で「3．4．」（パート・アルバイト等で就労している）に○をつけた方にうかがいます。
⇒該当しない方は、問 14 へ

フルタイムへの転換希望はありますか。（あてはまる番号1つに○）

父　親	母　親
1．フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある	1．フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある
2．フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない	2．フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない
3．パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望	3．パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望
4．パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）をやめて子育てや家事に専念したい	4．パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）をやめて子育てや家事に専念したい

問 14　問 12 で「5．以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6．これまで就労したことがない」に○をつけた方にうかがいます。　⇒該当しない方は、問 15 へ

就労したいという希望はありますか。（あてはまる番号・丸数字それぞれ1つに○）

※該当する□内には数字をご記入ください。

父　親	母　親
1．子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）	1．子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
2．1年より先、一番下の子どもが □ 歳になったころに就労したい	2．1年より先、一番下の子どもが □ 歳になったころに就労したい
3．すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい →希望する就労形態 ① フルタイム （1週5日程度・1日8時間程度の就労） ② パートタイム・アルバイト等（①以外） →週 □ 日　1日 □ 時間	3．すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい →希望する就労形態 ① フルタイム （1週5日程度・1日8時間程度の就労） ② パートタイム・アルバイト等（①以外） →週 □ 日　1日 □ 時間

宛名のお子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況についてうかがいます。

※ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指します。具体的には、幼稚園や保育所など、問 15-1 に示した事業が含まれます。

問 15　宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」を利用されていますか。（あてはまる番号1つに○）

1．利用している　⇒ **問 15-1 へ**	2．利用していない　⇒ **問 15-5 へ**

問 15-1　問 15-1～問 15-4 は、問 15 で「1．利用している」に○をつけた方にうかがいます。

宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。

※年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

1．幼稚園 （通常の就園時間の利用）	2．幼稚園の預かり保育 （通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）
3．認可保育所 （国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）	4．家庭的保育(保育ママ) （保育者の家庭等で子どもを預かる事業）
5．事業所内保育施設 （企業が主に従業員用に運営する施設）	6．その他認可外の保育施設
7．居宅訪問型保育 （ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）	8．ファミリー・サポート・センター （地域住民が子どもを預かる事業）
9．その他（　　）	

問 15-2　平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。
また、希望としてはどのくらい利用したいですか。
※１週当たり何日、１日当たり何時間（何時から何時まで）かを、□内に数字でご記入ください。
※時間は、必ず（例）08 時～18 時のように 24 時間体制でご記入ください。
※２つ以上回答された方は、若い番号の事業についてお答えください。

（1）現在

１週当たり	□	日	１日当たり	□	時間（	□	時～ □ 時まで）

（2）希望

１週当たり	□	日	１日当たり	□	時間（	□	時～ □ 時まで）

問 15-3　現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてうかがいます。
（あてはまる番号１つに○）

１．袖ケ浦市内	２．他の市区町村

問 15-4　平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由は何ですか。
（あてはまる番号すべてに○）

１．子どもの教育や発達のため
２．子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している
３．子育て（教育を含む）をしている方が就労予定がある／求職中である
４．子育て（教育を含む）をしている方が家族・親族などを介護している
５．子育て（教育を含む）をしている方が病気や障害がある
６．子育て（教育を含む）をしている方が学生である
７．その他（

問 15-5　問 15 で「２．利用していない」に○をつけた方にうかがいます。
利用していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）
※「８．」に○をつけた場合は、年齢を□内に数字でご記入ください。

１．（子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で）
　利用する必要がない
２．子どもの祖父母や親戚の人がみている
３．近所の人や父母の友人・知人がみている
４．利用したいが、保育・教育の事業に空きがない
５．利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない
６．利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない
７．利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない
８．子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）
９．その他（　　）

問 16　すべての方にうかがいます。

現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育事業として、「定期的に」利用したいと考える事業はどれですか。（あてはまる番号すべてに○）

※なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。認可保育所の場合、世帯収入に応じた利用料が設定されています。

1．幼稚園
（通常の就園時間の利用）
〔利用料：月額6,000円～30,000円〕

2．幼稚園の預かり保育
（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）
幼稚園によって異なります。

3．認可保育所
（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの）
〔利用料：月額0円～53,000円〕

4．認定こども園
（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）
現在、袖ケ浦市にはありません

5．小規模な保育施設
（国が定める最低基準に適合した施設で市町村の認可を受けた定員概ね6～19人のもの）
現在、袖ケ浦市にはありません

6．家庭的保育
（保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業）
〔利用料：月額0円～47,000円〕

7．事業所内保育施設
（企業が主に従業員用に運営する施設）
〔利用料：月額10,000円～30,000円〕
〔利用料：日額　600円～1,400円〕

8．ファミリー・サポート・センター
（地域住民が子どもを預かる事業）
〔利用料：1時間700円～900円〕

9．その他（　　）

問 16-1　教育・保育事業を利用したい場所についてうかがいます。（あてはまる番号1つに○）

1．袖ケ浦市内　　2．他の市区町村

宛名のお子さんの地域の子育て支援事業の利用状況についてうかがいます。

問 17　宛名のお子さんとご一緒に、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「つどいの広場」「子育て支援センター」等と呼ばれています）を利用していますか。（次の中から、利用されているものすべてに○をつけてください。）

※おおよその利用回数（頻度）を□内に数字でご記入ください。

1．地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）

1週当たり □回　もしくは　1ヶ月当たり □回　程度

2．その他当該自治体で実施している類似の事業（具体名：　　）

1週当たり □回　もしくは　1ヶ月当たり □回　程度

3．利用していない

問 18　問 17 のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないができれば利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）
※おおよその利用回数（頻度）を□内に数字でご記入ください。

1．利用していないが利用したい

　1週当たり □回　もしくは　1ヶ月当たり □回　程度

2．すでに利用しているが利用日数を増やしたい

　1週当たり　更に □回　もしくは　1ヶ月当たり　更に □回　程度

3．新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない

問 19　下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。
※①～⑧の事業ごと、A～Cのそれぞれに「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。
※なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

	A 知っている	B これまでに利用したことがある	C 今後利用したい
①母親（父親）学級、両親学級、育児学級	はい　いいえ	はい　いいえ	はい　いいえ
②保健センターの情報・相談事業	はい　いいえ	はい　いいえ	はい　いいえ
③家庭教育に関する学級・講座	はい　いいえ	はい　いいえ	はい　いいえ
④教育相談センター・教育相談室	はい　いいえ	はい　いいえ	はい　いいえ
⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放	はい　いいえ	はい　いいえ	はい　いいえ
⑥子育ての総合相談窓口	はい　いいえ	はい　いいえ	はい　いいえ
⑦すくすく子育てブック	はい　いいえ	はい　いいえ	はい　いいえ
⑧子育てポータルサイト（はっぴーネット）	はい　いいえ	はい　いいえ	はい　いいえ

宛名のお子さんの土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望についてうかがいます。

問 20　宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。

※希望がある場合は、利用したい時間帯を、□内に数字でご記入ください。（例）08 時～18 時のように 24 時間制でご記入ください。

※なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

※教育・保育事業とは、幼稚園、保育所、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。

土曜日	日曜・祝日
1．利用する必要はない	1．利用する必要はない
2．ほぼ毎週利用したい	2．ほぼ毎週利用したい
3．月に1～2回は利用したい	3．月に1～2回は利用したい
利用したい時間帯 □時から □時まで	利用したい時間帯 □時から □時まで

問 20-1　問 20 で、「3．月に 1 ～ 2 回は利用したい」に○をつけた方にうかがいます。毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．月に数回仕事が入るため	2．平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため
3．親族の介護や手伝いが必要なため	4．息抜きのため
5．その他（　　）	

問 21　「幼稚園」を利用されている方にうかがいます。

宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用を希望しますか。

※希望がある場合は、利用したい時間帯を、□内に数字でご記入ください。（例）08 時～18 時のように 24 時間制でご記入ください。

※なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

1．利用する必要はない
2．休みの期間中、ほぼ毎日利用したい
3．休みの期間中、週に数日利用したい

⇨ 利用したい時間帯
□時から □時まで

問 21-1　問 21 で「3．週に数日利用したい」に○をつけた方にうかがいます。
毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．週に数回仕事が入るため	2．買い物等の用事をまとめて済ませるため
3．親等親族の介護や手伝いが必要なため	4．息抜きのため
5．その他（　　）	

宛名のお子さんの病気の際の対応についてうかがいます。
（平日の教育・保育を利用する方のみ）

問 22　平日の定期的な教育・保育事業を利用していると答えた保護者の方（問 15 で「1．」に○をつけた方）にうかがいます。　⇒ **利用されていない方は、問 23 へ**

この１年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。
（あてはまる番号１つに○）

1．あった	⇒ **問 22-1 へ**	2．なかった	⇒ **問 23 へ**

問 22-1　**宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育事業が利用できなかった場合に、この１年間に行った対処方法はどれになりますか。**（あてはまる番号すべてに○）
※それぞれの日数も□内に数字でご記入ください。（半日程度の場合も１日と数えます）

１年間の対処方法	日数
1．就労していない保護者がみた	□日
2．病児・病後児の保育を利用した	□日
3．父親が仕事を休んでみた	□日
4．母親が仕事を休んでみた	□日
5．（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった	□日
6．仕方なく子どもだけで留守番をさせた	□日
7．ファミリーサポートセンターを利用した	□日
8．その他（　　）	□日

問 22-2　**問 22-1 で「1．」「2．」「6．」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。**
その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。
（あてはまる番号１つに○）
※日数についても□内に数字でご記入ください。
※なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

1．できれば病児・病後児保育施設等を利用したい ⇒	□日	⇒ **問 22-3 へ**
2．利用したいとは思わない		⇒ **問 22-4 へ**

問 22-3　問 22-2 で「1．できれば病児・病後児保育施設を利用したい」に○をつけた方にうかがいます。
上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。
（あてはまる番号すべてに○）

1．他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業
2．小児科に併設した施設で子どもを保育する事業
3．地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業（例：ファミリー・サポート・センター等）
4．その他（　　）

⇒ **問 23 へ**

問 22-4　問 22-2 で「2．利用したいと思わない」に○をつけた方にうかがいます。
そう思われる理由はなんですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．病児・病後児を他人に看てもらうのは不安　　2．地域の事業の質に不安がある
3．地域の事業の利便性（立地や利用可能時間・日数など）がよくない
4．利用料がかかる・高い　　5．利用料がわからない
6．親が仕事を休んで対応する　　7．その他（　　）

問 22-5　問 22-1 で「3．～7．」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。
その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。
（あてはまる番号1つに○）
※「3．～7．」の日数のうち仕事を休んで看たかった日数を□内に数字でご記入ください。

1．できれば仕事を休んで看たい　⇒　□　日　　⇒ **問 23 へ**
2．休んで看ることは非常に難しい　　⇒ **問 22-6 へ**

問 22-6　問 22-5 で「2．休んで看ることは非常に難しい」に○をつけた方にうかがいます。
そう思われる理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．子どもの看護を理由に休みがとれない　　2．自営業なので休めない
3．休暇日数が足りないので休めない　　4．その他（　　）

宛名のお子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用についてうかがいます。

問 23　宛名のお子さんについて、平日の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。（あてはまる番号すべてに○）
※１年間の利用日数（おおよそ）も□内に数字でご記入ください。

利用している事業・日数（年間）		
1．一時預かり （私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）	□ 日	問 24 へ
2．幼稚園の預かり保育 （通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）	□ 日	
3．ファミリー・サポート・センター （地域住民が子どもを預かる事業）	□ 日	
4．夜間養護等事業：トワイライトステイ （児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業）	□ 日	
5．ベビーシッター	□ 日	
6．その他（　　）	□ 日	
7．利用していない		

問 23-1　問 23 で「7．利用していない」に○をつけた方にうかがいます。
現在利用していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．特に利用する必要がない	2．利用したい事業が地域にない
3．地域の事業の質に不安がある	4．地域の事業の利便性（立地や利用可能時間・日数など）がよくない
5．利用料がかかる・高い	6．利用料がわからない
7．自分が事業の対象者になるのかどうかわからない	8．事業の利用方法（手続き等）がわからない
9．その他（　　）	

問 24　宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無・日数をお答えください。
（あてはまる番号・丸数字すべてに○）
※利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を□内に数字でご記入ください。

1．利用したい	計 □ 日	問 24-1 へ
① 私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的	□ 日	
② 冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院　等	□ 日	
③ 不定期の就労	□ 日	
④ その他（　　）	□ 日	
2．利用する必要はない　⇒ **問 25 へ**		

12

問 24-1　問 24 で「1．利用したい」に○をつけた方にうかがいます。
問 24 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。
（あてはまる番号すべてに○）

1、大規模施設で子どもを預かる事業（例：幼稚園・保育所等）
2．小規模施設で子どもを預かる事業（例：地域子育て支援拠点等）
3、地域住民等が子育て家庭等近くの場所で保育する事業（例：ファミリー・サポート・センター等）
4．その他（　　）

問 25　この 1 年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。（あてはまる番号・丸数字すべてに○）
※それぞれの日数も□内に数字でご記入ください。

	1 年間の対処方法	日数
1、あった	①　（同居者を含む）親族・知人にみてもらった	□泊
	②　短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）	□泊
	③　②以外の保育事業（認可外保育施設、ベビーシッター等）を利用した	□泊
	④　仕方なく子どもを同行させた	□泊
	⑤　仕方なく子どもだけで留守番をさせた	□泊
	⑥　その他（　　）	□泊
2、なかった		

問 25-1　問 25 で「1．あった　①　（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」と答えた方にうかがいます。　**⇒「1．以外」を選択した方は、問 26 へ**
その場合の困難度はどの程度でしたか。（あてはまる番号 1 つに○）

1、非常に困難	2．どちらかというと困難	3．特に困難ではない

宛名のお子さんが5歳以上の方に、放課後の過ごしの希望をうかがいます。

⇒ 5歳未満の方は、問30へ

問26　宛名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

※それぞれ該当する週当たり日数を□内に数字でご記入ください。

※「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間も□内に数字でご記入ください。
保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。事業の利用にあたっては、一定の利用料〔利用料：13,000円〕がかかります。

1．自宅	週 □ 日くらい	
2．祖父母宅や友人・知人宅	週 □ 日くらい	
3．塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	週 □ 日くらい	
4．児童館	週 □ 日くらい	
5．放課後子ども教室※1	週 □ 日くらい	
6．放課後児童クラブ（学童保育）	週 □ 日くらい	→下校時から □ 時まで
7．ファミリー・サポート・センター	週 □ 日くらい	
8．その他（公民館、公園など）	週 □ 日くらい	

※1　「放課後子ども教室」・・・地域の方々の協力を得て、放課後に小学校で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取組です。保護者の就労の有無に関わらず、すべての小学生が利用できます。

問 27　宛名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）
※それぞれ該当する週当たり日数を□内に数字でご記入ください。
※「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間も□内に数字でご記入ください。
※だいぶ先のことになりますが、現在お持ちのイメージでお答えください。

1．自宅	週 □ 日くらい			
2．祖父母宅や友人・知人宅	週 □ 日くらい			
3．塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	週 □ 日くらい			
4．児童館	週 □ 日くらい			
5．放課後子ども教室	週 □ 日くらい			
6．放課後児童クラブ（学童保育）	週 □ 日くらい	一下校時から	□	時まで
7．ファミリー・サポート・センター	週 □ 日くらい			
8．その他（公民館、公園など）	週 □ 日くらい			

問 28　問 26 または問 27 で「6．放課後児童クラブ（学童保育）」に○をつけた方にうかがいます。
宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。
（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）
※事業の利用には一定の利用料がかかります。
※利用したい時間帯を□内に数字でご記入ください。（例）08 時～18 時のように 24 時間制でご記入ください。

土曜日	日曜・祝日
1．低学年（1～3年生）の間は利用したい	1．低学年（1～3年生）の間は利用したい
2．高学年（4～6年生）になっても利用したい 1,2 の利用したい時間帯 □ 時から □ 時まで	2．高学年（4～6年生）になっても利用したい 1,2 の利用したい時間帯 □ 時から □ 時まで
3．利用する必要はない	3．利用する必要はない

問 29　宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。（あてはまる番号1つに○）
※事業の利用には一定の利用料がかかります。
※利用したい時間帯を□内に数字でご記入ください。（例）08 時～18 時 のように 24 時間制でご記入ください。

1．低学年（1～3年生）の間は利用したい 2．高学年（4～6年生）になっても利用したい	⇨ 利用したい時間帯 □ 時から □ 時まで
3．利用する必要はない	

育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度についてうかがいます。

問 30　宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。
（母親、父親それぞれについて、あてはまる番号1つに○）
※取得していない方はその理由をご記入ください。

父親（いずれかに○）	母親（いずれかに○）
1．働いていなかった	1．働いていなかった
2．取得した（取得中である）	2．取得した（取得中である）
3．取得していない	3．取得していない
⇒ **取得していない理由**（下から番号を選んでご記入ください）（いくつでも）	⇒ **取得していない理由**（下から番号を選んでご記入ください）（いくつでも）

1．職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった
2．仕事が忙しかった
3．（産休後に）仕事に早く復帰したかった
4．仕事に戻るのが難しそうだった
5．昇給・昇格などが遅れそうだった
6．収入減となり、経済的に苦しくなる
7．保育所（園）などに預けることができた
8．配偶者が育児休業制度を利用した
9．配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった
10．子育てや家事に専念するため退職した
11．職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）
12．有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった
13．育児休業を取得できることを知らなかった
14．産前産後の休暇（産前6週間、産後8週間）を取得できることを知らず、退職した
15．その他　父親（　　）
　　母親（　　）

問 30-1　子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6月）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。
（あてはまる番号1つに○）

1．育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた
2．育児休業給付のみ知っていた
3．保険料免除のみ知っていた
4．育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった

問30で「2．取得した（取得中である）」と回答した方にうかがいます。

⇒ 該当しない方は、問31へ

問30-2　育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（あてはまる番号1つに○）

父　親	母　親
1．育児休業取得後、職場に復帰した	1．育児休業取得後、職場に復帰した
2．現在も育児休業中である	2．現在も育児休業中である
3．育児休業中に離職した	3．育児休業中に離職した

問30-2で「1．育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問30-3　育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。（どちらか1つに○）

※年度初めでの認可保育所入所を希望して、1月～2月頃復帰して一時的に認可外保育所に入所した場合なども「1.」に当てはまります。

※年度初めでの入所を希望して復帰したが、実際には希望する保育所に入所できなかったという場合も「1.」と回答してください。

父　親	母　親
1．年度初めの入所に合わせたタイミングだった	1．年度初めの入所に合わせたタイミングだった
2．それ以外だった	2．それ以外だった

問30-4　育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

※□内に数字でご記入ください。

父　親		母　親	
実際の取得期間	□歳□ヶ月	実際の取得期間	□歳□ヶ月
希望	□歳□ヶ月	希望	□歳□ヶ月

問30-5　お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

※□内に数字でご記入ください。

父　親	母　親
□歳□ヶ月	□歳□ヶ月

問 30-4 で実際の復帰と希望が異なる方にうかがいます。

問 30-6　希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

（1）「希望」より早く復帰した方（あてはまる番号すべてに○）

父　親	母　親
1．希望する保育所に入るため	1．希望する保育所に入るため
2．配偶者や家族の希望があったため	2．配偶者や家族の希望があったため
3．経済的な理由で早く復帰する必要があった	3．経済的な理由で早く復帰する必要があった
4．人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	4．人事異動や業務の節目の時期に合わせるため
5．その他（　　）	5．その他（　　）

（2）「希望」より遅く復帰した方（あてはまる番号すべてに○）

父　親	母　親
1．希望する保育所に入れなかったため	1．希望する保育所に入れなかったため
2．自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため	2．自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため
3．配偶者や家族の希望があったため	3．配偶者や家族の希望があったため
4．職場の受け入れ態勢が整っていなかったため	4．職場の受け入れ態勢が整っていなかったため
5．子どもをみてくれる人がいなかったため	5．子どもをみてくれる人がいなかったため
6．その他（　　）	6．その他（　　）

問 30-2 で「1．育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問 30-7　育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。
（あてはまる番号 1 つに○）

父　親	母　親
1．利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）	1．利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）
2．利用した	2．利用した
3．利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）	3．利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）

問 30-7 で「3．利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」と回答した方にうかがいます。

問 30-8　短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。
（あてはまる番号すべてに○）

（1）父親

1．職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった
2．仕事が忙しかった
3．短時間勤務にすると給与が減額される
4．短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる
5．配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した
6．配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、子どもをみてくれる人がいた
7．子育てや家事に専念するため退職した
8．職場に短時間勤務制度がなかった（就業規則に定めがなかった）
9．短時間勤務制度を利用できることを知らなかった
10．その他（　　）

（2）母親

1．職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった
2．仕事が忙しかった
3．短時間勤務にすると給与が減額される
4．短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる
5．配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した
6．配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、子どもをみてくれる人がいた
7．子育てや家事に専念するため退職した
8．職場に短時間勤務制度がなかった（就業規則に定めがなかった）
9．短時間勤務制度を利用できることを知らなかった
10．その他（　　）

問 30-2 で「2．現在も育児休業中である」と回答した方にうかがいます。

問 30-9　宛名のお子さんが 1 歳になったときに必ず預けられる事業があれば、1 歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても 1 歳になる前に復帰しますか。
（あてはまる番号1つに○）

父　親	母　親
1．1歳になるまで育児休業を取得したい	1．1歳になるまで育児休業を取得したい
2．1歳になる前に復帰したい	2．1歳になる前に復帰したい

問 31　お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度をお答えください。
（あてはまる番号１つに○）

満足度が低い	←→			満足度が高い
1	2	3	4	5

問 32　最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。
同封の封筒（切手は貼らず）に入れ、１２月１５日までに
郵便ポストへご投函ください。

袖ケ浦市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告書

発行日　平成 26 年３月
発行元　袖ケ浦市福祉部子育て支援課
住　所　〒299-0292　千葉県袖ケ浦市坂戸市場１番地１
連絡先　TEL　0438-62-2111（代表）　FAX　0438-62-3877